

叢書

續

紀

宣

命

評

釋

祝

詞

評

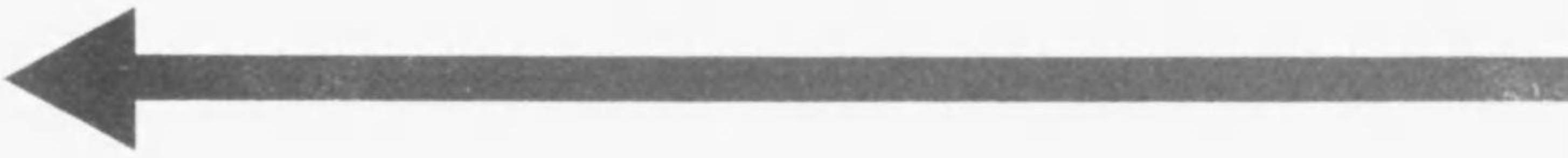
釋

特 259

453

6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

始





稼堂先生

特254
453



評
釋

厭煩投散。樂志忘貧。
著文傳後。好學終身。

右自撰碑銘以代自贊



祝詞評釋緒論

何れの國、何れの世をとはず、その國その世の人々には、皆うるはしき心のある者になんありける。そのうるはしき心に、厚きあり、薄きあり。薄きはいやしくして、しどきとまり、厚きは高くしてすゝみゆく、進みゆく者は、大なる國人となり、退ぞきとまる者は、さゝやかなる國民となる。かゝる故に、國民の大らかなるも、さゝやかなるも、清きも、穢きも、いやちこなるも、かこがなるも、みやびなるも、ひなびたるも、皆うるはしき心の厚き薄きによらざるはなきぞかし。かのえじぶと國のそのかみ盛なり一頃、皆うるはしき心のいかに強かりけむ、びらみつとてふ物の今にごゝしくたてる、是その心のはえの外に顯はれたるにあらずや。たゝこの心ばえのその國の中に満々たればこそ、天のしたに先たちて、もじを作り、文をひろめ、あまたの物しり人を出し、世のなりはひを盛におこし、一時は天のしたのよきとよき物は、みなことごとくにその國につとひたりしか。あはれかゝる國とても、この心をだに失へば、やがてその國も滅びにけり。今の韓の國も、また然り。その國の人は、先づ穢きといふ事をしらず、はゞかる心もなくなり果てゝ、こにきしの門

邊にさへいばりし、くそまりして、かしこしとも思えず、ひなびにひなびて、見渡すかぎり、草高く、夏野のはらのさまなせる、是を見苦しともせず、後は習その性となりつらん、聊も改めんの心もなく、ひこりた獨立たんの魂もなく、彼により、此にすがりて、此世を渡らんとすなる、是何故ぞや、その國の荒きゆくまゝに、人皆美はしき心を失ひはてぬるにあらすや。されば、此心の強き弱きは、たゞその國人の高き卑しきに關かる而已にはあらす、その國の盛え衰へにも關かり、進みては、その國の興亡にもかゝる事にしあれば、古への跡をみて、いかでか今のふりを矯めざるべき。

今熟々我皇國のいにしへを見るに、我等の御親なる人たちは、さてみないかなるうるはしき大らかなる高き尊きことろのありけるにかとぞ思ふにたへすなむ有ける。其由を今詞の上より説明すへし。かけまくも綾に畏こき天津日の神の、天の岩屋にかくりまし、とき、天つ兒屋根やね命、廣く厚くたゝへごととして、のみ祈由す時に、日の神きかして、此頃、人さばに申せども、かく言のうるはしきはあらざりきと宣給きと、神津世の文にかえたる、此一くだりの詞をだにも、味はひなば、古への人の心ばえも、手ぶりも思半に過ぎぬべし。かれ天兒屋根命のたゝへごとは、後の世までも、天津祝詞のりこのふとのりと言ことと唱へて、後の世の祝詞も

宣命も、すゞて文といふ文は、皆此太詔詞よりぞ出きにける。かゝれば、其祝詞の世に比類なく美はしかりけむは、げにさる事ならめども、其頃の人のなべて祝詞に心を盡し、さらに、この天津神も愛で給ひぬる祝詞はいてけにけむ、富士の山も、ひまらやたけも、よしなく聳ゆる者にはあらず、むら山のつぎつぎにそゝりたちてこそ、初てそのいやたかき山は生出でにけれ、是によりて、おのれその詞を案ふに、先うるはしといふは、うらくはしといふ義なり、うらはは、ことろをいひ、くはしとは、何物にても、廣く厚く強くゆゝしきをいふ詞なり、故に香かのつよきもくはしといひ、巧みのたへなるをも、くはしといひ、馬のよきも、くはしといふ、我御國の古へ人は、みなそのうちに、この妙なることろのありて、さてそのはえのそとにあらはれたるが、忠とも孝とも、美とも壯ともなれるなり。扱その心の廣く厚く太くいかめしくなりゆく、ことにおほといふ大きな聲のいつるによりて、おほの詞あり、此おほの詞をもて、古くぐさの物の大きなる、あまたあるをいはんごては、大き、多しといふ詞もいでこしなり。さるが故に、我御國には、大小の大小多少の多とは、そのわかちなし。今迄大きなるを、ふとしといひ、すくなきを、さゝやかなるといふも、みな古へのなごりにして、あやしむべきことにはあらずかし、かゝれば、心の

大らかなるも、はなやかなるも、清きも、強きも、高きも、明かなるも、皆そのうらのくはしきよりなり出づるなり。かゝる故に、うるはしといふ詞に、古き文には、美の字、麗の字、などは、いふも更なり、明彩、友善、忠愛の字までも、あてたるを見るへし、かうやうの字をあてたるも、外の事には非ず、その一語にかゝる文字のこゝろばえのたしかに備はれるが故ならずや。しかるを、うるはしといへは、たゝから文字の美の義のみおもへるは、いはゆる漢意といふ者にして、此方の意にはあらず、こなたのこゝろをもていはば、たゞうるはしといふ一つの詞にて萬の事わりを貫ぬけるなり、かのうつくしきといふも、全美のこゝろなれば、是も同義に落ぬるなり。さてこのうるはしき、うつくしき、赤き清き心を盡して、天津日の神の御いつを、廣く厚くたゝへ奉るを、たゝへごととしてと云るなり。たゝへとは、物を重ねる義なり、物をたゝむといふに同じ義なり。水をたゝへてといふも、水を池にみてぬるなり。されば詞をいろ／＼と疊かさねて懇ねもころにいへるぞ、その忠々しき心を盡しぬるこゝろにして、まめまめしき眞心を盡さん爲めに、このたゝへ言を、をへまつるなり。されども、たゝに詞を重ねども、人いかてか感かまぐるへき、是によりて、たどへを物にとりて、いひはやす、こゝにたどへともいふぞかし。たどへと、たゝへとは、

一音の通にて、義は同じ事なり。そのよしは、日本紀の室賀かほひの詞、この祝詞の神賀の詞なごみて知らるへし。是神津世のなべてのならばしにして、この詞に心を皆すが、頓て文詞に巧みなることのみなかみなれば、たゝへごと、をへまつるといふ一言の、末の末までも、一の常言ともなれるは、實にも理わりにして、千萬の詞も、此中よりぞ流れいで來にける、いともいとも心ゆく大らかなる手ぶりにてはありしなり、われ是によりて思ふに、かしこき檜原の宮に、天ノ下知ろしめし、天皇の詔にも、六合をかねて都をひらき、八絃をおほひて、宇となさんも、よからずやとのり給ひし、かの詔はしも、漢文をとりてこそはかき傳へたれ、大御意のかぎりを宣給ひし大御言のありしからに、さては漢文にも譯うらし傳へしなれば、是を此祝詞の六月大稜の詞、伊勢年祈詞などに合見ても、そのかみの人の魂のをしき、ごしきさまは、唯その御代の天皇のみにはあらず、下は下の大御實に至るまで、ひとしくこの大き強き魂のありつることゝぞ想やらるゝ、豈大なる國民の姿なりしならずや。然るに其後もろこしの文のわたりきて、世に弘まれる、このうるはしき大らかなる大和の國の人の心に、ゆくりなく動きのいでぬる、それやうやうに崩れかゝらむす程に、またもや、佛の教の傳りきて、更にその心のそれになびきける、この二つの教に

よりて、我御國のたらはぬ所をも補ふ、なき所をもえたりとこそはいへ、その源なるうるはしき大らかなる心ばえは、いつとなく、そなたのかこがなる、ひそみたるかたに推遷りて、何事にもへりくだり、萬の事に、ひなたをさけて、かげにつくやうなるならはしとなり、平安の朝に至ては、もはやいふへくもあらねど、そのくづれは、すてに奈良の朝のいと盛なりし御代にありしこそ、うれたけれ。佛の教の盛なるにつれても、さすがに、そなたのうるはしきを、しきは、こゝたく出來て、今の世までも、奈良の朝としもきけば、こがねの世にてありつるやうに思ひなし、ひたすらそのあとをみて、今の御代のしをりとも際けるとこそは云へ、我御國のちはやふる神代ながらの物の、進みにすゝみて成れる者、いづこにありや。かなたの物いかにたちまさるとも、こなたの物のみおとさるゝにては、我御國のさかねとは、いかでかいはむ、然るを奈良の朝より、はやこの心のかさみ、くもり出でて、たゞかなたの物のみを建ならべて、是ぞ我御國の美はしき物ぞとほめはやし、その前にうねつきぬきて、おろかみまつりて、いやしども、見苦しども、おもはずなりぬるは、是いかなる心ぞや。上は政事の大なるより、下はならはしの小なるまで、何事もからぶり佛ぶりに靡きて、神世も聞かぬ大なる佛もいてきにけれど、こなたの事は、日

に日に衰へゆきて、いつきまつる神々の故由ゆゑさへ、おろおろしくなり、文もからぶりには、書そめぬれども、もと外つ國の物なれば、幾とせ重ねても、からの上に出づる事も叶す、さる物に、此日もたらず、心を苦しめける故に、こなたの文は、むしのすみかとなり、詞の本末たがへても、正すことはえせず、たゞむかしより傳へのまゝに、ひめおきて、寫誤のうへに寫しあやまり、其上に、何事もからぶりに靡きし世のてぶりなれば、漢字を本文に大書し、萬葉がなてふ物を、その間々に細書したれば、書くにも煩はしく、寫すにも大字の細字となり、細字の大字となれる、しごろもごろに亂れたるを、かつかつとり出て、後々の祝詞を書つらねたれば、千篇萬篇の祝詞も、宣命も、みな神世の古祝詞のを詞、いさゝかづゝとりもし、削りもしたるにて、露も變れるはなく、かくも、文に拙なくなれるにかと、あやしむ斗なるも、一は何事も御世々々の掟に従ひまつる世のならはしによるとは云へども、しかしなから、其のかみの人のすべてかの佛の教に、心を奪はれ、漢文にこなたのてぶりを失ひて、いかにともしがたかりし故なんめん。かの紀貫之の古今の序をかくにも、先づ漢文にかゝせて、さてそれをやうやうにこなたの詞に譯したりしとは云はずや、是といひ、彼といひ、冠と履と、そのおきくらを違へたるぞあさましき。今晝のま

なかに、履を冠りて冠を履き、都の大路をわしりたらむには、誰々の人か物狂とはいはざらむ。しかるを、これにも似たるあさましき心もて、千餘年の間を経たる外つ國のあだなかりしこそ幸なれ。若そのまさかりに、まがごとのあらびたらんには、いかであへんやと、今よりおもふも、身ふるふばかりなれば、その間に成たる物は、一として見るにたる物はなし、たゞ此祝詞の中にていはば、既に賀茂翁のいはれしごとき、數篇の外には出ざるべけれど、この數篇こそ、我御國のかのうるはしき大らかなる我等御祖の心ばえと手ぶりとを觀るべき物なれば、世にありがたき尊き古典遺則にぞ有ける、世には賀茂翁の、僅にその亂にみだれたるを齋鋤齋斧もて正し、誤に誤まれるを、神直日大直日に直し給ひて、後の人に幸ひ給ひしを初て、その餘註釋を書きし人も數々あれば、今はこゝに事々しく註せんも、ようなき業なれど、只例のからぶりにかきたる萬葉がなのうるさきを先掃ひのぞきて、さてその文をさだして、我御國の大なる文章の基礎を建てんとての心しらひありて物しつるなり。されは註は先輩のに醸りおかんども思ひしかど、古文の長く行はれざる、わが古言をきくは、外つ國の言をきくやうにおもう世の中なれば、註を離れては、目しひの杖失ひたらむがごとし、其上、愚考もなきにしもあらねば、一わたり註し、評は欄

外に加へて、行間に圈點を附し、賀茂翁の考をされるは、すへて考へに云々とかき、その佗の人々の説にても、名をあげぬは、トゾといふ詞を加へて、分てり、その本文のうち、恣きまゝに削りもし、改めもしたる所なきにあらず、是は何事も古を尊みて物する人より見れば、いかがと思ふらめど、文理より見る時は、この斷なかるへからず、さればその罪は受けて避けざる所なり。然れども、其事は盡く註間にことわりおけり。説はともかくもあれ、此祝詞をよく味ひて、我御國の古への人は、此美はしきこゝろのはえを種として、さてこそ萬のをしき業とはなれりけれ。返す々々も、このこゝろばえを、神世より受つぎて、今の世までも、いや進みにすゝみ、いや廣きに廣く行ひたらましかは、我國の神世の教も、普天の下に弘まり、國津でりの文も、率土の邊に行はれ、犬も虎も猿ましらごも分ちかぬる鶴なす文とは、いかでかなりはてむを、一朝奈良の朝に至て、忽ち崩れて、かなたに靡きける、あたら神世よりの天津祝詞のふとごのりごごのうるはしきたゝへ言の響きは、とみに絶えて、はつかにこの古言の延喜式八の卷に、告朔の餼羊として傳へられたるこそ、せめてもの心盡の形見なれ。さるを誰一人として緝く者もなく、世々の神主たちの、やうやうにその一はしをとりて、その御代その時の祝詞を書つとりて、むかしの面

影をど、めけるを、賀茂翁に至て、その全編をうまらに解きあらはして、古への高き尊き教を窺ひ、うるはしく大らかなる手ぶりを學びてだに、かくは復古の大宗ともなられたるにあらすや。いでや、此後の人も、そのしをりに従ひて、彌々我御國の文の林を分入りて、みやまのおくのかぐはしきこゝろの花を手折^{たをり}りて、かのからとも、西の國とも、あやめ草、あやめわかぬ醜^{しづ}草の文てふ文は、かりはらひ、こゝに皇國の文のまほをしも作出で、すめらみここのいかし御世にも副へ、美はしきこゝしき魂をも養いで、神世ながらの大なる國人となりなむには、天津日の神もいか斗天かけりてよろこび給ひ、うづなひ給ふらんとぞおもひ奉りつゝ、かきあらはしけるは、明治川十六年さ月の廿六日、大坂の城南清水谷の銀水を酌みて、硯の海にたゝへごごをへまつりもて、梯の木の黒本の字衛識す。

祝詞評釋目次

祝詞例言

祈年祭 九十篇

春日祭

廣瀬大忌祭

龍田風神祭

平野祭

久度古關祭

以上 乾卷

六月月次祭

大殿祭

御門祭

六月大祓

東文忌寸部横刀献上詞

道饗祭

鎮火祭

大嘗祭

鎮魂祭

伊勢二日祈年六月十二月祭

豐受祭

卯月神御衣祭

六月月次祭

九月神嘗祭

豐受宮同祭

同神嘗祭

齋宮入奉詞

遷大神宮詞

崇神遷都祭

唐使遣時詞

出雲國造神賀詞

以上坤卷

祝詞評釋目次終

祝詞評釋乾卷

加賀金澤 黒本植評釋

祝詞

凡祭祀ノ祝詞ハ、御殿御門ナドノ祭ハ、齋部氏申シ、ソノ外ノ諸ノ祭ニハ、中臣氏申ス
凡四時ノ諸ノ祭ノ、祝詞ノコ、ニ載セサルハ、神部ノ皆、常ノ例文ニヨリテ宣ル故ナリ、
臨時ノ祭ノ祝詞ハ、所司、事ノマニマニ、祭ノ前ニエラビテ太政官ニ進リ、ソノ處分ヲ經
テ、サテ後ニ行フナリ、

此編ノ祝詞ハ、延喜式八卷ニ見ユ、右一段ハ、ソノ例言也、

ノリトコトハ、告説言ノ略ナリ、天皇ノ御言告トイフモ、同シ、ミナ人ニ告クル詞ヲイ
フナリ、ワガ名ヲ人ニツグルヲ名告トイフモ是ナリ、ソノ始ハ天ノ兒屋根ノ命、天ノ岩戸ノ
大前ニテ、神祖高木ノ神ノ詔給ヒシ御言ヲ宣申シ、ニ始マル、サテコノノリトゴトニ、祝
ノ字ヲアテタルハ、字書ニ祝ハ祭ノ賛辭ヲ主トル者トアルヲトリテアテシナリ、齋部
氏ノ祖ハ太玉ノ命ナリ、萬ノ大幣ヲ司ドリシ故、ソノ子孫世々、ソノ職ヲ仕ヘマツレル

ナリ、中臣氏ノ祖ハ、兒屋根命ナリ、岩戸ノ大前ニテ、太詞言ヲ宣シ、ニヨリテ、ソノ子孫世、ソノ職ヲ仕奉レルナリ、神部云々ハ神祇令ニ、神部三十人トアリ、四時ノ諸ノ祭ニモ、ミナ祝詞アレトモ、イツレモ小祭ニテ、ソノ文ニ異ナル所モナケレバ、神部ニ仰セテソノ例文ヲ宣ラシムル故、コ、ニハ載セザルナリ、所司云々ハ、所司ハ神祇官ノ官人ヲ云ナリ、神祇官ヨリ祝詞ヲ撰作リテ、太政官ノ指揮ヲ受ケテ行ヘルナリ、

祈年祭第一

集ハリハベル神主祝部等、諸キコシメセト宣ル

祝部等、チ、ト申ス、餘高天ノ原ニ神ヅマリマス皇親神ロギノ命、神ロミノ命モチテ、天ツ社、ノ宣モミナコレニ倣ヘ、高天ノ原ニ神ヅマリマス皇親神ロギノ命、神ロミノ命モチテ、天ツ社、國ツ社ト、稱辭ヲヘマツル、皇神ダチノ前ニ申サク、今年二月ニ、御年新ヒ給ハントシテ、皇御孫命ノウツノ幣帛ヲ、朝日ノ豊榮昇リニ、タ、ヘ辭、ヲヘマツラクト宣給フ、

祈年祭ハ、五穀成就ヲイノリ玉フ祭ナリ、五穀ノ中分ケテ稻ヲ年トイフ、一年ヘテミノル故ナリ、豊年ヲ年アリトイフモ、コノ故ナリ、祈年トカクハ、漢文ノ格ナリ、トシコヒトヨムハ、此方ノヨミナリ、字ハイカニカクトモ、必コノ方ノ格ニヨムヘキナリ、イヅレノ詞モ、ミナシカリ、此祭ハ崇神天皇ノ御代ニ始リテ、其儀式ハ、ハヤク天武天皇

此篇奈良朝ノ作トミユ

コノ一句ヲ加ヘテ初テ文ヲナス

ノ御代ニ定メラレケムト考ニ云ヘリ、ウゴナハリハウゴハ動ク、蠢クノウゴニテ、物ノ多クタカリ集マル義ナリ、一轉シテ蹲マルノウヅトモナル、ナハリハ、ナヒノ延ナリ、ナヒハ伴ナヒ、荷ナヒナドノナヒト同ク、物ノヨリアフ義ナリ、サレバウゴナハリハ群集ノ義ナリ。○神主云々、神主ハ、ソノ神ニ朝夕親ク仕奉ツル人ヲイフ、○祝部ハソノ社ヲ司トル人ヲイフ、ハフリハハヘリト同シク、ソノ神前ニ侍リテ、事ヲ司トルヨシナリ、先ヅ神主、祝部ドモニ、ミナキコシメサレト、天皇ノ詔給フゾト、中臣ノトリツダナリ、ソノ詔ハ、左ニ見ユ 細註ヲ、ト申ス、カク詔給フヲ承リテ、ヲ、ト御答申スナリ、ヲ、ハ口ヲトヂタルマ、聲ヲ出シテ、次第ニ口ヲアケルナリ、故ニウヲトキコユレバ、和行ノヲヲ用フ、警蹕ニハオ、トイフ、初ヨリ口アケテヨゾ故ニ、阿行ノオヲ用フルナリ、○高天原、天都ヲイフナリ、天祖ノマシマス都ヲイフナリ、神ツマリマスハ、神ハ、幽神ヲサスナリ、今御世ニマシマス神ヲ現神ト申シ、カクレ玉ヒシ神ヲ、幽神ト申ス、ツマリマスハ後世イフ鎮座ナリ、ツマリ、アツマリ、シジマリ、語源ミナ同ジ、皇親云々、皇ヲスベトヨムハ、物ヲスブル義ナリ、皇親ハ天ノ下ヲ統ベ玉ヘル御祖トイフコ、ロナリ、尊稱ナリ、神ロギ、神ロミハ皇祖ノ神ダチヲ申スナリ、命ハ、御言ニ

テ、勅詔ナリ、ソレヲモチテ、宣給フヨシナリ、今天皇ノ詔給フ大御命トイヘトモ、ソノ御趣意ハ、ミナ皇祖ノ勅命ニ出ツルモノニシテ、聊モ私意ヲ加ヘ給ハス、何事モ、御祖ノ遺命ニ從テ、オトスコトナク行ヒ給フ故ニ、カク宣給フナリ、コレゾ我皇國ノ皇道ニシテ、ヨソノ國ノゴトキ、ソノ時ソノ代ノ人ノ私意ヲモテ、天ノ下ヲ料理スルノトハ、同日ノ論ニアラス、故コ、ヲモテ、皇道ノ存スル所ヲ、眞ニ知ント思ハバ、コノ所ヲヨクヨク玩味シテ、サテソノ他ノ事ヲバ、オスベキコトニコソ、○天社、國社、考ニ云、皇祖ノ神等ノ命ヲ以テトイフヨリツ、ケバ、天ツ神國ツ神ト書ヘキヲ、後世ニヨリテ、社ト書シナレバ、後ノ詞ナリ、コノ新年ノ詞ニハ他ニモマ、疑アリ、奈良ノ朝ニ至リテハ、カ、ル事多シト云リ、稱辭ヲヘマツルハ、ソノ神ノ德ヲホメ申ス詞ヲ盡シテ申奉ルトイフ義ナリ、ヲヘハ盡スコトナリ、種々ノ物ヲ献リテ、ソノ勞ツキヲ申スモ、神德ヲアガメ崇ムル心ヨリ出ツルコトナレハ、イツレニ附テモ、稱辭ヲヘマツルトハイヘルナリ、○二月云々、二月四日ニ此祭ハ行ハル、ナリ、祈ノ字ハ原文ニ初トアリ、祈ノ字ノ誤ニテ、御年祈ナラント或人イヘリト考ニ見ユ、コレニ從テ改ム、○皇御孫命、今ノ天皇ヲ申スナリ、末々ノ天皇モミナ是天皇ノ御子孫ニアタラセ給ヘハナリ、スヘテ御祖宗ヲバ

御祖ト申シ御子孫ヲバ、皇御孫ト申スナリ、ミマゴノ略ナリ、○ウヅ云々、ウツハ堆タカク、埋モルナドノウヅト同シク、物ノ多クタカクツミカサナリタルサマナリ、巖トモ通シテ、ゴ、シキ意ニモ用フルナリ、○ミテクラハ、ミハ美稱、テハタヘノ反、イハユル和妙荒妙ナリ、クラハ、數ノ物ヲイフ詞ナリ、スヘテ神前ニ供ヘマツル物ヲ總ジテ、ミテグラトハ云ナリ、○朝日云々、朝日ノホガラホガラトアタリマバユク榮エ昇ル時ヲ云ナリ、ソノ時トカギラザレドモ、吉日ノヨキ時トイハントテ、カクイフガ、古言ノ面白キ所ナリ、スベテ我國ノナラハシハ、陽ヲ好ミテ、陰ヲ惡ム、故ニ何事ニモ、ハデヤカナルヲ旨トシテイフナリ、カノ後世ノカコガナル處ニ、ヒソミ居ルヤウナルヲ、好ムハ、皆佛教、或ハ儒教ヨリ出テタル風俗ニシテ、此方ノオノヅカラナル風俗ニハアラズ、尙次々ニ、コノ事ヲ云ヘシ、サテコ、ニモ、神主ドモ、ヲ、ト申スコト上ニ同ジ、下モミナコレニナラフ

第二

御年ノ皇神ダチノ前ニ申サク、皇神ダチノ依サシマツラヒ奥ツ御年ヲ、手肱ニ水泡カキタリ、向股ニ泥カキヨセテ所作ラム、奥ツ年ヲ八束穂ノ茂穂ニ皇神ダチノ依サシマツラハ初

此篇ハ藤原朝以前ノ作ナルベシ
第一段一篇總提

此數句、古典
典麗神世ノ遺
文ヲ取拾シ來
入セシコトニ
第二段ノ節層
疊法ヲ以テ叙
ヨサ奉ラハ上
文ヲ承クハ上
一領ノ二文字
六個ノ二文字
積連下シ、累
積成堆意自見
妙文、何等ノ
又一年ノ上、言
別ノ二字ヲ加
宣玉ヲ最尾
ニ一ツ出シ、
上文皆是詔命
ナルコトヲ見

穂ヲバ、千穎八百穎ニ献リオキテ、チカヒヤホカヒ 賜ノへ高知リ、タカ 賜ノ腹滿テナラベテ、ミカ 汁ニモ穎ニモ、シユ 稱辭ヲヘマツラム、大野ノ原ニ生フル物ハ、アヲナ 甘菜、カラナ 辛菜、アヲナハラ 青海原ニスム物ハ、ハダ 鱧ノ廣物、ヒロ 鱧ノ狭物、奥ツ藻菜邊ツ藻菜ニイタルマデニ、モハヘ 御衣ハ、アカルダヘ 明妙、テル 照妙、ニギ 和妙、アラ 荒妙ニ稱辭ヲ
ヘタテマツラム、

御年ノ皇神ノ前ニ、白馬、白猪、白鶏、ウツサ 種々ノ色物ヲ備ヘマツリテ、スヘイマ 皇御孫ノ命ノウツ
ノ幣帛ヲタ、ヘゴトヲヘタテマツラクト宣給フ祝部トモ 祝部ト申ス

御年ノ神ハ、須佐ノ男ノ命ノ御子ナリ、古事記ニ、素尊、大市姫ヲトリテ、大年ノ神ヲ生ミ
給フトアリ、此神ハ大年トモ、御年トモ申スナリ、五穀ノ神ナリ、大和等市郡ニ、御年
神社、マタ同郡ニ大年神社ト式ニ見ユ、コノ神社ヲマツリ給フ時ノ祝詞ナルヘシ、○皇
神等、皇神ハ、ソノ神ヲアガメテ申スナリ、ダチトイフハ、素尊、御年ノ神ノ次ニ、ウガ
ノ御魂ノ神ヲ生ミ給ヘリ、是モ五穀ノ神ニシテ、大年ノ神ヲ祭り給フ時ハ、此神ヲモ祭り
給フコト論ナケレハ、カクイフナリ、依サシマツラムハ、御年ノ神ヨリ皇御孫ノ命ニヨ
サシマツリテ、幸ハヘ給フヨシナリ、オキツ御年、稻ヲ云ナリ、五穀ノウチ、稻尤モ
オツケレバオキトイフナリ、オキ、オク、音通ニテ、イヅレモ、ハルカ後ノ事ヲイフ詞

ナリ、海ノムカフヲ、チ 沖トイフモ、晚稻ヲオクテトイフモ、ミナ同シ義ナリ、○タナヒ
チハ、手ノヒヂノ轉ナリ、ミナ 水泡モ、水ノアワナリ、カキタリハ、カキヨセテ、肱ニ
垂ラスナリ、タリハ、タラシノ約ナリ、○向股、向ハ相對スル義ナリ、股ト股ト相向フ
ナリ、雙股トイフ意ナリ、對ノ字ヲカクモヨシ、後世向脚トイフモ、コノ義ナリ、行膝
ヲムカバキトイフモ、ムカフハキ 向脛ノ義ナリ、ハバキトイフハ、ハキハキ 脛佩ノ約ナリ、○ヒヂハ、ヒヂ
リコノ約ナリ、ヒヂハ、袖ヒヂテノヒヂニテ沾フナリ、ヒヂリコハ、水ニヌレタル細土
ノ義ナリ、○八束云々ハ、イカツガ 彌握ノ義、八束穂ハ、長キ稻穂ヲイフナリ、イカシ穂ハ、
多クノ穂ナリ○初穂ハ新稻ヲ神ニマツ奉ルヲイフ、後世マテモ、スヘテ物ノハジメテト
レタルヲ供ヘ申スヲ、御初穂トイフハ、是ヨリ出タルナリ、我國ノナラハシハ、何物ニ
テモ、初テ市ニ出タル物ヲ求メテ給ブルニ、神ニ先供ヘマツリテ、サテ後、一家ウチヨ
リテ給ブルナリ、カノ新嘗祭ヲ、天皇ノ行ハセ給フモ、御祖ノ神タチニ、初穂ヲ先供ヘ
奉リ給フニテ、ソノ御教ノマニオノヅカラ此風ヲナセルナリ、○千穎云々、カヒハ、
稻ノ穂ヲイフナリ、スベテ物ノ芽ヲカヒトイフ、古事記ニ、葦ノ芽ヲ、アシカビトアル
是ナリ、千カヒ、八ホカヒ、極メテ多キヲイフナリ、ヤホ穎ニノ下ニ、ツミ重ネテナド

イフ詞ヲソヘテミルヘシ、○**甕**ノヘ云々、**甕**ハ、酒ヲカモス瓶ナリ、ミカメノ略ナルヘシト云リ、ミハ、美稱ナレバ、大ナル瓶ナリ、ヘハ、ウヘノ略ナリ、尾ノ上ヲ、ヲノヘトイフニ同シ、タカシリハ、高クシテ人ノ目ニツクヤウナルヲイフナリ、高天原ニ、**風木高知**リトイフト、語意同シ、○**甕**ノハラ云々ハ、大瓶ニ酒一杯ミテ、幾瓶モナラヘテナリ、○**汁**ニモ類ニモ、**汁**ハ、酒ヲイフ、**類**ハ、酒ニ作ラサル稻ヲ云ナリ、コノ御酒ニモ、新穀ニモ稱辞ヲ盡シテ、ソレヲ奉ラントノ意ナリ、コ、ハ、年祈ノ祝詞ナルガ故ニ、ヨサシマツラハトオコシテ、タテマツラント結ヒシナリ、スヘテ、神ニ献ルニモ、人ニ進ムルニモ、ソノ物ヲクサクサナラヘテ、真心モテホメタ、ヘテ、サテソレヲキコシメセトイフゾ、ワガ邦上古以來ノヨキナラハシナリケル、サルハ、神ヲ祭ルニモ、人ヲマネクニモ、ソノ心ノカギリヲ盡シテ、物スルナリ、サレバ、ソノトヤカクト盡シタル心ヲ、アリノマ、ニ申シテ、ソノ人ヲモテナスコソ、誠ナルヘケレ、マシテ神ハ誠敬ノ頭ニヤドリ給ヘハ、何事モ、赤キ清キ心ヲモチテ仕ヘマツルコソ、神ニ仕フル道ニハアルヘケレ、後世ニ至テモ、コノ道ハ、イサ、カモクヅレザレドモ、人ヲモテナスカタニイタリテハ、コノ道アラヌカタニナガレユキテ、此物ハ奉ラルベキ物ナラネドナドイ

フコソウタテケレ、ヘリクダルニモ程コソアレ、人ヲマネキテ、山海ノ珍味ヲソナヘナガラ、何モメシアガルモノ、ナキナドイフメルハ、マタク偽ノ偽ニシテ、コレヲ謙退トホメハヤスナルハ、スヘテ是儒教ノ弊ニシテ、我國ノ道ニハ、カツテナキ事ナリ、コノ御世ノ初ツカタニヤアリケム、アル人外國ノ人々ヲマネキテ、右ノ挨拶ヲシケレハ、ソノ人殊ノ外怪シミテ、箸ツケザリシトカヤ、コレニヨレバ、カノ國ニモ、コノ皇國ノ道ハ行ハル、ナリ、古道ヲヨク味ヒテ、ソノ弊ノ甚シキヲ削ルヘシ、○**大野**、ムカシハ、野ヲヌトイヘリ、○**甘菜**ハ、青菜、ナヅナノ類ナリ、○**辛菜**ハ、大根、ネギノ類ヲイフナリ、○**ハタ**ハ、ハハノヒロク、ヒラヒラシタルモノヲイフ義ナリ、**旗**、**機**、**鱒**、ミナ同シ、○**モ**ハハ、海藻ヲイフ、後世モトノミイフハ、略ナリ、○**ヘツ**モハハ、ヘハ、ヘタノヘニテ、物、所ノハシヲイフ詞ナリ、**梯**ノヘタ、海ノヘタ、是ナリ、**方**ノ義トミルハ、悪シ、○**イタル**マテ、漢文ヨリ出タルナリ、コ、ナラハ、ヘツモハマテニニテヨキナリ、○**青海原**、海原ヲウナハラトイフ、ウミノハテノ約ナリ、ソレニ青ノ字ヲ加ヘタルナリ、アヲミハラトヨメルハ、ワロシ、但シ青海トカケルハ、アウミトヨミテ難ナキナリ、○**明妙**云々ハ、アカル、テル、皆色ノウツクシク、目ウツリノスルヲイフナリ、

妙ハ義ヲモテアテシナリ、タヘハ、栲ナリ、古ハ、衣ヲツクルニ栲ヨリヨキモノハナカリシ故、物ノヨキヲバ、ミナタヘト稱シ、漢字ヲアツルニモ、妙ノ字ヲトリシナリ、ソノ栲ノ細シキヲ和妙、鹿キヲアラ妙トイヘリシナリ、平安ノ朝ニ至リテハ、絹ヲ和妙、布ヲ荒妙トイヒナラハシタリ、○稱辭ヲ奉ラン、コノ奉ノ字モ、右ノ品物ヲ奉ルナリ、敬語ニノミ用タルニハアラズ、○御年云々、コ、ハ、此一柱ノ神ヲノミ申スユエ、等ノ詞ナシ、○白馬云々、白馬ハ、神馬ナリ、白猪ハ、家ニ飼オケル猪ナリ、豚ノ事ナリ、聖武紀ニ、畿内ノ百姓ノ畜猪四十頭、和買シテ野ニ放チ、性命ヲ遂ケシメ給フト見エ、貞觀儀式ニモ、此祭ニ、京職ヨリ白鷄一双、近江國ノ豚一頭貢ツルトアリ、上古モ此ケモノハ、肉食ノ料ニシタルモノニシテ、韓風ノ移レルナルヘシ、ソモソモ此近江國ノ豚ハ、後野猪ニ改メタルニヤト覺ユル、古記仁平元年二月四日ノ祭ニ、新年ノ猪、近江國ヨリイマタ進ラストアリテ、ソノ下ニ、祭ノ前十餘日、猪ヲ狩レドモエズトイヘリ、コレヲ見レハ、貞觀頃ヨリ野猪ヲ用ヒラレシコトウツナシ、○白鷄ハ、時ヲ告クル鳥ニテ、後世ノ時計ニカハル鳥ナレバ、神社ニ献リテ、時ヲシル爲ノ料トシタルナリ、是ハ肉食ノ料ニ供スルニハアラス、コレラニ付テモ、上古ノ有様ヲオモヒミルヘシ、今日ノゴ

トク、時ノ貴キコトヲ知レリトニハアラネトモ、曉鷄ナキテ起キ、午鷄ナキテ食シ、晚鷄鳴キテ憩フトイフ爲メニ、カクハ神社ニ飼置テ、日々夜々ソノ聲ヲキ、テ、各ソノ業ヲ營ミシナリ、コレヲ今時ノ人ノ枕ベニ時計ヲカケテ、日ノタクマテ、ウマネスルモノニ比フレハ、ソノ勤惰果シテイカニゾヤ、サテコノナラハシハ、維新ノ頃マテ、ソノマ、残りテ諸ノ神社ニハ、必白キ鷄ノ幾羽トナク、スミ居タリシヲ、ソノ後ホトナク、代ノウツリカハリユクマ、ニ、悉ク殺シホフリテ皆クヒ盡シ、今ハ一羽ダニモカヘル社トテハナク、サルナラハシノアリシトシレルモノサヘ、老人ノ外ニハナクナレルコソ、アサマシケレ、サルアサマシキ世ニナリテモ、伊勢ノ内宮バカリハ、ムカシニカハラズ、白キ鷄ノ、ソノ境内ニスミヌルゾ、アリガタク、貴クゾアリケル、サテマタコノ年祈ノ祭ニ献ル鳥獸ノシロキヲ撰ヘルハ、雨祈ノ祭ニ、白馬ヲ奉ル類ニテ、白日ウチツ、キテ、アシキ雨風ノナカラシヤウニトノ心シラヒニモヤアラムト云リ、○色物ハ、品物トイフニ同シ、雑々ノ召使人ヲ雜色トイフニ同シ、○御幣ヲ云々、コノヲモジモ、下ノ奉ルニカ、ル、奉ツルトイフハ、物ヲ神前ニ立マツルナリ、品物故、タテマツルトイフ、敬語ニ用フルハ、ミナタマツルトヨムヘキナリ、下ミナコレニナラヘ、○宣玉フ、是モ神

主ナドノカク天皇ノ詔玉フゾトイフナリ、

第三

大御巫ノ稱辞ヲヘマツル皇神タチノ前ニ申サク、神産靈、高御産靈、生魂、足魂、玉留魂、大宮ノ賣、大御膳神、言代主ト御名ヲ白シテ、稱辞ヲヘマツルハ、皇御孫ノ命ノ御世ヲタナガノ御世ト堅磐ニ常磐ニ、齋ヒマツリ、イカシ御世ニ、幸ハヘマツルナリ、故皇ガ親、神ロギン命、神ロミン命ト、皇御孫ノ命ノウヅノ幣帛ヲ、稱辞ヲヘタテマツラクト宣給フ、

是ハ、祈年ノ祭ニ、神祇官ノ八神ヲマツリ給フ時ノ祝詞ナリ、八神ハ、大御巫ノイハヒマツル神タチナリ、カムコハ、神子ニテ、宮中ニテマツリ給フ八神ニ、仕ヘマツル神子ナル故、大御巫トハ稱スルナリ、職員令集解ニ、事ニ堪ヘタル處女ヲトリテ、コレニ充ツトアリテ、ソカキ乙女ヲシテ祭ラシメ給フハ、神慮ヲ慰ムル意ニシテ、宮ノ賣ノ神ノ故事ニヨレルナリ、後世神社ニ神子トイフ者ノアナルハ、コノ遺ナリ、○神産靈云々、此二神ハ、我邦開闢ノ元神ニテマスナリ、故コ、ヲモテ、第一ニ崇メ尊ミ給フナリ、○生魂ハ、大國主命ノ別號ナリ、大國主命ハ、大國御魂神トモ云リ、古事記ニ、大年ノ神、

此篇ハ、八神ノ祝詞ナルコトヲ如シタリ、此ノ如シ降レル、是ニテ知ルヘシ、思フニ是ハ奈真朝ルニ入テシ、

活須比ノ神女ニアヒテ、大國御魂ノ神ヲ生ミ給フト見エ、是モ天孫ニコノ國ヲ献リシ大功ノアリシ神ナル故、コ、ニ祭給フナリ、○足魂ハ、人ノ生命ヲ遠長ク守リ給ヘル神ナリ、鎮魂祭ニ、祭給フ神是ナリ、○タマツム魂、是ハ、玉作ノ神ヲ申スト、古語拾遺ニ見ユ、岩戸ニ天祖ノカクレ給ヒシ時、玉ヲ作りシ神ナリ、是モ、ソノ時ニ大功ノアリシ神ナリ、ツムハ、ツマルノ約ニシテ、ソノ作り給フ玉ニ、精神ノトマルトイフ意ヨリ名附シ御名ナリ、○大宮ノ賣ハ、太玉ノ命ノ御子ナリ、天祖ノ宮中ノ事ヲ執給ヒシ神ニテ、後世内侍ノ初ナリ、是モ内助ノ大功アリシ神ナリ、○御膳神ハ、保食ノ神ヲ申ス、五穀成就ヲ掌リ給フ神ニテ、大膳職ニイハヒ奉ル神ナリ、今ノ伊勢外宮ハ、此神ニテマスナリ、○言代主ノ神ハ、大名持ノ神ノ御子ナリ、父ニス、メテ中ツ國ヲ天孫ニ献ラシメシ大功ノアリシ神ナリ、殊ニ神武天皇ノ后、五十鈴媛ノ命ノ御父ノ命ナレハ、イハンモ疎ナリ、以上八神ヲ神祇官ニテ祭玉フナリ、委シクハ、古語拾遺譯解ニ云リ、○御名ハ申、御名ヲバノ意ナルヲ、御名ハトイフゾ古文ノ格ナル、○タナガノ御世、タハ、チト通ヒテ道ナリ、道ノ長キニタトヘシナリ、尙下ニイフヘシ、○イカシ御世ニ云々、イカシ御世トナシ給ヒ幸ハヘ給ハントナリ、上文奉ルハト係リ、マツルナリト結ヒシナリ、下文ノ故

ノ字ヲ、上ニツケテ奉ツルユエトヨムハ、ワロシ、カクテハ、奉ルハノ結ナク、文意落着セス、ソノウヘ、故ノ字ヲカレトヨミテ、發端ニオクハ、古文ノ格ニテ、續紀ノ宣命ニ、イト多シ、○スヘラガ親云々、原文ニテ皇吾睦トカケルハ、スベラガトヨマシメン爲ニ、吾ノ字ヲ加クシノミ、神ヲ親シミテ、ワガトイフ意ニ用タルナラバ、皇ノ上ニアルヘキナリ、シカルヲ皇親ノ間ニ加フルハ、古文ニ例ナキノミナラズ、文詞ヲナサヌコトナリ、宣命ナドニハ、神朕、皇朕ナトイヘル例アレドモ、ソレハ、下ニ親ノ字ノナキ所ナリ、皇親ノ字ハ、分ツヘカラサル詞ナリ、若シサルニテモ、アリトイハ、奈良朝以後ノ文ニ拙ナクナリシ頃ノテブリトコソイフヘケレ、サテ、トモジハ、下ノ稱辭ニカ、リ、幣帛ヲハ、奉ルニカ、ルコト、上文ニ同シ、

第四

座摩ノ御巫ノ稱辭ヲヘマツル皇神タチノ前ニ申サク、生水、榮水、津永井、足羽、波比支ト御名ハ申シテ、稱辭ヲヘマツラハ、皇神ノシキマス下ツ岩根ニ、宮柱太シリタテ、高天原ニ千木高シリテ、皇御孫ハ命ノ瑞ノ御殿ヲ仕ヘマツリテ、天ノ御蔭日ノ御蔭トカクリマシテ、四方ノ國ヲ安國ト平ケク知ロシメサム

此篇ハ奈良朝以後ノ作ナルヘシ一句着眼

カレ皇御孫ノ命ノウツノミテクラヲ、稱辭ヲヘタテマツラクト宣給フ、

座摩ノ神ハ、井川ヲ守リ給フ神ナリ、キナテトヨムヘシ、ソノ故ハ、考ニモイヘルゴトク、キノテノ意ナリ、昔ノ田ノ堤ヲ田井トイヒ、ソノ田ノクロアゼヲテトイフ、即井ノ畔、コレヲ約シテ、キナテト云フヲ、後ニテヲ濁リテヨメルニヨリテ、座摩ノ二字ヲアテタルナリ、サルヲ、今ハ音讀スルニヨリテ、サラニマタ何ノ事トモシラレザルコトトハナレリ、此神ハ、攝津國、西生郡ニマス、仁德帝ノソコニ宮居シ給ヒシホトニ、此神ヲ祭給ヒシニヨリテ、奈良平安ト遷リ給ヒシ後モ、此神ヲ宮居守リ給フ神トシテ祭り給ヒシナリ、スヘテ、人ノ居處ニハ、薪水、尤大事ナレバ、王城ノ地ヲ初トシテ、イヅコニモ、人ノスム處ニハ、此神ヲ祭り、殊ニ御巫マテモツケラレシナリ、津ノ國ニ、コノ神社アルモ、ソノ國河海ノ多キ國ナレハ、往古ヨリ祭り給ヒシナルヘシ、○生井、式ニ生井神社見ユ、ソレナリ、水ノ湧出テ盡キザル井ノ義ナリ、○榮井、式ニ福井ノ神社見ユ、榮、福、幸、ミナ同訓ナリ、越前ノ福井モ、サクキトヨムヘキヲ、フクキトヨメル、ソモソモ後ノヨミナリ、○津永井、式ニ綱長井ノ神ト見ユ、津モ綱モミナ借字ナリ、堤ノ長キ井トイフ義ナリ、テ、ツハ通音ニテ、互ニ用フ、以上ハ、ミナ井川ヲ守リ給フ神々

ナリ、○アスハ、御年ノ神ノ御子ナリ、御名ノ義ハ、葦葉ナリ、アシ、アス、普通ナリ、スヘテ、アシトイフハ、物ノ長キヲイフ詞ナリ、葦モ、足モ、ミナアシトイフハ、長キ物ナレハナリ、越前國ニ、足羽郡アリ、此神ノマセルヨリノ名ナルヘシ、サテ此神ヲ、竈神トシテ、祭り給フハ、元來我國天地開闢ニ生シタルハ、葦ニシテ、火ニモ多クタキシナルヘケレハ、アシハ竈神ノ名ニ負セマツリシナルヘシ、旅立ノ時、此神ヲマツリシモ、火ノ用心ヲイノリテユクナリ、萬葉甘、上總ノ歌ニ、庭中ノアスハノ神ニ小柴サシ、吾ハ齋ハン、歸リクマテニ、トヨメルモ、歸ルマテ、火ノ災アラセ給フナト、イノリテユクヨシナリ、竈神ナルガ故ニ、小柴ヲ供フルナリ、○ハヒキ、式ニ波比祇神ト見ユ、御名ノ義ハ、灰木ナリ、タキヰヲイフナリ、是モ竈ヲ守リ給フ神ナレハ、タキヰヲ以テ御名トハシタルナリ、肥前國ニ、拜岐トイフ所アリ、此神ノマシマスニヨルナルヘシ、○皇神ノシキマス云々、仁德天皇ノ津國ニ、宮執ヲ置給ヒシ頃ノ文ノ句ヲ、ソノマニトリテ、コノ詞ヲツクリシエエ、カクアルナリ、平安ノ都トナリテハ、園神韓神ヲ祭り給フコト、ハナリニタレド、祝詞ハ、式文ナレハ、イツノ世ニテモ、カクハ宣給フナルヘシ、園神ハ、田園ヲ守リ給フ神、韓神モ、韓ハ借字ニテ草木ノ幹ヲイフナリ、是

御名ノ義ナリ、右ノ神々ニアツレハ、園神ハ、井川ノ神々ニアタリ、韓神ハ、竈神ニアタル、是ハ因ニ云オクナリ、○チギタカシリ、上ニモイヘルゴトク、風木高く、人ノ目ニツクヤウニアルヲイフ、上古ノ雅言ナリ、風ヲチトイフハ、東風ヲコチトイフ類ナリ、上古ハミナ萱葺ニテ、棟ノ所ニテ、兩方ヨリ木ヲサシカハシテ、萱ヲラノ風ニ吹卷レヌヤウニ、ヲサヘオク、ソレヲ風木トイフ、今ノ神社ノ棟作りハ、ミナ上古民家ノツクリカタナリ、古風木ヲカタソキノ木トモ云リ、カタカタヲソグ故ナリ、○瑞ノ御殿、ミツハ美稱ナリ、ミツミヅシキナリ、新ラシキヲイフナリ、ミアラカハ、御在所ナリ、アリ、アラ、普通ナリ、仕マツリテ、造リマツリテノ意ナリ、造ルコトニテモ、營ムコトニテモ、スヘテ神、帝ニ對シテハ、仕奉ルトイフ、我國臣道ノ他ニ異ナル所ナリ、○天ノ御蔭云々、正殿ヲ作りテ、天日ヲ覆ヒ、風雨ヲフセクトイフ意ナルヲ、カクイヒナセル、ワカ天祖ヲ正シク日ノ神トオモヒナシテ居タル故ナリ、是天祖ノ尊キニコソアレ、文章ニトリテモ、面白クイヒナガシタル、婉曲ノホト、後世ノ及フ所ニアラス、サレハコソイツレノ祝詞ニモ、コノ詞ヲ用ヒテ、神ノ御蔭ヲ蒙リテ、ソノ浩澤ノ中ニスメルコトヲ、辱ケナミウレシミマツル意ヲ、寫シ、ナレ、○安國ト平ク知食サン、是所神

ノカクシ玉フヤウニ見ユレド、ソノ意ハ、神ノ御蔭ニヨリテ、天皇モコノ國ヲ安國ト平ケクシロシメスコトヲウベシトナリ、オモヒアヤマルコトナカレ、

第五

此篇古文ノ佳ナル者
二句、萬語ニ
歌ス、スヘテ
古言ハ語氣爽
快ニシテ萬選
厭カス
日夜讀義、一
寸ノ隙ナキ、
狀言外ニ溢ル

御門ノ御巫ノ稱辞ヲヘマツル皇神タチノ前ニ申サク、奇磐間門ノ命、豊磐間門ノ命ト御名ハ申シテ、稱辞ヲヘマツラバ、四方ノ御門ニ、ユヅ岩村ノゴトク、塞ガリマシテ、朝ハ御門アケマツリ、夕ハ御門タテマツリ、疎フル物ノシタヨリユクハ、下ヲ守リ、ウヘヨリユクハ、上ヲ守リ、夜ノ守リ、晝ノ守リ、マモリマツラム、

カレ皇御孫ノ命ノウヅノミテクラヲ稱辞ヲヘタテマツラクト宜給フ、
御門ノ御巫ハ、令集解ニ、一口トアリ、一人シテ四方ノ御門祭ヲ仕マツリシナリ、○奇岩間戸云々、奇モ、豊モ、ミナ美稱ニシテ、一牀ニテ、二名アル神ナリ、天祖ノ天岩戸ヲ守リテ、功勞アリシ神ナレハ後々マテモ、御門ヲマモル神ト祭玉フナリ、○ユヅ岩村、ユヅハ、イツト同シク、嚴メシク、凝々シキ義ナリ、岩村ハ、磐石ノ一ムラナリ、物ノ多クアツマルヲ、ムラトモムラガルトモイフ、村落ヲムラトイフモ、人ノアツマリテスメル處ナレハナリ、御門立マツリテ、門ヲセクヲ、タツルトイフハ、モト上古ニ於テ

ハ、今ノ如ク、引戸ハナク、ミナアクル時ハ、傍ニトリオキ、セク時ハ、タテ、アテタル物ナレリ、今モ、ヒクトイフヘキヲ、同クタツト云ハ、古言ノ殘レルナリ、疎フル物、疎ンジ遠サクベキアシキ物ヲイフナリ

第六

此篇作意奇警、筆力雄健、極妙ノ文
正是極靈極妙ノ文
狹國ハ谷蠨ナ
承ク、峻國ヘ
湖沫ヲ承ク、
一唯一正八十
島ヲ以テ之ヲ
總括ス、妙々、

生島ノ御巫ノ稱辞ヲヘマツル皇神タチノ前ニ申サク、生國足國ト御名ハ申シテ、稱辞ヲヘマツラバ、皇神ノシキマス島ノ八十島ハ、谷蠨ノサワタル極ミ、塩沫ノ留マル限り、狹キ國ハ廣ク、峻シキ國ハ平ケク、島ノ八十島オツルコトナク、皇神タチノヨサシマツラム、故皇御孫ノ命ノウツノミテクラヲタ、ヘコトヲヘ奉ソラクト宜給フ、

此祝詞モ、津ノ國生國々魂ノ神社ヲ、難波ノ宮ニ祭り給ヒシニ始マリテ、後、奈良平安ノ朝ニ至テモ、祭り給ヒシナルヘシト考ニ云リ、外記局日記ニ、康治元年十一月二十八日庚辰云々今日八十島祭ノ使ヲ立ラル云々トミユ、康治ハ近衛帝ノ年號ナリ、其頃マテモ、別ニ津ノ國ニ使ヲ立テラレシトミエタリ、○生島云々、名義ハ、式ニ津ノ國東生郡難波ニマス生國々魂神社ニ座并ニ名神大、月次相嘗、新嘗トアリ、マタ貞觀元年ノ記ニモ、難波生國々魂ノ神、座摩ノ神トアリテ、此神ノマシマス島國ナリシ故、生島トイヘルナリ、

ラシム、何等ノ、
ノ、
盛、
長、
下、
段、
收、
其、
前、
如、
帖、
相、
妙、
熱、
見、

義ナリ、○壁立極、壁ノツキ立ツゴトク見ユル極ミナリ、○ソギ立限、遠ザカリテタテ
ル限ナリ、○オリキムカフス、白雲ノシタニオリキテ、アフムクガゴトク、フスガゴト
ク見ユル限ナリ、○舟ノへ、舟ノ先キヲイフ、○舟ミテ、從來ミチトヨメルハコ、ニ叶
ハス、ミチハ、自動ナリ、下文ノタテツ、ケテト對スレハ、他動ニテアルヘキナリ、○
荷ノ緒、諸國ヨリ其年ノ初穂ヲ奉ルヲ、荷前トイフ、ノニ普通ナリ、ソノ緒シテ馬ニツ
クルヲ、草ノ緒エヒカタメテトイヘルナリ、○立テツ、ケテ、コノタテモ、タチトアル
ハヨロシカラズ、○遠キ國、上古ニハ、三韓ナトヨリ種々ノ貢物ヲ奉リシ故、コノ言ア
ルナリ、○荷前、右ニ云ル諸國ヨリ奉ル初穂ヲ、朝廷ヨリ、サラニ、マタ伊勢ヲ初テ、
諸ノ陵ヘモ献リ給フナリ、コレヲ荷前ノ使トイフ、○殘ヲハ云々、皇御孫ノ命ノキコシ
メスナリ、○又皇御孫ノ命云々、是ハ過去ノ事ヲ申玉フナリ、外ノ文ハ、ミナ未來ヲイノ
ル詞ナレトモ、コ、ハ天祖ニ向テ宣給フナレハ、寶祚ノサカエマサンコト、天地ノムタ
ニ窮ナキ物ゾト宣ヒシヲウケテイヘルナリ、ウジモノ、鵜狀ノ、轉音ナリ、鵜ハ水中
ニ首ヲ長ク延シテサシ入ル、物ナレハ、頸根ツキ抜キタル狀ニタトヘシナリ、

第八

此篇ハ平安朝
ノ作トミユ

御縣ニマス皇神タチノ前ニ申サク、高市、葛木、十市、志賀、山邊、曾布ト御名ハ申シテ、
此ノ六ノ縣ニ生出ツル甘ナ、辛ナヲ持參來テ、皇御孫ノ命ノ長御膳ノ遠御膳ト聞食ス、
故皇御孫ノ命ノウヅノミテクラヲ稱辭ヲ奉ラクト宣給フ、

縣ハ、後ノ郡ナリ、大和ノ六ツ縣ヲ、官田トシテ、天皇ノ供御ハ、コ、ヨリトリヨセラ
レタルナリ、天皇ノ御料庄ナリ、持參、後世ノ持參トイフ詞ハ、コノモチマキヲ音讀
セルナリ、此類イト多シ、右六縣ノ御料庄ハ、上代ヨリ定置カレシ事ニテ蘇我ノ大臣、
ソノ本居、葛城縣ナルニヨリテ、ソノ縣ヲ賜ラント申シ、ヲ、朕ガ御世ニ至テ、コノ縣
ヲ失ヒツト、後ノ君ニ、イハレンハ、口ヲシトテ、許シ給ハサリシ事、推古紀ニ見ユ、
後平安ノ朝ニ至テハ、上ニモ聊イヘルゴトク、内膳職ノ十所ノ御園ヲ定メ給ヒ、ソノ御
園ノ神十四座ヲ祭給ヒシカドモ、尙右ノ六縣ノ園神ヲモ、月次新嘗トモ祭り給ヒシトナ
リ、園神トハ、天下ノ御庄園ヲ守リ給ヘル神トイフ義ナリ、韓神モ、ソノ御庄園ヨリ奉
ル薪炭ヲ守リ給フ神ヲ申ス義ナルコト、前ニイヘルガゴトシ、凡テ何事ニテモ、先例ヲ
重ジテ、ソノ祀典ヲ聊モ絶チ給ハザル、仁厚ノ風、仰キ奉ルヘシ、是等ノ處、皆是我邦
ノ大道ノ存スル所ナリ、輕々ニ見スグスベカラズ、

第九

此篇モ平安朝
ニナリテノ作
カ

山口ニマス皇神タチノ前ニ申サク、飛鳥、石寸、忍坂、長谷、畝火、耳無ト御名ハ申シテ、遠山近山ニオヒタテル大木小木ヲ本末ウチキリテ、持參來テ、皇御孫ノ命ノ瑞ノ御殿仕ヘ奉リテ、天ノ御蔭、日ノ御蔭ト、カクリマシテ、四方ノ國ヲ、安國ト平ケク知食ス、故皇御孫ノ命ノウヅノミテグラヲ稱辭ヲヘ奉ラクト宣玉フ、

山口ノ山ハ、山林ニテ、今ノ御料林ナリ、ソノ御料林ヲ守リ給フ山祇ハ、ソノ山口ニマス故、山口トハ云ナリ、○飛鳥云々ノ六ノ山ハ、ミナ大和ノ國ナリ、飛鳥ハ、高市郡、石寸ハ、十市郡、忍坂ハ、城上郡、長谷ハ、上ニ同、畝火ハ、高市郡、耳無ハ、十市郡、右六ノ山ニテ、昔ハ宮材ヲ切給コシナリ、後世切ルベキ材ノナクナリテ、余所ヨリ採給フ世トナリテモ、尙コノ山口ニマス神ヲハ、月次新嘗ニ祭給フコト、右ノ六ノ縣ノ園神ヲ祭給フニ同シ、右六所ノ名義ハ、飛鳥ハ明日ノ訓ヲ、飛鳥ニ付ケタルナリ、飛鳥ニ、アスカノ訓ヲツケタルハ、今日明日トカハリユクヲ、飛鳥ノハヤキニタトヘシナリ、ソノ趣、荀子ニ見ユレハ、古人ソレヲ義ニヨリテ用ヒラレシナルヘシ、石寸ハ、神武天皇ノソコニ大軍ヲアツメ給ヒシヨリ御名ニタ、ヘ奉リシヲソノ命ノマシマシ、處ナレハ

地名トモナレルナリ、イハハ、イハミ、イハムト活ク動詞ニテ、満ツル義ナリ、岩石ヲイハトイフモ、石ノアツマリタル物ナレハ、イハト動詞ヲ名詞ニシタルナリ、レハ、ムレノ略ニテ、群ガルナリ、ムラガルヲ、一ムラ一ムレナトイフ、故ニ、岩村ト唱フヘキヲ、イハレトヨミケルナリ、寸ハ村ノ作りナリ、古文ニ多ク用フ、日本紀ニ、磐余トカケルハ借字ナリ、國名ノ石見モ、石ノ多クミチミチタル國ナレハ、イハミトハ名ツケシナリ、見ハ、借字ナリ、忍坂ハ、岩ノオシヨセタルケハシキ坂ノ義ナリ、上古ニ、人ノ名ニモ、忍トイフガ多シ、今モ人ノツヨクシテ物ニヨクタユルヲ、オシガツヨイナドイフモ、忍ヒテソノ事ニ堪ユルヨシナレハ、忍ノ字ヲアテタルナリ、長谷ハ、義訓ナリ、ハセハ、長キ瀬ノ義ナレハ、長谷トモカケルナリ、ソレヲ、ハツセトモイフ故、泊瀬トモカケルナリ、泊ハ、舟ノトマルヲ、ハツルトイフ故ニ、コノ文字ヲアテシナリ、畝火ハ、畝尾邊ノ略ナルヘシ、丘陵ヲウネヲトイフナリ、ヘヲ、ヒトモイフ、普通ナリ、耳無ノ、無ハ、借字ナリ、成ノ字ノ意ナリ、山ノ兩方ニ出タル、ソノ狀、耳ノゴトクナルニヨリテ、名ツケシ名ナルヘシ、ナシハ如クノ意ナリ、川ナシ、山ナシナドイフ類ナリ、カノ梔子花ヲ、クチナシトイフモ、人ノ口ノゴトシト、花ノ形ヲ見タテタル名ナリ、川

此篇モ抑後ノ
作トミユ、
調語トリテ
ハス

ニ音ナシ川ナドアルハ、音鳴ノ義ナリ、○遠山ハ、奥山ヲサスナリ、○本末打キリテ云々、
大殿祭ニ、本末ヲハ、山ノ神ニマツリテ、中ヲ持出來テリアル、ソレナリ、此山口
ノ神ハ、前ニイヘル後ノ韓神ナリ、
水分ニ坐ス皇神タチノ前ニ申サク、吉野、宇陀、都祁、葛木ト御名ハ申シテ、稱辞ヲヘマツ
ル皇神タリノ寄サシマツラム奥ツ御年ヲ、八束徳ノイカシ穂ニヨサシマツラハ、皇神ダチ
ニ、初穂ヲハ、穎ニモ、汁ニモ、麴ノヘ高シリ、麴ノハラ満テナラベテ、稱辞ヲヘタマ
ツリテ、ノコリヲバ、スベ御孫命ノ朝御食、夕御食ノ神穎ニ、長御食ノ遠御食ト、赤土ノ
穂ニキコシメサム、

カレ皇御孫命ノウツノ幣帛ヲ稱辞ヲヘ奉ラクヲ、諸キコシメセト宣玉フ、

水分ハ、水配トイフニ同シ、音通ナリ、ミコモリトイフハ、サラニ轉リタルナリ、山川
ノ水ヲ、夫々ノ田ニクバリ給フ意ニテ、灌溉ノ爲メニ、此神ヲ祭給フナリ、○吉野云々、
此四ヶ所ニ、ミナ水分神社アリ、都祁ハ、今山邊郡、鞆田村トイフニ、ツケ山トイフア
リトイヘリ、○稱辞ヲヘマツル、原文ニ、此下ニ者ノ字アリ、下文ニモアレハ、紛レテ
コ、ニモ入レルナルヘシ、且此所ニ者ノ字ヲ入レタル例ナキニテモ、ソノ誤ナルコトシ

ルシ、マシテソノ結ヒノ詞ナキヲヤ、今削リヌ、意ハ下ニツ、キテ、ヲヘマツルヘキ皇
神タチ云々ナリ、○ヲヘタテマツリテ、コノ奏ノ字ハ、ミテナラベテヲ受ケルナリ、
神穎、後世イフ御神米ナリ、○赤土ノ穂、赤土ヲ以テ、顔ノ赤キニタトヘシナリ、穂
ノ字ハ、コ、ハ借字ニテ類ヲイフナリ、上文ニ穂ヲ連下シタル故、コ、ニモソノ字ヲ用
テ、アヤナセルナリ、サテコノ句ハ、上文ノ汁ニモ穎ニモヲ、ミナ受ケタルナリ、○カ
レノ下ニ、一本ニモジアリ、サレト、上ノ祝詞ヲミルニ、皆コノ文字ナシ、今ソノ例
ニナラヒテ省ク、○諸聞食セ、此文字ヲコ、ニオキテ、上文ノ祝詞ニモ、ミナ此詞ノア
ルヲシラセタルナリ、

第十

言ワキテ、忌部ノ弱肩ニ、太禰トリカケテ、持齋ハリ仕マツレル幣帛ヲ、神主祝部ラ承リ
テ事アキヤマス、捧ケモチテ奉レト宣玉フ、
弱肩トイヒテ、忌部ノ勤勞ヲ見セタルナリ、ト云リ、忌部、ハ皇御孫命ニ代リ申シテ、
神主トモニ、夫々幣帛ヲ授クルナリ、神主共ハ、ソレヲ受給ハリテ、國々ノ大神ニサ、
ケマツルナリ、コノ文、ソノ事ヲ證給フナリ、○以上、十篇スヘテ、是祈年祭ノ祝詞ナ

リ、ソノ第一篇ト、第十篇トハ、一篇ノ首尾ニシテ、先ヅ天皇ノ神主祝部トモニ、宣給
 フヨシナリ、ソノ他ノ八篇ハ、神主祝部ドモノソノ神社々々ニテ、天皇ノ宣給ヘル祝詞
 ヲ、オノオノ代リテ、ソノ神ニ申奉ルナリ、神主ドモヨリ申マツレトモ、ソノ祝詞ハ、
 天皇ノナレハ、宣給フトイフ詞ノ文尾ニ必アルヨシナリ、宣命ハ、天皇ノ大御命ヲ、上
 卿ノオノレニ引受テ、親王諸王大臣百官百姓ドモニ告クルナル故、タゞ宣ルトハ、イヘ
 リ、是祝詞ト宣命トノ別アル所ナリ、

春日祭

天皇ガ大命ニマス、カシコキ鹿島ニマス建雷命、香取ニマス齋主命、枚岡ニマス天ノ兒屋
 根ノ命、姫神、四柱ノ皇神タチノ廣前ニ申ス、

大神ダチノ乞ハシ賜ヒノマニマニ、春日ノ三笠山ノ下ツ岩根ニ、宮柱廣知リタテ、高天ノ原
 ニ、風木高知リテ、天ノ御蔭、日ノ御蔭ト定奉リテ、献ツル神寶ハ、御鏡、御横刀、御弓、
 御柁、御馬ニ備ヘ奉リ、御服ハ、明妙、照妙、和妙、荒妙ニ仕マツリテ、四方ノ國ノ献レ
 ル、御調ノ荷前トリ並テ、青海原ノ物ハ、鱈ノ廣物、鱈ノ狭物、奥ノ藻葉、邊ノ藻葉、野山
 ノ物ハ、甘菜、辛菜、ニイタルマテ、御酒ハ甕ノヘタカシリ、甕ノハラ、ミテナラベテ、雑々

天皇云々、違
 例一
 廣前、違例二
 第一段奉幣ヲ
 叙ス

皇大御神、違
 例三

第二段、先天
 皇ノ御世ヲ祝
 ビ、次ニ藤原
 氏ヲ祈ル
 通篇王威ヲカ
 リテ門地ヲ高
 ムルノ意、言
 外ニ見ユ、

ノ物ヲ、横山ノゴトク、ツミオキテ、神主ニ某ノ官位姓名ヲ定メテ、献ツルウツノ大幣帛
 ヲ、安ミテクラノ、タラシミテクラト、平ケク安ラケク開食セト、皇大御神ダチヲタ、ヘ
 ゴトヲマツラクト申ス、

カク仕ヘマツルニヨリテ、今モイニシヘモ、天皇ガミカドヲ、平ケク安ラケク、タラシ御
 世ノ、イカシ御世ニイハヒマツリ、常磐ニカキハニ、サキハヘマツリ、預リテ仕ヘマツ
 レル所々家々、王ダチ、前ツキミダチヲモ、平ケク、天皇ガミカドニ、イカシヤグハエノ
 ゴトク、仕ヘマツリ、榮エシメ給ヘト、タ、ヘ言ヲヘマツラクト申ス、

春日社ハ、神名式ニ、大和國添上郡、春日ニ祭ル神四座トアリテ、武甕槌ノ命、經主ノ命、
 天ノ兒屋根ノ命、萬幡姫ノ命ノ四座トナリ、ソノ鎮座ハ、何レノ御世ニカアラム、古傳區々
 ニシテ、定メガタケレドモ、今ノ所ニ創建セラレシハ、神護景雲二年トイヘリ、オモフ
 ニ、是ハモト、藤原氏ノ勸ニヨリテ、コ、ニ勸請シ給ヒシナルヘシ、サルニヨリテ藤原
 氏ノ祖神ヲ第三座ニ祭り、後ニハ帝王ノ行幸サヘアリテ、神威益尊ク、中古ニ至テハ、
 八幡社ト此社トヲ伊勢ノ大神宮ニ合セテ、三社ト稱スルニイタレリ、サテソノ祭ハ、貞
 觀元年十一月九日ニ始マルト見ユレハ、コノ祝詞モソノ頃ノ作トミエテ、違例ナル詞多

シ、○天皇ガ云々、是ハ宣命ノ体ニシテ祝詞ニハナキコトナリ、是モ王威ヲカリテ、社格ヲアゲムトノ下心ナルヘシ、マスハ、原文ニマセトアルハ、宣命ニハ往々見ユレト、コ、ニハ叶ハス、今考ニ改メラレタルニ從フ、○鹿島ニマス云々、是ハ常陸國鹿島ニマス神ナルヲ、コ、ニ勸請シ給ヒシナリ、天孫降臨ノ時、大功アリシ神ナレハ、武神ト崇メ奉ルナリ、○香取ニマス云々、此神ハ、下總國香取ニマス經津主ノ神ナルヲ、是モ、武甕槌神ト同シ功ノアリシ神ニシテ武神ナレハ、合セテ、勸請シタルナリ、此神ヲ齋主トモ申スナリ、○枚岡ニマス云々、河内國河内郡平岡ニマス神ナルヲ、藤原ノ祖神ナレハ、ソノ勢ニヨリテ、并セテコ、ニ勸請シ給ヘルナリ、姫神ハ、天兒屋根命ノ妻神ナルヘシ、○廣前、是モ藤原氏ノ勢ニヨリテ、カクカケルナリ、平野祭ニ、廣前ニアルハ、格別ニテ、カノ方ハ、前ツ天皇ヲイハヒマツル宮ナレハト云リ、○大神タチノ乞ハシ、大神タチノ春日ニ移ラマクホリスト夢ニタ、セ給ヘルヤウニ云ナセルナリ、イハユル夢告、託宣ナリ、○廣シリタテハ、フトシリタテト同意ナリ、○定メマツリテ、日ノ御蔭トカクリマサント定メマツリテノ意ナリ、略ニスキテ、意通セス、○御馬ニ備ヘ、ニモジ平安朝ノ言ナリ、昔ナレハ、ヲ或ハトトアル所ナリ、下ノ荒妙ニトイヘルニモジモ、同シ、

○野山ノ物、原文ニ、山野トアルヲ、ソノマ、ニヨムハ、漢文ナリ、ノヤマトヨムヘキナリ、日月トアルモ、ツキヒトヨムガゴトシ、○某官位姓名、コ、ニ實際ハ、ソノ神主ノ官位姓名ヲカキ加フルナリ、○字ツノ云々、イハユル稱辭ナリ、○キコシメセ、コノ下ニ原文ニバモジアリ、衍ナリ、今削ル、○足シ御世ノ云々、是モタ、ヘゴトナリ、○皇大御神ハ御祖ヲコソ申スヘキニ、臣下ノ神ヲカク申スハ違例ナリ、○預リテ云々、所々、家々モ皆天皇ヨリ預レル意ナリ、所々ハ、官省、家々ハ、王卿百官ノ家々ナリ、○ヤグハユ、彌木榮ノ義ト考ニ云リ、木ノイヨイヨ榮ユルヤウニトナリ、○原註ニ大原野、枚岡ナトノ祝詞モ、コレニ准ラフトアリ、大原野ハ、四時祭式春日祭ノ次ニ、大原野神四座祭トアリ、オモフニ、平安ニ都遷サレテヨリ、春日四座ノ神ヲ、サラニマタ大原野ニ遷シテマツリ給ヘルナルヘシ、是等ハ、ミナ藤原氏外戚ノ勢ニヨリテ、天皇モソノ氏神ヲ祭給ヘルナリソノ遷サレシハ、仁明天皇嘉祥三年トカヤ、サレハ、良房大臣ノ盛ナル時ニシテ、ソノ祝詞ハ、良房ノ攝政トナレル時ナレハ、祝詞ヲカクモノモ、良房ニ詔テカケル所モアルナリ、枚岡ハ、上ニ云ル河内國ノ枚岡ナリ、

廣瀬大忌ノ祭

此篇モ平安朝ノ作尤降等ニ屬ス水神ヲ祭ツルニ一言モ水害ニ及ハスト云ヘテエヌト云ヘシ

和キ、荒キ、廣キ、狭キ、スヘテ古文ニテ語尾ナキテ今加ヘテ乃爾、是トナスモノ

古語チイタクラニトリテ重復テ厭ハス、是ラハ枕草紙ノ厭フヘキモノ、中ニ加フヘシ、積置テ、何ソソレ煩ナル

モ文字上篇ニ對シテ下篇ニ此篇ハ上文ニ遙カマサレリ、恐ラクハ同人ノ作ニアラサ、此一段アリテ始テ文チナス、惡風ハ陪客、客チ先ニシテ主チ後ニシテ文法チエタ

廣瀨ノ川合ニ、稱辭ヲヘマツル皇神ノ御名ヲ申サク、御食持タス若字加賣命ト御名ハ申テ、此皇神ノ御前ニ、稱辭ヲヘマツラク、皇御孫ノ命ウツノ幣帛ヲ捧ケモタシメテ、王臣ダチヲ使トシテ、稱辭ヲヘマツラクヲ、神主祝部等、諸キコシメセト宣給フ、
献ルウヅノミテクラハ、御衣ハ、明妙、照妙、和妙、荒妙、五色ノ物、楯、柁、馬、御酒ハ、ミカノヘタカシリ、ミカノハラミテナラベテ、和稻、荒稻ニ、山ニスム物ハ、毛ノ和キ物、毛ノ荒キ物、大野ノ原生フル物ハ、甘菜、辛菜、青海原ニスム物ハ、ハタノ廣キ物、ハタノ狭キ物、オキツモハ、ヘツモハニイタルマテ、オキタラハシテ奉ラクト、皇神ノ前ニ申給ヘト宣給フ、
カク献ルウヅノミテクラヲ、安ミテクラノタラシミテクラトスベ神ノ御心ニモ平ケク安ラケクキコシメシテ、皇御孫ノ命ノ、長御食ノ遠御食ト、赤丹ノ穗ニキコシメシ、御神ノ御年代ヲ始テ、親王タチ、王臣タチ、天下ノ公民ノトリ作レルオキツ御年ハ手肱ニ水沫カキタリ、ムカモ、ニ、ヒヂリコカキヨセテ、トリ作ラム、オキツ御年ヲ、八束穗ニ、皇神ノナシ幸ハへ給ハ、初穗ハ、汁ニモ、ヒニモ、千稻八十稻ニヒキスエテ、横山ノゴトク、ウチツミオキテ、秋ノ祭ニ奉ラムト、皇神ノ前ニ白シ給ヘト宣給フ、

倭國ノ六ツノ御縣ノ山口ニマス皇神ダヂノ前ニモ、皇御孫ノ命ノウヅノ幣帛ヲ、明妙、照妙、和妙、荒妙、五色ノ物、楯、戈ニイタルマテ奉ル、
カク奉ラバ、皇神タチノシキマス山々ノ口ヨリ、サクナダリニクダシ玉ヲ、水ヲ、甘キ水ト受ケテ、天下ノ公民ノトリ作レルオキツ御年ヲ、惡キ風、アラキ水ニ逢ハセ給ハズ、汝命ノナシ幸ハへ給ハ、初穗ハ、汁ニモ穎ニモ、ミカノヘ高知リ、ミカノハラミテナラベテ、横山ノゴトクウチツミオキテ奉ラムト、王タチ、臣タチ、百ノ官人タチ、倭國ノ六ツノ御縣ノトネ、男女ニイタルマテ、コトシ某月某日、モロモロマキイデキテ、皇神ノ前ニ、ウジモノ、頸根ツキスキテ、朝日ノトヨサカ登リニ、夕、ヘゴトヲヘマツラクト、神主祝部等諸聞食セト宣給フ、

廣瀨大忘祭ハ、神名式ニ、大和國廣瀨郡廣瀨ニマス若字加賣神社トアリテ、水穀ヲ司トリ、カネテ、天祖ノ神饌ヲ掌トリ給ヘル神ナリ、若字加賣神ハ、大忘神トモ申ス故、大忘祭トイヘルナリ、大忘トハ、天祖ノ神饌ニ對シテ、穢ヲイミ清メ玉フヨシナリ、祭ノ始ハ、崇神天皇ノ御世ヨリナルベケレドモ、ソノ頃ハ、大裏ニ祭給テ、御使モ立ラレザリケムヲ、天武天皇ニイタリテ、四月ニ御使ヲ遣ハサル、コトハナリヌ、然レトモ

日ハイツカトハ定メラレザルヲ、延喜式ニイタリテ、四月四日ト定メラレシハ、盖文武天皇ノ定メナルヘシト考ニ云リ、○廣瀬ノ川合、今モ川合村トイフアリテ、初瀬川ト佐保川トノ流アヘル所ナリ、廣瀬トイフ名モ、ソレニヨレルナリ、ソコニコノ神ハマスナリ、○御食モタス、原文ニ、ルモジアリ、衍ナリ、モタスハ、モツノ敬語ナリ、モタスルハ、人ニモタスルナリ、コ、ハ神ノモチ給フナリ、カウヤウノ詞サヘ亂レタル、此作者ノ拙キヲミルヘシ、坊本ニ、ミケモチスルトヨメルハ、苦シキ訓ナリ、○若宇加賣命ハ、古事記ニ、イサナギノ神ノ御子ワクムスビノ神、ソノ御子豊ウケ姫ノ神トアル、是ナリ、今外^{トコウケ}宮豊受^{トコウケ}神ト同躰ナリ、ウケ、ウカ、通音ニテ、穀物ヲ受持給フヨシノ御名ナリ、○王臣ヲ使トシテ、天武紀ニ、小錦中、間人^{ハシワド}連大蓋^{フタ}、大山中、曾根^{ソノネ}連韓犬ヲ使トシテ、大忌神ヲ廣瀬ノ河曲^{カハクマ}ニ祭ルトアルナリ、○五色ノ物ハ、五色ノ繩ヲイフト云リ、○馬、原文ニ、ミノ詞ヲソヘタリ、馬ノミニソヘタルハ、常ニ御馬トイヘルニヨリテ、ソノマ、用タルナルヘシ、サレトモ、コ、ニハオダシカラネハ、削リツ、龍田祭ニモソヘタリ、ミナコレニナラフ、○和稻荒稻、ニギシネハ、米ヲイヒ、アラシネハ、穂ヲイフナリ、シネハ、繁根^{シネ}ノ義ニテ、稻ハ根ノシケキ物ナレハナリ、米ヲコメトイフモ、コ

ハ、ニコノコナリ、メハ、ネト通音ナリ、又ヨネトイフモ、イネノ音通ナルヘシ、○白シ玉ヘト宣玉フ、此下ニ、考本ニ、神主等唯ト稱ストアリ、以上ハ使ノ中臣、先ツ神主等ニ、天皇ノ詔ヲ傳ヘテ、サテソノ神主等シテ、神前ニ申サシムルヨシナリ、故ニコ、ニテ唯ト稱ストナリ、○ミトシロ、御年代^{ミトシロ}ノ略ナリ、御神ノ稻ヲ作ル田ヲイフナリ、東京ニ、美土代トイフ町名アリ、神田明神ノ神田ニテアリシ所ナリ、○オキツ御年コレヨリ下、トリツクラムマテハ、ケツルヘシ、○倭國ノ云々、コノ廣瀬ノ祭ニモアハセテ、山口ノ神ヲ祭給フハ、祈年祭ノハ、宮殿ノ用材ヲ司トリ給フニヨリテ、祭給ヒ、コ、ノハ、山ノ水ヲ灌溉ニ用フルニヨリテ、祭給フナリ、○カク奉ラバハ、カク奉ルヲハ、シロシメシテト、下ニツヅクナルナリ、文ヲアマリ略シテ意通セヌナリ、○シキマスハ、シロシメスナリ、○サクナダリハ、逆流^{サクナダリ}垂ナリ、マタナダリハ、長垂^{ナガタリ}ノ略ニテモアルヘシ、イツレニシテモ、同義ナリ、雪ノ山ヨリオツルヲ、ナダリト、今モ常云フナリ、○甘水ハ、甘雨ナドイフ類ニテ、漢文ヨリトリタルナルヘシ、○受ケテハ、人民ノウタルナリ、先ニ用語ヲオキテ、後ニ体語ヲイタスハ、ミクニノ詞ノ格ナリ、○ミマシ命、ミマシハ、イマシノ敬語ナリ、イサ、カ別アリ、六^ム縣ノトネ云々、トネハ、トネリノ反、殿ノ

トニヲ、トネト轉シタルナリ、サテソノトネリハ、トノモリノ約ニシテ、殿ヲ守ル人ヲ
 イフナリ、舍人トイフハ、ソノ義ニヨリテ、用タル字ナリ、只朝廷ノミナラス、神社ニ
 仕マツル人ヲモイヘバ、コ、ハ、六縣ノ神社ニ仕マツル祝部ドモヲサシテイヘルナリ、
 男女ハ、ソノ所ノ百姓ヲスベテイヘルナリ、コノ終ニモ、考本ニハ、神主等稱唯トア
 リ、スヘテ此詞ハ、先ツ神主ニ天皇ノ詔ヲ傳ル躰ナレハナリ、

龍田風神ノ祭

龍田ニ稱辭ヲヘマツル皇神ノ前ニ申サク、磯城島ニ大八洲國知ラシ、皇御孫ノ命ノ遠御膳
 ノ長御膳ト、赤丹ノ穗ニキコシメス五ノ穀物ヲ始テ、天ノ下ノ公民ノ作レル物ヲ、草ノカ
 キ葉ニイタルマテ、成給ハヌコト、一トセ二トセニアラス、年マネク傷ヘル故ニ、百ノ物
 識人ダチノト事ニイデム神ノ御心ハ此神ト申セト仰給ヒキ、
 是ヲ物識人ダチノト事ヲモチテ占ヘドモ、出ヅル神ノ御心モナシト申スト、キコシメシテ、
 皇御孫ノ命ノ詔給ハク、神ダチヲバ、天ツ社國ツ社ト、忘ル、事ナク、オツルコトナク、稱辭
 ヲヘマツルト思召スヲ、誰シハ神ヅ、天下ノ公民ノツクリト作ル物ヲナシ給ハズ、傷ヘ

此篇、上半篇ハ古文ノ遺、下半篇ハ平安朝ノ文ナルヘシ
 第一段ハ風害ヲ占ハシメ給フ由ヲ叙ス

上文ヲ承ク第二段ハ天皇ノ自稱リ給フ由ヲ叙ス
 語氣峻峭、文ハシ

上文ヲ承ク第三段ハ風神ノ喻シ給フ由ヲ叙ス
 サトスノ詞、一段ノ眼

疊語ヲ用テ、其地ノ絶佳ナルヲ見ハス、我國古文ノ妙處

上文ヲ承ク此四段ハ、祠ヲ設ケ幣ヲ奉給フ由ヲ叙ス
 是ト文ノ引

第五段、上文ヲ承テ、幣物ヲ詳述ス、是此篇ノ正面服具分叙

ル御ダチハ、我御心ヅト、サトシマツレト、ウケヒ給キ、

是ヲ以テ、皇御孫ノ命ノ大御夢ニサトシマツラク、天ノ下ノ公民ノ作リト作ル物ヲ、惡シ
 キ風、荒キ水ニ遭ハセツ、ナシ給ハズ、ソコナヘルハ、**我御名ハ**天ノ御柱ノ命ト、御名ハ
 サトシマツリテ、ワカ前ニ奉ランミテクラハ、御衣ハ、明妙、照妙、和妙、荒妙、五色ノ
 物、楯、杵、馬ニ御鞍備ヘテ、色々ノミテクラ備ヘテ、吾宮ハ、朝日ノ日ムカフ所、夕日
 ノ日カクル所ノ龍田ノ立野ノ小野ニワガ宮ハ定メマツリテ、ワカ前ヲ稱辭ヲヘマツラバ、
 天ノ下ノ公民ノ作リトツクル物ハ、五ノ穀ヲ始テ、草ノカキ葉ニイタルマテ、ナシ幸ヘマ
 ツラン、トサトシマツリキ、

是ヲ以テ、皇神ノ言教ヘサトシマツル所ニ、宮柱サタメマツリテ、コレノ皇神ノ前ニ、稱
 辭ヲヘマツルト、皇御孫ノ命ノウツノミテクラヲ、捧ケモタセテ、王臣ダチヲ使トシテ、稱
 辭ヲヘ奉ツラクト、スベ神ノ前ニ申給フコトヲ、神主祝部ヲ諸キコシメセト宣給フ、
 献ツルウヅノミテクラハ、彥神ニ、御衣ハ、明奕、照妙、和妙、荒妙、五色ノ物、楯、杵、
 馬ニ御鞍備ヘテ、色々ノミテクラ献ル、姫神ニ、御衣備ヘ、コガネノ麻笥、コガネノ櫛、
 コガネノ杵、馬ニ御鞍ソナヘテ、クサダサノ幣帛献リテ、御酒ハ麴ノヘタカシリ、麴ノハ



ラミテ並ベテ、和稻、荒稻ニ、山ニスム物ハ、毛ノ和物、毛ノ荒物、大野ノ原ニオフル物
ハ、甘菜、辛菜、青海原ニスム物ハ、鱒ノ廣物、ハタノ狭物、オキツ藻菜、ヘツ藻菜、ニ
イタルマテニ、横山ノゴトク、ウチツミオキテ、献ル、

コノウヅノミテクラヲ、安幣帛ノタラシ幣帛ト、スベ神ノ御心ニ平ケクキシメシテ、天
ノ下ノ公民ノツクリト作ル物ヲアシキ風、アラキ水ニ逢ハセ給ハズ、皇神ノ成幸ナシ（給ハ）、
初穂ハ、麩ノヘタカシリ、麩ノハラミテナラベテ、汁ニモ穎ニモ、八百稻、千稻ニ引スエ
オキテ、秋ノ祭ニ献ラント、王卿ダチ、百ノ官人ダチ、大和國ノ六ッ縣ノ刀禰、男女ニ
イタルマテニ、コトシ四月七月ハコトシ諸祭集ヒテ、皇神ノ前ニ、ウジ物ウナ根ツキスキテ、
ケフノ朝日ノ豊榮ノボリニ、稱辭ヲヘマツル、御皇孫命ノウヅノ幣帛ヲ、神主祝部ヲ受
給リテ、オコタルコトナク奉レ、ト宣給フ大命ヲ、諸キコシメセト宣給フ、

龍田風神祭ハ、神名式ニ、大和國平群ノ郡龍田ニマス天ノ御柱、國ノ御柱ニ座トアリテ、
龍田山ノ東西ノ麓、立野トイフ所ニマセリ、是龍田ノ本宮ニシテ、法隆寺チカクニアナ
ルハ、攝社ニシテ、立田ノ御旅所ナリ、ソノ本社ノウラニ別ニ二社アリ、龍田彦、龍田
姫ノ二神ヲ祭レリトイフ、本文ノ彦神姫神ハ、コレヲ申スナリ、サテ風神ハ、イザナギ

ノ命ノ御子ニシテ、天ノ御柱トモ、國ノ御柱トモ申スナリ、サルハ尊ムカタヨリシテ、
天トイヒ、國ヲシロシメスカタヨリシテ、國トハイフナリ、後世ニテモ、アカメマツル
カタヨリシテ、天皇ト申シ、國ヲシロシメスカタヨリシテ、國王ト申スガ如シ、コノ風
神ヲ、一名シナト級長戸邊命トモ申シ、マタシナト級長津彦命トモ申スナリ、○磯城島云々、崇神
天皇、大和國シキ磯城ミツカキ瑞籬宮ニマシマシ、故、シキシマトハイヘルナリ、コノ天皇ノ御時、
凶年アリテ、五穀登ラス、ソレニヨリテ、コノ神ヲ祭リ給ヒシヨリ、此祭ハ始リシナル
ヘシ、古事記ニモ、日本紀ニモ、ソノ事見エザルハ、脱チタルニテ、此祝詞ヲ以テ証ト
スベシ、○皇御孫命、崇神天皇ヲ申スナリ、草ノカキハ、片葉ノ義ナリ、一ヒラヲ、
今モ、一カキ、二カキナドイフ、ソレナリ、暴風フキアラシテ、草木ミナ枯レテ、赤土
トナレルサマナリ、年マネク、アマネクヲマネクトイフハ、古言ナリ、アマタ年ヲイ
フナリ、○百ノ物識人云々、物ヲウラナヒテ、ソレト定ムル人ヲサシテ、コ、ハイフナ
リ、ト事ニ出テム神トハ、今占テアラハサムトスルヨリイヘル故、イテム神トハイフナ
リ、下文ノイツル神モナシハ、占ヒタルウヘニ付テイフ故、イツルトハイフナリ、此神
ト白セトハ、占テカヤウニ風ノアレテ年ノアシキハ、マタク、此神ノ御心ニアルゾト、

タシカニ見定メテ奏セト、崇神天皇ノ仰給フヨシナリ、○此ヲ云々、此大命承ヲリテ、占人ノト事ヲ以テウラナヒシカドモ、ソノ占ニイツル神モナシト奏シケレハ、ソノ奏シ言ヲ、天皇ノキコシメテ宣給フヨシナリ、ト事トハ、上古ハ、鹿ノ骨ヲヤキテ占ヘリ、ソノ事ヲサスナリ、○ナシ給ハス云々、上文誰シトカ、リテ、傷ヘルト結ヒ、ソノ結ノ詞ヲヤガテ神ニツツケタルナリ、我御心ゾト諭シマツレトハ、カヤウニ風ノアレテ物ノソコナヘルハ、我心ノイカレルナリト申サセ給ヘトナリ、ウケヒハ、誓ヲイフナレドモ、コ、ハ堅ク申シ玉フ意ニ用タルナリ、○大御夢ニサトシ云々、崇神天皇ノ夢ニタ、セ給ヘルナリ、我御名ハノ五文字ハ衍ナリ、今削リツ、○御名ハサトシマツリテハ、御名ヲハ告給ヒテナリ、○日向フ所云々、日向フ所ハ、山ノ東ヲイフナリ、夕日ノカクル所ハ、山ノ西ヲイフナリ、山ノ西ヲイフハ、タマツヘタルノミナリ、○吾前ヲ云々、ワガ皇神ヲ稱辭盡シテ祭ラバトナリ、吾前ハ、後世イフ御前ナリ、ミツカラモ、サ宣給フヨシナリ、○皇神ノ言教ヘ云々、此ニヨリテ、コノ立田ニ社ヲ立テ、祭給ヒシヨシニテ、龍田神社ノ濫觸ナリ、此一段ハ、シカクノ事ニヨリテ、此神社ヲ立テ祭ルコトヲ、神主ドモニ宣給フナリ、御衣備ヘハ、コ、ニモ明妙照妙ヲイフヘキヲ、シバラクノ處ニ

重ナル故、コノ詞ニテキカセタルナリ、○コガネ云々、三ノコガネハ、ミナ形容ナリ、イカメシクイヘルコト、上古ノ風ナリ、三ノ具ハ、ミナ女工ノ具ナリ、姫神ユエ、カ、ル物ヲ備ヘ玉フナリ、麻笥ハ、麻桶ナリ、タ、リハ、令ノ義解ニ、線柱トアリテ、後世ノ麻杭ナリ、太神宮御神寶ニ、金銅ノ御櫛アリ、高一尺一寸六分、土居經三寸二分トアリ、ソノ形  ノゴトシ、栴ハ、後世ノカセナリ、臺ノ上、兩方ニ柱ヲタテ、糸カクル物ナリ  カ、ル物ナリ、栴ノ下ニ、原文ニハ、明妙、照妙、和妙、荒妙、五色ノ物ノ文字アレトモ、賀茂翁ノ削ニレタルニ從テ省ク、衍文ナルコト、上ニイヘルニテ知ルヘシ、○御酒ハ云々、コノ以下ハ、二柱ノ神ニミナカ、ルナリ、○千稻ニハ、千稻ヲナリ、○此段ニ毎年カクノコトク、四月七月ニ、祭ヲオコタルコトナク、仕ヘツレト、神主ドモニ宣給フナリ、

平野祭

天皇が大御命ニマス、今木ヨリ仕ヘマツリ來タレル皇大御命ノ廣前ニ申給ハク、スベ大御神ノコハシ給ヒノマニマニ、コ、ノ底ツ岩根ニ宮柱廣シキタテ、高天原ニ風木タカシリテ、天ノ御蔭、日ノ御蔭ト定メマツリテ、神主ニ神祇某官姓名ヲ定テ、献ル神寶ハ、御弓、

此篇、春日祭ノ祝詞ト同人ノ作ナルヘシ

高廣ノ句、初
テ見ユ、作意
妙、

御太刀、御鏡、鈴、衣笠、御馬ヲ引並へテ、御衣ハ、明妙、照妙、和妙、荒妙ニ備マツリ
 テ、四方ノ國ノ献レル、御調ノ荷前ヲ取並べテ、御酒ハ、ミカノヘタカシリ、ミカノハラ
 ミテナラベテ、野山ノ物ハ、アマナ、カラナ、青海原ノ物ハ、ハタノ廣物、ハタノ狭物、
 オキツモハ、ヘツモハニイタルマテ、クサグサノ物ヲ、横山ノゴトク、オキタラハシテ、
 献ルウヅノ大幣帛ヲ、平ケクキコシメシテ、天皇ガ御世ヲ、カキハニトキハニ、イハヒマツ
 リ、イカシ御世ニサキハヘマツリテ、萬世ニオハシマサシメ給へ、ト稱辭ヲヘマツラクト申
 ス、マタ申サク、參リテ仕ヘマツル親玉ダチ、王ダチ、臣ダチ、百ノ官人ダチヲモ、夜ノ守リ、
 日ノ守リニ、守給ヒテ、天皇カ朝廷ニ、イヤ高ニ、イヤ廣ニ、イカシヤグハエノゴトク、
 タチ榮エシメ、仕ヘマツラシメ給へ、トタ、ヘゴト、ヲヘマツラクト申ス、
 平野祭ハ、神名式ニ、山城ノ國葛野郡、平野ニマス神社四座トアリテ、一ニハ今木、二ニ
 ハ久度、三ニハ古關、四ニハ姫神ナリトイヘリ、今木ハ、借字ニテ、新來ナリ、三韓歸
 化ノ人ノスメリシ地名ニテ、大和ノ國、高市郡ニアリ、昔、廢帝ノイマタ大炊王ト申シ、
 頃、奈良ノ田村トイフ所ニオハシマシ、ニ、天平寶字元年四月、皇太子ニ立給ヒシヨリ、
 ソノ田村ニマス今木ノ大神ヲ、殊ノ外崇ミ給ヒシヲ、後、桓武天皇モ、崇ミ給ヒテ、平

安城ニ遷シ給シゾ、コノ平野神社ナルトイヒ傳ヘケリ、久度モ、大和ノ地名ニテ、龍田
 神社ノ近キ所ニ、久度村トイフ里アリ、ソコニマシ、神ナリ、古關モ大和ノ地名ニテア
 ルヘシ、文德天皇紀ニモ、古關トカケリ、古關トモカケルアレト、コノ古關トアルゾ實
 ナルベキ、コノ古關トイフハ、龍田ハ、昔ノ大和往來ニテ、ソコニ關ヲオカレシ事アリ、
 ソレヲ道ノカハレル世トナリテ後、關ノアリシ所ヲ古關トイヒテ、地名トモナリタルナ
 ルヘシ、サレハ、コレモ、久度ト同シ所ニシテ、ソコニマシ、神ナリ、姫神ハ、何チフ
 神ノ姫ナルカ、知ラス、右三柱ノ神モ詳ナラス、トニカク、今木ノ大神ヲ、平安城ニ遷
 シ給ヒシ後、同シクウツシマツリテ、崇ミ給ヒケルハ、ヨクヨクヨシアルコトナルヘシ、
 ソレト同時ニ、ソノ外ノ三座モ、ウツシマツリシナルヘシ、サテソノ祭ハ、仁朋天皇天
 安二年四月ニ始メラレシトイヘハ、此祝詞モ、ソノ頃ノ作ナルヘシ、尙祭式ハ、貞觀式
 ニ委シ、○皇ガ大御命ニマス、是ハ天皇ヨリ申給フニハアラス、神主ヨリ天皇ガ大御命
 ニマスト申スナリ、他ノ祝詞ト例異ニシテ、春日祭トノ同例ナリ、○今木ヨリ云々、大
 炊王ノマツリ給ヒシ時ヨリノ意ナリ、乞ハシ給ヒノマニマニ是ノ神々モ夢ノ告ナドア
 リシヤウニカケルナリ、廣シキ立、廣トイフ例ナケレトモ、意ハフトト同シ、前ニモ

テニ見エタリ、○日御蔭、コノ下ニカクリマスノ詞ヲ加ヘテミルヘシ式文ノサマナレハ省キシナリ、○神祇ハ、神祇官ノ主典以上ノ官人ヲ使トシ給フナリ、○荒妙ニハ、荒妙ヲナリ、前ニモ此例アリ、○イヤ高ニハ、官位ニ付テイフナリ、○イヤ廣ニハ、子孫ノ繁昌ニ付テイフナリ、

久度古關祭

天皇ガ大御命ニマス、久度古關二所ノ宮ニシテ仕ヘマツリ來レル皇大神ノ廣前ニ申給ハク、皇御神ノコヒ給ヒノマニマニ、コ、ノ底ツ岩根ニ、宮柱廣シキタテ、高天ノ原ニ、風木高シリテ、天ノ御蔭、日ノ御蔭ト、定メ奉リテ、神主某官位、是ハ大和ノ久度古關ノ二社ニ使遣シテ祭り給フ時ノ祝詞ニシテ、ソノ文平野祭ノト同シキ故、僅ニ發端ヲ示シテ、ソノ外ハ省キシナリ、

六月月次祭 十二月コ
レニ准フ

集リハベル神主祝部ヲ諸聞食セト宣給フ、高天ノ原ニ神ヅマリマス皇親神スヘムツロギ神ロミノ命モチテ、天ツ社國ツ社ト稱辭ヲヘマツル皇神タチノ前ニ申サク
コトシ水月月次ノ幣帛十八日ハ、コトシシハ
ス月次ノミテクラト云明妙、照妙、和妙、荒妙ニ備奉リテ、朝日ノトヨ

サカノボリニ、皇御孫ノ命ノウヅノ幣帛ヲ、稱辭ヲヘ奉ラクト申給フ

四時祭式ニ、月次祭ハ、六月十二月ノ十一日ト見エ、神祇令月次祭ノ辭ニモ、神祇官ニテ、祈年祭ト同シク祭ル、庶人ノ宅神祭ノコトシト見エテ、京畿諸國合セテ、三千百三十二座ノ神社ヘ、毎月幣ヲ奉テ祭給フヘキヲ、年兩度ニ分チテ、ソノ幣ヲ六月ト十二月トノ兩月ニ、諸國ノ神主祝部ドモヲ官ニ召サレテ、頒給フ、コレヲ月次ノ幣帛トハイフナリ、ソノ幣ノ正月ヨリ六月マテノハ六月、七月ヨリ十二月マテハ、十二月ニ頒給フナリ、カヤウニ、祈年祭ト同シク祭給フコトナレハ、祝詞ノ文モ、大カタ同シク、ソノ異ナル所ヲ、コ、ニ僅ニアゲテ、ソノ他ハスベテ略セルナリ、ソノ心シテコノ文ヲバ見ルヘシ、扱此祝詞ノ下ニ、原本ニハ、大御座、座摩御座、御門御坐、生島御座、伊勢、御縣、山口、水分、辭別、忌部等ノ諸篇ヲノセタレトモ、ミナ同式文ナレハ、コ、ニハ省ク、

祝詞評釋坤卷

加賀金澤 黒本植評釋

大殿祭

高天原ニ神ヅマリマススノラガムツ皇親神ロギ神ロミノ御言モチテ、皇御孫ノ命ヲ、天ツ高御座ニマサシメテ、天ツルシ璽ノカバミ劔ヲサ、ゲモチ給テ、言ホギ宣給シク、皇我ウヅノ御子、皇御孫ノ命、コレノ天ツ高御座ニ、天ツ日嗣ヲ萬千秋ノ長秋ニ、大八洲豊アシハラノ瑞穂ノ國ヲ、安國ト、平ケク知ロシメセト言ヨサシマツリ給テ、天ツ御量モチテ、言問シ岩根、木根ノタチ、草ノカキ葉ヲモ、トマメシメテ、天降り給ヒシヲス國ノ天下ト、天ツ日嗣知ロシメス皇御孫ノ命ノ御殿ヲ、今奥山ノ大峽カヒ小峽ニタテル木ヲ、齋部ノ齋斧ヲモチテ伐採リテ、本末ヲバ、山ノ神ニマツリテ、中ヲ持イデキテ、齋鉏イニキヲモチテ、齋柱タテ、皇御孫ノ命ノ、天ノ御蔭、日ノ御蔭ト造仕ヘマツレル瑞ノ御殿ヲ、汝彌生根ノ命ニ天ツ奇スシ齋言ヲモチテ、言ホギシヅメ申サク、

コレノシキマス大宮所ハ、底ツ岩根ノキハミ、下ツ網根、ハフ虫ノ禍ナク、高天原ハ青雲

祝詞評釋坤卷

此篇ハ藤原朝ノ作
 第一段天孫ノ大殿ヲ叙ス
 今上ノ大殿ヲ祝セントシテ先ツ天孫ノ降臨ヨリ説トス是我邦ノ典禮ニモ常ニ此体ヲ用フ天降シ給ヒテトアルヘキカ此ニ至テ初テ題ノ文字ヲ出ス
 今ノ字ト文ニスヘテ冠ス
 一東一頓
 第二段始テ本題ニ入り大殿ノ平安ヲ叙ス

古語ヲ鑄化シ
來テ乃チ典
雅此ノ如シ
無ノ字チ四
連下シテ平
安ヲ寫ス上
一東ハ頓上
ニ東ハ頓上
サクト結ア
第三段上文
守神ノ緊水
公人ノ平安
祈ル由ナ叙
天皇ノ上ニ
祝意ヲ叙シ
自家ノ上ニ
禱意ヲ叙ス
臣子ノ林チ
タリト云フ
コノ段以下
段ニ束一頓
皆下ニ係ラ
故ニ皆申ス
云フ語ナド
ス荷モセサ
ナ見ルヘシ
第三段、大宮
女ノ神恩ヲ
ス、大宮女
一句提起、
大殿祭ハ、齋
部氏ノ掌下
所、故ニ其仕
奉ル者チ以テ

一篇ノ命意ト
ス者
見直ノ上ニ、
神直日云々ナ
省ク、是文章
ノ省筆法
一句結得テ井
然

ノ〇〇引ク極ミ、天ノチタリ、飛鳥ノ禍ナク、掘固メタル柱、桁、梁、戸窓ノ錯ヒ、動鳴ル
コトナク、引結ベル葛目ノユルビ、トリフケル草ノ噪ナク、御床ツヒノサヤギ、夜女ノイ
ス、キ、イヅ、シキコトナク、平ケク、安ケク、守マツル神ノ御名ヲ申サク、
彌生根ク、ノチノ命、是木ノヤフネ豊ウケ姫ノ命ト、是稻ノ靈也、俗ニウガノミダトイフ、今ノ世、産
屋ニサキタル木ト、東ネタル稻トテ、戸ノベニオキ、
米ナ屋ノ中ニ散、御名ヲバタ、ヘマツリテ、皇御孫ノ命ノ御世ヲ、カキハニトキハニイハヒマツ
ラズノ類ナリ、
リ、イカシ御世ノタラシ御世ニ、タナガノ御世ト、幸ハヘマツルニヨリテ、忌玉作等ガ持
ユマハリ、持キヨマハリ、造仕ヘマツレル瑞ノ八尺瓊ノ御フキノイホツ御統ノ玉ニ、明ル
ニギテ、照ルニギテヲツケテ、齋部宿禰某ガ弱肩ニ太櫛トリカケテ、言ホギシヅメマツル
コトノモレオチムコトヲバ、神直日ノ命、大直日ノ命、キ、ナホシ見ナホシテ、平ケク安ラ
ケクシロシメセト申ス、
言別テ申サク、大宮賣ノ命ト御名ヲ申スコトハ、皇御孫ノ命ノ同シ大殿ノウチニ、塞ガリマ
シ、マキリマカヅル人ヲ選ヒシロシメシ、神ダチノイスロコヒアレビマスヲ、言ナホシ和
ハシマシテ、皇御孫ノ命ノ朝ノ御食、夕ノ御食、仕ヘマツル比禮カクル伴ノ緒、手纏カクル伴
ノ緒ヲ、手ノ躡ヒ足ノマガヒセシメズテ、親王、諸玉、諸臣、百人官人ダチヲ、オノガム

キムキ有ラシメズ、邪キ意、穢キ心ナク、宮ス、メニス、メ、宮勤メニ勤メシメテ、トガ
過アラムヲバ、見直シ聞直シマシテ、平ケク安ラケク仕ヘマツラシマスニヨリテ、大宮賣
ノ命ト御名ヲ、稱辭ヲヘマツラクト申ス、
大殿祭ハ、宮内省式ニ、神今食、新嘗ノ二祭アル、ソノ日ノ明日平旦ニ大殿祭アリト見エテ
神今食ハ、一年ニ兩度、六月十二月ノ十一日ニ行ハル、コノ祭モ、今ズリノ新米ヲ毎月キコ
シメスニ付テ、祭給フ祭ヲ、一年二度ニ分テテ、先ツ神ヲ祭給テ後キヨシメスヨシ也、六月
ハ、イマダ新稻ノ登ラザル時ナレハ、今ズリノ古米ヲ備ヘマツリテ、祭給フコト勿論ナレ
トモ、十二月ノ祭ニモ、神今食ハ、新稻ニハアラストイヘリ、コノ祭ヲ、昔ヨリ神今食トカ
ケトモ、ヨミハ、カムナヘトヨムヘキ也、ジンゴジキ、或ハジンコンダナドヨムハ、イフニ
モタラス僻言也、我ハサラニ一ノ考アリ、諸書ニハ、ミナ神今食トカケレドモ、是ハ神饗ト
カケル饗ノ字ノ草体、答トカケルヲ、アヤマリテ二字ニナシ、終ニ今食トナレルニハアラ
ジ歟、道饗トアル類ノコトク、神饗トカキテゾ、イト穩ナルヘキニ、何ヲ苦シミテカ神今食
ナトノナマナマシキ文字ヲ用ヒンヤ、是ニテモ、ソノ字体ノ誤レルコトヲ知ルヘシ、マシ
テ何レモ二字ナルヲヤ、元來、新嘗、大嘗、相嘗ナドカクモ、ミナニヒナメ、アヒナヘナトイ

フニアテタル字ニテ、モトハミナ新饗ニヒアヘオホアヘ、大饗オホアヘナトカクヘカリシナリ、是ハ余ノ臆度ナレトモ、マタク是ニタガヒアルマジトオモヒスレハ、一コトオドロカシオクナリ、サテ新嘗ハ、大嘗トモイヒテ、上古ニハ區別ナカリシカド、令ノ頃ヨリソノ區別ヲタテ、新嘗ハ、十一月ノ卯辰己ノ三日間、ソノ年ノ新稻ノ食ヲ、朝ニハ諸神ニ奉リ、夕ニハ天皇キコシメスコト、ハナリス、サテコノ二祭ノ明日平旦トアレハ、神今食ノ明日ハ、六月十二月ノ十二日ニシテ、新嘗祭ノ明日ハ、午ノ日ナリ、ソノ式ハ、貞觀儀式ニ見エテ、ソノ要ヲイハバ、神祇官、宮四合モチテ、八足案二脚ノ上ニスエテ、神部ニカ、セテ、仁壽殿ニモチ運ハシム、ソノ中、一合ニハ、四方ニカクル玉ヲ入レ、一合ニハ、切木綿ヲ入レ、一合ニハ、散米ヲ入レ、一合ニハ、御酒ヲ入ル、サテ中臣齋部等ハ、木綿ユフカワラ纒ヲツケ、忌部ハ、木綿ユフカワラ襷ヲコレニ加ヘ、御巫等ハ、夫々殿門ニ進ミテ米ヲ散ジ、齋部ハ、微聲ニ祝詞ヲヨミ訖テ、各所ノ殿門ヲハラヒキヨメマツルナリ、此式ハ、天上ノ儀式ソノマ、ニテ、神武帝ノ時モ、カ、リシコト、古語拾遺ニ見エテ、ソノ頃ノ祝詞モ、アリケムヲ基ニシテ、此祝詞ハカキシモノト見ユ、加茂翁モ云ル如ク、コノ祝詞ハ、六月大祓ノ祝詞ナトニ次デ、メテタキ祝詞ナリ、○命モチテ神ロキ神ロミノ命ヲ、天祖ノ承リ

以チテ也、以下ハスベテ、天祖ヨリ天孫ニ、ギノ命ニ仰セ給フヨシ也、○鏡、劍、コ、ニ玉ヲアケ給ハヌハ、玉ハ天ノ下シロシメスミシルシノ神寶ニシテ、必ソノ身ニツケ給ヘル物ナル故ナリ、サルカラニ、玉ヲモトヨリ授給フニハアレモ、大儀ノ時ハ、鏡劍ノ一ツヲアゲテ授受シ給フ例ナリ、○言ホギ、原注ニ、言壽トカキテ、古語ニコトホキトイフ、言ホキノ詞ハ、今ノ酒ホギノ詞ノ如シトアリ、後世賀ノイハヒナドニ、一種ノ祝文ヲヨム、ソレニ同シク、御即位ノ御時ニモ、一クサノ祝文ヲ奏ス、コレヲコトホキノ詞ト申スナリ、○宣シクハ、ノラスノスノ延也、○ウヅノ御子、ウヅハ、珍、愛ナドニアタリテ、メヅル詞也、後世ニテイハバ、ヨキ子トイフガゴトシ、○天ノ御量モチテ、天祖ノ諸神ヲツドヘ給テ、色々御評議アリシヲサシテイヘル也、ハカリヲタバカリトモイフハ、昔ハ物ヲハカルニ手ヲ用テハカリシ故、手量テハカリトハイフ也、度量ニハ量、評議ニハ議トカキワクルハ、漢文ノ上ノサタ也、サテ御ハカラヒニテアラブル神ドモヲ和シ給ヒシ故、御議モチテトハイヘル也、○言問ヒシ岩根、岩根、木ノ根、草ノカキハハ、漢文ニ亂賊ヲ平クルコトヲ物ニタトヘテ、披ヒ榛蕪シナトカケル如ク、コ、モ、我國上古ノ噲言ニシテ、諸ノアシキ神ヲ、岩根草木ニタトヘシ也、言問シハ、カタミニイヒアフコト也、岩

根ノサガシキガコトク、木ノ根ノタチ株ケヒノコトク、草ノカキ葉ノハビコレルガゴトキア
 シキ神々ノ互ニカタリアヒシモ、ミナミナ、天孫ニマツロハシメ奉リシトナリ、ト、メ
 シメテハ、原文ニハ、言止トアリテ、コトヤメテトヨミ來レトモ、ソレニテハ、ミヅカ
 ラソノ言ヲト、ムルニテ、コ、ニハ叶ハス、上文ニモ、御量以テトアルゴトク、コ、ハ、
 スベテ建雷ノ神、經津主ノ神ノ前驅シテ、アシキ神ヲ打拂給フカタヨリイヘル詞ナレハ、
 シカアルヘキナリ、ミツカラヤメタルニハアラヌナリ、是正シク寫シアヤマレルナルヘ
 ケレハ、今改メツ、抑ソノ誤ハ、令ノ字ノ草体ヨリ言トナレル也、令、言ヨク似タレハ、
 古文ニハ令止トアリシナルヘシ、古文ニ往々是等ノ寫誤アルハ、奈良朝ノ頃ヨリ、我國
 ノ古文ヲサタスルモノ、ヤウ々々ニ少ナクナリテ、一タヒ誤レハ、イツモソノ誤ヲ因襲
 セル世ノ姿トハナリコシ故ナリ、○ミアラカハ、御在所ミアリカノアリカヲ、アラカト音通ニテ
 イヘル也、所ヲカトイフハ、山ガ、隱ガ、住カトイフ類也、山ガハ、山家ナトカケド
 モ、ソハ借字也、○大カヒ小カヒ、カヒハ、谷ヲイフ也、良材ハ今モ必谷間々々ノオク
 マリタル所ニ有ル也、○齋部ノイムヲノ云々、神材ヲキリイダスニハ、齋部先ツソノ山
 ニ向テ祭シ、サテ後伐始ムルコト、昔ノ例ナリシ也、齋斧ハ、キヨメタル斧トイフ義ニ

シテ、スヘテ誠敬ハ、神ニ仕マツル道ナレバ、神事ニハ、必スイミトイフ詞ヲ用フル也、
 アシキキタナキヲイミテ、キヨキウツクシキヲ用フル意也、○本末ヲ山神ニ祭テ、木ノ本
 末ヲキリステ、山ニオキテクルヲ、山神ニソナヘマツルトハイヘル也、今モ遠江國人
 大木ヲ伐ルトキハ、ソノ梢ヲ、切タル本株ノ中ラニ、サシ立ツルト考ニイヘリ、イツレ
 古ヘノ遺風トゾオボユル、○汝彌生根命ニ云々、イマシ、ミマシノ別、既ニ注セリ、彌
 生根神ハ、木ノ祖神ナレハ、イヨ、生スル根本キネノ神トイフ義ヲ以テタ、ヘシ御名ナ
 リ、コノ下ニ向ヒテ、ナドイフ詞ヲソヘテ見ルヘシ、瑞ノ御殿ヲ祝フニ、此神ニ向テ祝
 フハ、建材ノ祖神ナレハナリ、○天ツククスシ云々、天ツクハ、美稱ニシテ、イトモノク
 シキ齋言イヒコトナリ、凡テノ意ハ、瑞ノ御殿ヲ汝彌生根ノ命ニムカヒテ、天ツククスシキ齋言ヲ以
 テ言ホキ、ソノ神ヲシツメイハヒ申シケルハノ意也、言ホギハ御殿ヲ受ケ、シツメハ、
 彌生根命ヲ受ケシ文法也、○下ツク綱根、原注ニ、番繩ツカヒナノ類ヲ、綱根トイフトイヘリ、番繩
 トハ、イクスヂモアハセタル強キ繩ヲイヘハ、ツナネハ、本結モトノノ大繩ナルヘケレドモ、
 コ、ハ、ハフ虫ノ冠詞ニ用タルナリ、下ツク繩根ヲウチハヘタルゴトク、ツラナリテハフ虫
 ノ意ナルヲ、ハフトイフ詞ニイヒカケタル也、古人ニコノ意ヲ解シタル人ナシ、○大ノ

チタリ、是モオモフニ、飛鳥ノ冠詞ニ用タルナルヘシ、サテチタリハ、古事記ノ應神天皇ノ大御歌ニ、モ、チタル家庭モ見ユトアルト合セ見ルニ、多キノ義也、マタ同記大國主神ノ文等ニ見エタル、トタル天ノ御巢トアルトタルモ、チタルト同シ詞ニシテ、是ハ俗ニイフゲウノシキ意ニ用タレドモ、ソノ多キトイフ義ハ同シ事也、又神武紀ニ我國ヲ細戈千足ノ國トイヘルモ、ヨキ劔ノ多キ國ノヨシナレバ、コ、モ空ニ多キ飛鳥ノ意ニ用テカクハイヘルコト、ウナヅカルヘシ、本居氏ハ、傳ニトタルハ、富足ノ義ニテ、千足ノ意ニハアラストイハレタレトモ、チハ、トミノ反ナレハ、物ノ多キヲイヘル詞ナルコト、畢竟ハ同一ニ歸スル也、サテ天ノチタルトイフヘキヲ、チタリトイフハ、冠詞ノ格ナリ、コ、ノ文ハ、スヘテ對句法ニシテ、磐根ノ極ミニ棚引ク極ミ、下ツ岩根ニ、天ノチタリ、ハフ蟲ノ云々ニ飛鳥ノ云々ミナ兩々相對セリ、是ヲ冠詞ト見ザル時ハ、只語意ノ碎クルノミナラス、句法ヲモナサヌ也、○堀立タル、コノ詞、柱ノミニカ、ル也、昔ハ、ミナ埋柱ナリ、サルニヨリテ、後々ノ大嘗祭ニモ、堀テ柱ヲタテ給フナリ、○キカヒ、木交ノ義ナリ、木ヲウチチガヘタルヲイフ也、昔ハ、木ニアナホリテ、クミアハストイフコトナク、ミナ木ヲヨセアハセテ、繩モテユヒカタメタル物ナレハ、動ミ鳴ルコトナ

クトハ云ルナリ、○葛根ハ、繩根ナリ、ソレニ葛ノ字ヲ用ヒシハ、上古ノ繩トイフハ、ミナ葛ナリシ故也、葛ノ字ヲカキテ、ツナトヨマセタル、詞字兩喻ノ書法也、○草ノソ、ギ、コノ草モ、上古ハ、スヘテ草ブキニテ、ソノ草ノ中ニテ、萱ヲ尤多ク用タル故、草ノ字ヲ、カヤトハヨマセタル也、後世モ、麻木モテフキタルヲモ、カヤブキトイヘルニ同シ、ソ、ギハ、噪ノ字ヲカキテ、原注ニ古語ニソ、キトイフトアリ、噪ノ字ノ意ニテ、後世ニテモ、輕躁ヲソ、カシキトイヘルソ、ナリ、ソ、キハ、動詞ノ活キニテ、ソ、カシキハ、形容詞ノ活キ也、○御床ノツヒ、ツヒハ繼合ノ略也ト云リ、○ヨメノイス、キ、ヨメハ、手弱女ノ義ニテ、ヤメヨメ普通ナリ、童女ヲモヨメリ、後世新婦ヲヨメトイフモ、ソノ義也、ミナ若キ女ヲサシテイフ詞也、ス、キハ、ソ、キト同シク、アワタ、シクサワダナリ、○イヅ、シキ、是モ上ニ似タル詞ニテ、イソギアワツル義也、イハ發語ニテ、ツ、シキハ、一種ノ詞ナリ、後世忌憚ナキ者ヲ、ヅッシキモノトイフモ、コレノ轉ニヤ、○ク、ノチノ命、クキ普通ニテ、チハ、モチノ義也、木々ノ持主トイフ義ニテ、原注ニ木ノ靈トアル如ク、木ノ祖神ヲ申ス也、○豊ウケ姫ノ命、原注ニ稻ノ靈トアルコトク、水穀ノ神也、俗ニウガノミタマトイフ、ウガウケ普通ニテ、同義也、ソノウケ

ハ、飢食^{ウエサ}ノ省カレタル也ト云ヘリ、飢エタル時ニ、食スル食物ヲ司トレル神ヲ、ウケ持
 ノ命トモ、ウカノ御靈トモ申スナリ、原注ノ米ヲ散ス云々ハ、初ニモ引テイヘルコトク、
 御殿祭ニ、コノ二神ヲ主ト祭給ヘルハ、一ハ木ノ祖神、一ハ食物ノ神ニテ、材ヲ以テ家
 ヲタツレハ、ク、ノチノ命ヲ祭リ、米ヲ以テ禍ヲ神ノ此殿ニ入ルヲ饗シテ、ソノ心ヲ和
 ハシテ、逐ヤラヘハ、保食ノ神ヲモ祭給フナリ、スヘテコレ神世ノナラハシ也、○タナガ
 ノ御世、上ニモステニ注セル如ク、タナガハ、道長ノ音轉ニテ、長キ御世ヲ道ノ長キニ
 タトヘシ也、○ミフキ、フキハ、ホギト音通ニテ、同義也、コノ玉ハ、スヘテ御壽スル
 爲メニ用フルナレハ、カクハ云ヘルナリ、○明ル和幣、上文ニハ、ミナ明妙トイヘルヲ、
 コ、ニニギテトイヘルハ、ニギタヘノ約ニテ同義也、○神直日命、大直日命、二神ハイザ
 ナギノ命ノ御子ニシテ、萬ノ事ヲヨキニ直シ給フ神ト申セリ、ナホヒハ、アレビウトビ
 ナトノビト同シク、ナホブリノ反ナホビニテ、モト動詞ヲ名詞ニシタル詞也、何事モ見
 直シキ、直シ許給テト、神ノ御名ヲ申シテ、イノルナリ、○大宮賣神、ステニ上ニイヘ
 ル如ク、天岩戸ノ御時ニ、後世ノ内侍ノゴトク、大内ニアリテ、天功アリシ女神也、○
 フサガリマシ、後世ノハ、シテキルトイフ詞ニヨクアタレリ、何事ニモ、拔目ナク目ヲ

ハリツメテキル義ナリ、サヤリトモヨメリ、神武帝ノ御製ニ、鳴ハサヤラズトアルト同
 シク、物ノ内ニ一杯ニナル心也、要ハ寄ル隙ル塞カル皆大同小異ノ詞也、○參罷
 ツル人ヲ、原文ニハ、ノトアレトモ、誤リ也、御門祭ニハ、參罷ツル人ヲトヒシラシト
 アリ、ソレニ隨テ改ツ、○イスロコヒハ、上ニ見エタル、イス、ギト同シク、語ヲ延ヘ
 タル也、イハ發語、コヒハ反シキ、イスロギ也、サワギタチテアラブルヲイフ也、越中
 ノ地名ニ石動アリ、イスロギノ假名ナルヘシ、○ヒレカクル伴ノヲ、百官ノ屬僚ヲ伴
 緒トイフ也、緒ニ男、雄ナトカクハ、借字ニテ、多クノ組ヲ玉ヌク緒ニタトヘシナリト
 イヘリ、女ニモ伴ノ緒トイヘハ、サモアルヘシ、ヒレカクルハ、女官ノ屬僚ナリ、タスキカ
 クルハ、百官ノ屬僚ナリ、ヒレハ、女ノタスキニテ、幅ヒロナルヲトリワケテヒレトハイフ
 ナリ、縫殿式ニ、領巾四條料、紗三丈六尺、條別ニ九尺トアリテ、紗以テ作り、婦人ノ項ノ飾
 トモセル服ナリ、ソレヲヒレトイフハ、魚ノヒレト同シク、ヒロキ物ノ兩方ニタレタル物
 ナレハ、ヒレトハ云ルナリ、後世ノ振袖ナトイフモ、昔ノヒレト趣同シカルヘシ、タ、古ヘ
 ノハ、項モトヨリカケテ、一ハ飾トナシ、一ハ袖ヲ送ル料ニモシタル也、○手ノマガヒ、
 手足ノミダレマガフヲイフニテ、顛躓スルハ、ミナ脚ノ取紛フナレバ、躓ノ字ヲアテタ

リ、○セシメス、原文ニ不合爲トカケルヲ、ナサシメストヨメレドモ誤ナリ、ストナスト
ニハ區別アリ、辨フビシ、○オノガムキノアラシメスハ、一途ニ向ハシメテノ意也、
○宮ス、メハ、宮中ノツカサラス、メニス、マシメナリ、○宮ツトメハ、宮仕也、重ス
ルハツヨクイヘルナリ、○稱辞ヲヘ、辞ノ下ニヲモジヲハブキシハ、上ニアル故也、

御門祭

奇磐間門、豊磐間門ノ命ト御名ヲ申ス事ハ、四方内外ノ御門ニ、ユヅ岩村ノゴトクフサガリ
マシテ、四方四角ヨリ、疎ヒ荒ビコム天ノマガツヒトイフ神ノ、イハムマガゴトニ、相マ
ジコリ、相口アヘ玉フコトナク、上ヨリユカバ、上ヲ守リ、下ヨリユカバ、下ヲ守リ、待
防キ、掃キシヅケ、イヒヒラキマシテ、朝ハ御門ヒラキ、夕ハ御門タテ、參リ罷ヅル人ノ
名ヲトヒシラシ、答過アラムヲハ、神ナホビ大直ビニ、見直シキ、直シマシテ、平ケク安
ラケク、仕ヘマツラシメ給フ、カレ、奇磐間門命、豊磐間門命ト御名ヲタ、ヘゴトヲヘマ
ツラクト申ス、

此祭ハ、祈年祭ノ所ニ見ユルガゴトク、御巫、神主トナリ、忌部、祝詞ヲヨミ奉ルナリ、
六月ト十二月ト、一年兩度、此祭ハアルナリ、○申スコトハ、此句ノ上ニ、脱文アルヘ

此篇、前篇下
一段ト、同一
ノ筆墨

此處ハ裏ヨリ
説ク

此處ハ表ヨリ
説ク

シ、祈年月次ニ、御門ノ御巫ノタ、ヘゴトヲヘマツル、皇神ダチノ前ニ申サク云々トア
リ、カヤウノ句ドモアルヘキナリ、○内外ノ御門、内ハ宮中ノ重ノ御門、外ハ宮城ノ御
門也、○フサガリマシ、大殿祭ニイヘルガ如シ、○天ノマガツヒ、イザナギノ命ノ御子
也、惡シキ神ニテマシ、シ也、○マガゴト、原注ニ惡事、古語ニマガゴトトイフトア
レトモ、マガハ曲ルノマガニテ、神直日ノナホニ對スル詞ナレハ、惡ノ字ハ、借字也、
曲、枉ノ字ヲ用テヨシ、○相口アヘ云々、マガツヒノ神ト相交ハリ、心ヲアハセ玉フコト
ナクト也、アヘハアハセノ約ナリ、後世、心ノヨクアヘル間ヲ、相口トイヘルハ、コレ
ヨリ出シニテ、古キ詞ト見ユ、○上ヨリユカバ、タヅユクトノミアレド、ユキ、ノ意ナ
リ、上文ノ來ノ字ト相對シテ見ルヘシ、○待防キ、惡キ神ノ來ルヲマチ防クナリ、後世、
人ヲマチフセシテトイフモ、コレヨリイテシ也、○言ヒラキ、口アヒノ反ニテ、言ヲ以
テ説ヒラキ、ソノ物ヲシリソクル也、後世申分スルヲ、イヒヒラキトイフハ、義イサ、
カ轉セリ、

六月晦日大祓

十二月コレ
ニナスラフ

集ハリ侍ル親王、諸王、諸臣、百ノ官人タチ、諸キコシメセト宣給フ、天皇ガミカドニ仕

へマツレル比禮カクル伴ノ緒、タスキカクル伴ノ緒、鞆オヘル伴ノ緒、太刀ハケル伴ノ緒、伴ノ緒ノ八十伴ノ緒ヲ初テ、官々ニ仕へマツル人ダチノ過チ、ヲカシケム雑々ノ罪ヲ、コトシミナツキツコモリ六月晦ノ大祓ニ、ハラへ給ヒ、清メ給フコトヲ諸キコシメセト宣給フ

六月十二月ノ兩度ニ大祓ノアルコトハ、大寶令ノ定ナリ、ソノ以前ハ、事ノアルニ臨ミテ、祓アリシモノ也、天武天皇ノ御時ニ、ヒデリアリテ、異星アラハレ、アシキ病、ハヤリナトセシカバ、詔アリテ四方ニハラヒセシメ給ヒ、國別ニソノ用物トシテ、國造ニ祓柱ノ馬一匹、布一常、郡司ニ、各刀一口、鹿皮一張、鏝一口、戸ゴトニ麻一條輸サセラルト、ソノ紀ニ見ユル類ナリ、サテ祓トイフコトハ、イザナギノ命ヨリ始マリテ、身ノケガレヲ打ハラフナリ、ミソギトモイフ也、是モイザナギノ命ノ故事ニ始マリテ、ソノ義ハ身滌ミソギニテ、身ノケガレヲソ、ギアラヒ清ムルナリ、ソレヨリ、スサノヲノ命、アシキ事アリシカバ、ソノ罪ヲセメテ、アガ物ヲイダサシメ、コレヲ祓物トシテ、逐ヤラヒ給ヘリ、後世ノ過怠銀、罰金ナドノ始マリ也、以上、ミソギ、ハラヒ、祓物、コノ三種ハ、神世ノ重ナル法典ニシテ、後世刑法ノソモノ、濫觴ナリ、マタソノ罪ヲハラヒ、身ヲキヨメ、代物ヲイダシテ、ソノケガレヲツクナヒ、罪トイフ罪ハ、聊モソノ身ニアラセジ

ト、神世ヨリ人ノ世マテモ、タエス行ハセラル、コト、是又我大御國ノイトモノ、尊キ風教ノ本トナリ、イカナル外國ノキタナキ者トテモ、一タビ我大御國ノ土ヲフメハ、ヤガテソノナラハシニウツリテ、ナベテ神州清潔ノ民トナリテ、赤キ清キ心ヲ以テ、上ハ御門ミカドニ仕へマツリ、下ハソノスミ所ヲ清メ、アシキ病モオコラヌヤウニト常ニ心カクル、ソノ大源頭ハ此祓ニアリ、スベテ我御國ノ人ノ潔癖ナルハ、此國ノ山水清冽ナルニモヨルベケレドモ、一ハコノ尊キ神々ノ教ニヨリテコソ、カクハアタシノ國ニモ、比類ナキ清キ麗ハシキ國民トハナレルニテ、返々モ世ニアリガタキ風教ナレハ、今モソノモトヲ心得テ行フヘキ事ニコソ、サテコノ祝詞ハ、イタリテ長キ文ニシテ、上一段、中一段、下一段ノ文牒、大ニ異ナルハ、同時ノ作ニアラサルコトシルシ、今オモフニ先輩ノ云ヘル如ク、中一段ハ、神世ソノマ、ノ古文ニシテ、上一段ト下一段トハ、奈良朝ニイタリテ、前後ニ加ヘシ者ナリ、奈良ノ比ヨリ、何事モ漢風ニナビキテ、我國ノ事ニハ、ヤウノウトクナリ、神世ヨリイヒツギカタリツグ古言ヲ、ソノマ、ニカキツラネテ、ソノ前後ニ聊カ詞ヲ加ヘテ、ソレニテ一篇ノ文トナレルモノ、ヤウニ、オモヘルコソアサマシケレ、今時ノ上奏文手簡文ニ至テハ、サラニ一變シテ、俗文ノ前後ニ古語ヲ二三語ツ

再遺罪ナキナ
点ス、是精神
ノ瀧マルル處
疊語ヲ以テ千
里萬里ノ遠キ
ヲ寫ス、龍田
祭若宮ハ云々
筆法、其妙盡
ヌヘカラス
三タヒ罪ト云
々ノ句ヲ点ス

アラジト祓へ給ヒ清メ給フコトヲ、高山ノ末、低山ノ末ヨリ、サクナダリニオチタギツ速
川ノ瀨ニマス瀨オリツ姫トイフ神、大海原ニモチ出デナム、カクモチイデユカバ、荒瀨ノ
潮ノヤホチノヤシホチノ潮ノヤホアヒニマス速開ツ姫トイフ神、モチカ、ノミテム、カク
カ、ノミテム、イブキトニマスイブキトスシトイフ神、根ノ國底ノ國ニ、イブキハナチテ
ム、カクイブキ放テバ、根ノ國ノ底ノ國ニマスハヤサスラヒ姫ト云神、サスラヒウシナヒ
テム、カクウシナヒテバ、天皇ガ朝廷ニ仕ヘマツル官々ノ人タチヲ始テ、天下四方ニハ、
ケフヨリ始テ、罪トイフツミハアラジト、高天原ニ耳フリタテ、キク物ト、馬ヒキタテ、
ゴトシミナ月、晦ノ日ノ、夕日ノクダチノ大祓ニ、ハラヘ給ヒ、清メ給フコトヲ、諸キコ
シメセト宣給フ。

神ロキ神ロミ、諾冊ノ二神ヲ申ス也、○命モチテ、皇親ノ大御命ヲ、天祖ノ承リモチ給
フ也、○神ツドヘニハ、神ツトハセノ約也、コ、ハ、敬語ニカクイヘル也、人ニツトハ
スルニハアラス、下ノ祓へ給ヒトイフモ、コレ也、サテコノニモジ、原文ニナキハ、オ
チタルナルヘシ、神拂ニ拂給フナト、ミナニモジアルニテシルヘシ、今加ヘオク、神議
ニノニモジモ同シ、○皇孫ノ命ハ、皇孫命ニオキテハノ意也、○豊葦原云々、豊ハ、大ト

同シク、美稱也、葦原ハ、我國、太古ハスベテアシハラナリシ也、ミツホハ、ミヅノ、
シキ穂トイフニテ、美稻ヲイフ也、稻ハ、上古ヨリ此國ノ尤モウルハシキ田ナツ物ナレ
ハ、稻ヲタ、穂トイヘリ、○言依シマツリキハ、仰付ケラレシト也、○神トハシ、神ハ
敬語也、トハシモ、トフノ敬語也、コ、ノ二句ハ、天孫降臨ノ時、建雷ノ命タチヲ中ノ國
ニ先ツ遣ハシ給ヒシ事ヲイヘル也、○言問シ云々、既ニ上ニ注セリ、○ト、メシメテ、
原文ニ語止トカケリ、是モ上ニ改メタルコトク、各ノ字ヲ言ニアヤマリ、ソレヨリマダ語
ノ字ヲアテタルナリ、○岩座、太古ハ、岩ノウチニ座ヲシメテ住ミ給ヒシ故、カクイヘ
ル也、○イツノチワキニ云々、イツハ原文ニ、イツト濁レル假名用タレトモ、是ハ嚴ノ
字ニアタレル詞ニテ、清ミテヨメルゾヨキ、稜威ノ字ヲアテタリ、稜威ハ、威稜トモカ
キ、漢書ノ注ニ、神靈ノ威ヲ稜トイフト云ヘリ、稜ハ、稜トカケルガ本也、嚴シクイカ
メシキ義也、チワキハ、道別也、キヒシク道ヒラキシト也、道ヲチトイフハ、路ニアタ
リテ、小路也、路ノ大ナルヲホメテ、ミチトイフナレハ、ミチハ道ニ當ル也、大道小路
ニテ、チ、ミチヲ分ツヘシ、○モナカハ、マナカト同シ、今ハマンナカトイフ、最中ト
カクハ、義ヲ以テ書ケル也、真中ヲマホラトモ、古言ニハイヘリ、マホラハ、マホラマ

ノ略也、マホロハトモイヘリ、ヲ、ロ音通也、義ハ真秀也、何ニテモ、ソノ中ノ最ヨキ
 處ヲホトイフ、國ノ秀、稻ノ穂、ミナシカリ、ヲハ、助詞也、マハ、バト音通ニテ、バ
 ハ、ニハノ約リテ濁レルニハアラジカ、ツマレバニゴルハ、國語ノ格也、真秀場ノ意ニ
 テ、イタリテヨキ所也、一説ニラマハ助詞ナリトモイヘリ、サレハ宣命ニ見ユルラマカ、
 或ハ然ランモ知ルヘカラス、尙考フヘシ、○大倭、コノ名ハ、同國ノ山邊郡ヤマト郷ヨ
 リ起リテ、終ニ一國ノ名トナリヌト見ユ、ト考ニ云ル、此説得タリ、○日高ミノ國、ミハ
 淺ミ深ミナトイフミニテ、高所ノ意也、上古ニテモ、都ヲオクニハ、必高地ヲエラビシ
 故、ソノ高地ヲ日高ミノ國トハイヘル也、コ、ハ都シ給ヒシ大和ノ國ヲ稱シテイヘル也、
 日ハ、美稱也、スヘテ神世ノ美稱ヲ先ツ知リオクヘシ、マ、ミノ外、天、日、神ヲ、ミナ
 カリテ美稱トセリ、是ハイツレモ天祖ニ基ツケル也、○天ノ益人、天ハ例ノ美稱也、益
 人ハ、萬民ヲイフ也、萬民ハ、草ノ繁殖スルガゴトシ、日々マス物ナレハ、益人トハイ
 フ也、或ハ青人艸トモ云リ、ソレヲ美メテイヘルハ、大御寶ト稱シ給ヘルガゴトシ、○
 犯シケム、ケムニ二種アリ、一ハ過去推量、一ハ現在推量也、コ、ハ現在ノカタニテ、
 ケンハ、ケルランノ略也、○雜々ノ罪事、コノ事ハ、今ノ詞ニ、諸犯ノ儀ハトイフ儀ニ

アタル、スヘテ私事、母事ナトイフハ、昔ヨリノ詞ニテ、ソノコトニ、儀ノ字ヲアテ、
 私儀母儀トハイヘルナリ、ソノコトニ、ミヲ加ヘタルガ、ミコトニテ、ソレニ、命、尊
 ノ字ヲアテタル也、即チイサトキノイコト諾尊ハ、諾御儀也、西行法師ノ何事ノオハシマスカハト、伊
 勢ニ詣テ、ヨメルモ、何尊ノ意ナリ、歌ナレハタマコトトイヘルナリ、○天罪トハ、萬
 民ノ罪ヲ天罪、國罪ト分チテ、素尊ノナサレシ罪ニ似タルヤウノ罪ヲ、天罪ニカケ、ソ
 ノ他ノ諸犯ヲ、國罪ニカケシナリ、一本ニトモジノ下ニハモジノアルハ、下ノ國罪トハ
 トイフニムカヘテ加ヘタルニテ、中々ニ安シカラス、コ、ハ上ニ罪事ハトアルニヨリ
 テハブキシ也、祝詞ナトハ、文ノシラベヲ重ンズルモノナレバ、他ノ文トハ等シカラス、
 ○畔ハナチ、畔アヒヲトリ放チテ、多クノ田ヲ一枚田ニナス也、○溝埋、灌溉ノ溝ヲウメテ、
 水ヲ通サス也、○シキ蒔、マキタル種ノ上ニ、マタマク也、シキハ重ノ意也、シキリニ、
 シキ波、ミナ同義也、○クシサシ、串ハ杭ヲイフ、人ノ田ヲ奪ヒテ、我田ノシルシノ杭
 ヲウツ也、○生ハギ、畜類ヲ生カシタルマ、ニテ皮ハグ也、イケハイカシノ約也、○サ
 カハギ、畜類ノ尻ノカタヨリ皮ハグ也、是ハ死タル畜類ヲカクシテ戯フルナトノ見苦シ
 キワザスルナリ、コノ二種ノウチニ、自ラ罪ノ輕重ハアル也、○クソト、クソヒル所ノ

義也、トハ、トコロノトニテ、處ヲト、ノミイヘリ、今ノ便所也、天祖ノ齋殿ヲ、便所
 ニシタル罪也、又後釋ニ、戶ハ、ベトヨムヘシ、ベハヘリノ略ニテ、ヘリハヒリト同言
 トイヘリ、コレニヨレハ、クソヘハ、クソスルト云義也、サレトモ、右畔ハナチヨリ逆
 剝マテハ、一見シテ罪トモミラルヘケレモ、コノクソトヲタ、クソスル義トミテハ、イ
 カデカ天罪トシラルヘキ、齋殿ヲクソドニナシタルカラニ、罪トモナレルナレハ、クソド
 トヨミテ、ソノ故事ヲサグラスルカタ、穩ナルヘシ、○コ、ダクノ罪、コ、ダクハ、イ
 クバク、ソコバクナドイフ類ニテ、許多ノ義也、罪ノ下ニ、イデンノ詞ヲ省ケル也ト、
 後釋ニ云ヘリ、下ノ國ッ罪ノカタニ加ヘタレハ、コ、ニハ省テ、ソレト知ラセタル也、
 ○死肌タチ、是ハ、上ノ逆剝ニムカヒタル詞ニテ、死人ノ肌ヲタチナトスルモ、罪トセ
 ルハ、ミナ見苦シク、穢ナキヲキラヒテ罪トセル也、是レ等ヲミテモ、祓ノヲシヘ、他
 ニ類ナキコト也、マタ右二種ノウチニ、罪ノ輕重アリテ、コレハ輕罪也、○新羅人、古
 勾麗、コクリハ高麗ノ古名ナリ、高麗ハコリノ假字ナリ、是ニヨリテ見レハ、高勾麗ノ
 時代ヨリ歸化セルモノト見エタリ、下ノ罪ハ、ミナ歸化人ノヲカセル罪ナリ、コノ方ニ
 カツテナキ罪也、是ニテ我大御國ノ人ノ清キコトヲシルヘシ、カノコクリ、シラキノ人

モ、イツシカコレニ化シテ、サル罪モヲカサヌコト、ハナリツレトモ、其カミハ、カ、
 ルキタナキ、イマノシキ、見苦シキ、聞苦シキ、ワザモシタルモノ、アレバコソ、コ
 ノハラヘニハ、殊更ニカ、ゲテハラヒ清メ給ヒシナレ、シカルニ、古久麗ノ下ニ、原文
 ニハ、ノモジノナキハ、イカニゾヤ、モシ下ノ罪、歸化人ノ罪ナラズハ、コノ新羅人古
 勾麗ノ上ニハ、何ヲカハラヘル、是レ正シク脱文ナルヘケレハ、今ハ加ヘツ、サテ祝詞
 考ニ、或説ヲ引キタルニ云、推古天皇紀ニ、百濟人ノ面身斑白ナルガ來リシト見エ、和
 名抄ニモ、シラハタ(白癩)コクミ(瘰癧)トアレハ、コハ惡疾也、疾モ人ノ罪ヨリ起
 ルヨシナレハ、コ、ニアグト云リトゾ、是新羅人、古勾麗ヲ國名ト見ザル説ニシテ、ト
 ルニモタラス事ナレトモ、往古三韓ヨリカ、ル惡疾ノ人モ來テ、オノツカラ此キヨキ國
 ニモサルアヤシキ病ノ遺傳セルコト、モナリスラン、ソモノソノ惡疾ノヨリテ來ル所
 トイハ、必ス下ノ母子犯セル罪ヨリ起リ來ルナルヘシ、返々モ穢キ國ノケガラハシキナ
 ラハシノコ、ニモ行ハレタランニハ、一ハ右ノ如キ惡シキ病ノ源トモナリナントノ神慮
 ヨリ、カクハ、年ニ兩度ノ大祓ニ、殊更ハラヘ玉フニテモアルナルヘシ、ソノ旨イトノ
 遠シトイヒツヘシ、是等ノ罪ヲ、我國ノ人ノヲカセルニヤトオモヘルハ、古ヘノ清キ世

ヲ知ラヌモノ、目ヨリミテイフコト也、賀茂翁モ云ヘラク、皇朝ノ例ニテハ、母ヲ尊
 ムルコト、他國ト異也、カレ同母兄弟ヲ兄弟トシ、異母兄弟ヲ兄弟トセス、故ニ輕ノ太
 子ノ同母兄弟ニ通シ給ヒシヲ、イミジキ罪トシテ、太子ヲ廢シテ、島ニシモ放奉リシホ
 ドノ事也、サルヲイカデカ、母子相奸スコトノアラン、惣テ吾朝ノ古書ニハ、何事ヲモ、
 忌隱スコトナキニ、母ヲカシシトイフコトノカリニモ見エザルニテ、ヨクノ古ヘ
 ヲオモヘト、イハレタル、イト尊クゾアリケル、○巳カ母犯セル罪云々、奸罪ニ、強姦
 アリ、和姦アリ、コノ二ツハ強姦ヲイフナルヘシ、母ト子トヲカセル罪云々、コノ二ツ
 ハ和姦ヲイフナルヘシ、字法ノ上ニテ、オノツカラソレトシラレタリ、サテソノ和姦ト
 見ユル二ツノカタハ、ミナ母子ノ姦ニシテ、前後ノ異ナルノミナルハ、コノ前後ニヨリ
 テ罪ノ輕重ヲツケタルナルヘシ、○畜ヲカセル罪、鷄婚、犬婚ナト、古事記ニ見エタル、
 ソノ類ヲイヘルナルヘシ、是等ハ、尤モキタナク、人倫ニアルマジキコトナルヲ、歸化
 人ノヲカセル、皇國ノ人ノ初メテ見タル、イカハカリオトロキケム、察ノ外ナレハ、尤
 祓ニカケシ也、○ケモノ倒シ云々、畜ヲ苦シメテ倒シ、ソレヲモテ蠶物トシテ、人ヲイ
 ノリコロスナトノ類也、後世犬神トイフワザ、コレニ似タリ、是等モ、我國ニカツテナ

カリシコト也、ミナ歸化人ノモチ來リシ魔法也、サテコノ句ト、畜犯セル罪トノ間ニ、
 昆蟲ノ災、高ツ神ノ災、高ツ鳥ノ災トイフ三句アリ、コレ何ノ罪ソヤ、カウヤウノ詞ノ
 アヤマリテ入リスルニ、一人トシテ疑ヲカケタルモノ、ナキハ、イヅカシ、今ケヅル、
 コレヲ除テ、ケモノヲカセル罪ニ、ケモノタフシノ句ヲムカヘタル、句法上ヨリミルモ、
 オタヤカナラスヤ、考ニハ僅ニケモノヲカセルノ次ニ、鳥ヲカス罪ナドイフ句ノオチタ
 ルニヤト、疑ハレタレトモ、コレハ、ケモノヲカセルノ句ニカネシメタルニテ、サル例
 イト多ケレハ、決シテオチタルニハアルヘカラス、○大^{シカトミ}中^{ナカ}臣、中トミハ、中ツオミノ約
 也、神、皇ノ間ニタチテ、トリツギスル親シキ臣ヲ、中ツオミトハ申ジ、ナリ、後世ノ
 奏者番、御取次ナトニアタル官ナレハコソ、祝詞ヲモ奏^{マウ}スナレ、ソノ官ヲ長ク仕マツリ
 シカ故ニ、ヤガテ中臣トイフカバネヲモ賜ハリシナリ、サテソノ中臣ノ神祇官ニ仕ヘマ
 ツレルヲ尊ミテ、美稱ノ大ヲ加ヘシ也、○天ツカナギ、カナギハ、小キ木ヲイフ、考ニ
 握^{フカナ}之木ノ義也ト云リ、今モ東國ノ人ハ、薪ヲカナギト云ル、ソレ也、小枝ヲユヒテ物オ
 キトスル也、即稔ノ物ヲスユル也、別ニカナギトイフモノ、刑具ニアルハ、金木ノ義
 ニテ、鉗ニアタル、コレトハ別也、○チクラノオキクラニオキクラハシテ、チクラハ、

幾等トナク也、オキクラハ、オキ所ニテ机ノヤウナル物ヲイフ也、オキタラハシテハ、多クオキミタシテ也、○天ツ菅麻、菅ハ、古ヨリ稭ニ用テ、ケガレヲハラヒシニヨリテ、スガトハイヘル也、スガハスダトモイフ、キヨクスガノシクスルヨシノ名也、麻モ、麻ノサキタルヲ、イトソトイヘルソレニテ、是モ御稷ニ用フル也、コノ名モ、麻ヲサキテ稭ニ用タルヨリノ名ナリト覺ユ、考ニサキノ反シ、ソレヲソニ轉シタル也ト云リ、或ハシカラム、○ヤツハリハ、イクスデニモ裂クノ意也、○低山、コノ訓ヲ、何ト讀ムヘキニヤ、原文ニハ、短山トアリテ、ソレヲミシカ山トヨメリ、ミジカ山ハ、長山ニ對ヒテノ詞ニテ、高山ニムカフ詞ニハアラス、考ニハオト山トアレトモ、コレモ、高山ニムカフ詞トモ覺エス、古事記ニ、オト山ヅミトアルハ、正カ山ヅミニムカヒシ詞也、オノレ案ニ、日本紀ニ、侏儒ヲヒキウド、ヨメリ、背ノ低キ人ノ意也、サレハ、コ、モ高山ニ對テハ、ヒキヤマトヨミテ、何ノ事モナキ也、サテ末トハ麓ニ對シテ、峯ヲ云也、○イホリハ、煙氣ノタチ登ルヲイフ詞也、自動ニハ、イホリトイヒ、他動ニハ、イホストイフ也、後世フスブラスヲ、イブストイフハ、イホスノ音轉也、高山ノ雲霧ヲカキワキテト云意也、○シナトノ神、既ニ注セリ、ミナトベノ神トイフヘキヲ省キテカクイヘルハ、

後ノ詞ナリ、○アシタノミキリ、アシタハアサノ延ナリ、ミキリハ、霧ノ多キヲタ、ヘテイヘルニテ、大霧ナリ、○サクナタリハ、前ニ注セリ、○オチタギツ、コノツ文字原文ニオチタリ、コノ詞ナクテハ、下ニツカス、萬葉ニタキツ速川トアル、コレニナラフヘキ也、ツヲチトモ云ヘリ、○セオリツ姫ハ、瀬下^ツ姫トイフ義ニテ、水ノ河瀬ヲハヤクナカレオリテ、大海原ニイツルヲ、神ノワサトシタル、ワカ國神世ノ風也、一種ノ擬人法ト見テヨシ、スヘテカウヤウノ事ヲ、一ノ物語ニシテ、人ニカタリツグヲ、稚語トイヒテ、女ヲラハニキカシムルニ、面白クオカシクツクリナシテ、人ノ心、神ノ意ヲナゴシ和ラグルウチニ、昔ノ故事ヲ、後ノ世マテモ、永クイヒツギカタリツギテ、永ク失ハヌヤウニスルガ、一ノヲシヘニテアル也、コノ一段モ、ソノ類ニテ、萬民ノナセル一年半年ノクサノノ罪ヲハラヘキヨメテ、河ニ流セハ、ソノ罪ノ穢ナキガ、河水ニナガレユキテ、トク河瀬ヲオリテ、大海原ニイデ沖ノカタ幾萬里トモハカラレヌ所マテ、ナガレユクヲ、サラニ潮風タチテ、吹ハナチ、イツタトモナク、サスラヒユキテ、キエウセヌルヨトイフヲ、例ノ擬人法ニテ書ナシタル、面白キ稚語物語ナラスヤ、支那ノ莊子ガ書ニ、寓言トイヘル物モテイヘルモ、コノ類ナリ、サルコ、ロニテ、コノ間ノ文ヲ味

フヘキニコソ、○潮ノヤホアヒ、海中ノ暖流寒流ノユキアフ所ヲ云ルニテ、黒潮ノ通フ所ノ如キヲイフ也、○速開^ハ姫^ハ、是ハ、イサナギノ命ノ御子ヲ、カリ來テ云ル也、ハヤアキツトイフ御名ヲカリテ、川瀬ヲナガレオチテ、大海原ニイデタルヲ、ハヤクトリテソノ神ノアキタル口ニ、ガブノトノミ玉フ也、例ノ雅語ナリ、○カ、ノミ、後世ノガブノトイフ形容詞ハ、コノカ、ヲノベタルナレバ、ソノ意也、○イブキトニマス、物ヲノメハ、必息氣^{イキ}フク物ユエニ、イブキトイフ、ソノ息氣ノイヅル處ヲト、イフ也、即チ速開ハロヲイヒ、氣吹^{イキ}戸ハ、ソノ神ノ喉^{ノド}ヲイフ也、○根ノ國ノ底ノ國、ハテノノ國ヲイフ也、ネトイフモ、ソコトイフモ、ミナ物ノハテカギリヲイフ詞也、出雲ノ國ヲ根ノ國トイヒシモ、中ツ國ヨリミタル也、コ、ハ、海外萬里ノ國ヲサシテイフ也、○サスラヒハ、イヅクトモナクタチサル意也、流離左遷ナトヲモヨメリ、今モ東國ニテサスラヒユケカシナドイフハ、シヅカニユケノ意ナレハ、義ハ轉スレトモ、サスリハサスラヒノ約ニテ、詞ハ古ヘノ遺也、○耳^{ミミ}フリ立テ、云々、馬ハ耳トキ物ニアレハ、高天原ニマス神ノ、ハヤクソレトキ、給フ物ゾトノシルシニ、馬ヲ^{ウマ}稭柱^{ハネ}ニイダセル也

其 三

四ツノ國ノト部^トラ、大川^{オホカハ}邊ニモチマカリデ、ハラヘヤラヘト宣給フ

神祇官ニテノ大稜^{オホカハ}ニ、四ツノ國ノト部^トヲイヘル、是必ソレノ祝詞ノアヤマリテ、コ、ニ入リヌルナルヘシ、四ツノ國ノト部^トハ、續紀ノ宣命ニモ見エテ、伊豆、對馬、壹岐ニ、今一ヶ國加ヘシ也、ソノ國ハ、詳ナラス、右三國ニハ、夫々ト部^トハヲリシ也、マタ原文ニハ、四方トアレトモ、夫ニシテモ、理キコエズ、方^{カタ}ニ、毛^{モウ}トカケルハ、必乃^{カナラ}ノアヤマリナルヘケレバ、今アラタメツ、○大川邊、是モ原文ニハ、道ノ字カケリ、道ハ、邊ノ字ノアヤマリ也、考ニモ疑タリ、是一段、上文ニツヅカズ、事ガラモタガヒ、文詞モ異ナレハ、削ルヘシ、ヨリテ別ニ注シオキヌ

東文^{ヤマトノフミノイキガトモ}忌寸部^{タチ}ノ横刀^{ヨコタチ}献ツル時ノ咒^{カフチ} 西ノ文部モ之ニ准フ

學令ニ、東西ノ史部トアリテ、ソノ義解ニ、皇城ノ東西ニスメルユエ、東西トイフ、歷世ソノ業ヲツギテ、史官トナリ、或ハ博士トナル、コレニヨリテ、史ト姓ヲ賜ハルトミエテ、コノ皇城ハ、大和ノ皇居ヲイヘルナレハ、東ハ大和ノ國、西ハ河内ノ國ニスメリシナリ、サテソノ東ナルハ、百濟ヨリ貢リシ阿直岐ガ末、西ナルハ、同國ヨリ貢リシ王仁ガ末ニテ、倭文^{ヤマト}ハ、直^{アダイ}、河内文^{カハチ}ハ首^{カビ}トイフ尸姓^{カビ}ヲ賜ハリシヲ、天武天皇ノ時ニイタリテ、

イヅレモ忌寸トイフヲ賜リシ也、
 サテコノ史部ノモノヨリ、大坂ニ太刀ヲ献リシハ、神祇令ニ、六月十二月、晦日ノ大坂ニ、
 東西文部、稗ノ刀上リ、稗ノ詞ヲヨムトアリテソノ文ハ、謹請皇天上帝、三極天君、日月星辰、
 八方諸神、司命司籍、左東王父、右西王母、五方五帝、四時四氣、捧銀人、請除禍災、捧以金刀、
 請延帝祚、咒日、東至扶桑、西至虞淵、南至炎光、北至弱水、千城百國、精治萬歲ト云リ、カ、
 ル者ヲ、漢音ニテヨミアゲ、畢リテ百官男女稗所ニアツマリ、中臣ハ稗ノ詞ヲ宣リ、卜部ハ
 解除ヲス、且コノ時、天皇ノ大御身ニ、アラヨニゴヨノ御衣ヲ奉リ、ソノ御長ヲハカリ、
 御幣ヲナデ給フナド、中臣及ソノ女仕マツリ、又文部、御階ノ下ニ進ミテ、右ノ文ヲ中臣
 ノ女ニ付テ奉レハ、天皇御氣ヲカケテ下シ給ヘルトカイフナルコトモアリテ、其文ノコチ
 タキニ、ソノワザサヘイトアヤシ、是等ノ文ハ、イツノ頃ニ作リシ物ニカアラン、賀茂氏
 モ、文部ガ遠祖ノ時ヨリ傳ハレル文トハキコエス、イト後ニカラ國、又ハ百濟ナトノ巫祝
 ガ唱フル詞ニヨリテ作レル歟、皇朝ニハ、ヨシナキコト也、後ニ此稗ヲト、メラレシハ、
 イトくメデタシトイハレタルゴトク、ゲニモ、カウヤウノ味氣ナキ物ヲ、何トオモヒテ
 ヨミ上タルニカアラン、延喜式ニノセタルヲ見レハ、ソノ頃マデモ、コノ稗アリシト見え

此篇奈真朝ノ
 作ニシテ古文
 ノ拙キ者

タリ、シカハアレトモ、古ヘ異俗ノモノヲ導ヒキテ、ワカミクニノフリニナラハシメンニ
 ハ、カ、ル手段モアリツラン、ソレヲシラシメントテ、カクハ式ニモ載セラレケム、カ
 クオモヒカヘセハ、今日外ツ國ノ人ヲ我國ニヒキイレンノコ、ロエニモナラスシモアラ
 ス、是ゾ温古知新ノ存スル所ニシテ、コノアチキナキ文ノウチヨリ、マタイカナルヨキ
 ハカリゴトノイテキスランモ知ルヘカラス、ト聊カ注釋ヲ加ヘテオキツルナリ、

道 饗 祭

高天ノ原ニ神留マス神ロギ神ロミノ命モチテ、事始テ、ヨサシ給ヒシ皇御孫ノ命ノ大命ト
 稱辭ヲヘマツル大八衢ニユツ岩村ノゴトクフサガリマス皇神タチノ前ニ申サク
 八衢彦八衢姫クナドノ神ト御名ハ申シテ、稱辭ヲヘマツラクハ、根ノ國ノ底ノ國ヨリ、ア
 ラビウトビコン物ニ、相マジコリ、相口アヘスルコトナクテ、下ユ行カバ、下ヲ守リ、上
 ヲ行カバ、ウヘヲマモリ、夜ノ守、日ノ守ニ、守マツリ、齋ヒマツレ、ト献ル幣帛ハ、明
 妙、照妙、和妙、荒妙ト備マツリ、御酒ハ麴ノへ、タカシリ、麴ノハラミテナラベテ、汁
 ニモ類ニモ、野山ニスム物ハ、毛ノ和物、毛ノ荒物、青海原ニスム物ハ、鱈ノ廣物、鱈ノ狭
 物、オキツ藻菜、ヘツ藻菜ニ至ルマデニ、横山ノゴトクオキタラハシテ、献ルウヅノ幣

上文ニ應ス

起首ニ應ス

帛ヲ、平ケクキコシメシテ、八衢ニユヅ岩村ノゴトク塞ガリマシテ、皇御孫ノ命ヲ、堅磐ニ常磐ニイハヒマツリ、イカシ御世ニ幸ヘマツリ給ヘト申ス、
 マタ親王、諸王タチ、諸臣タチ、百ノ官人ダチ、天下ノ大御タカラニイタルマテニ、平ケクイハヒ給ヘト神官天ツ祝詞ノ太詔詞ヲ以チテ、稱辭ヲヘマツルト申ス
 此祭ハ、神祇令ニ、季夏道饗祭季冬モコトアリテソノ義解ニ、ト部ドモ、京城四隅ノ道ニテ祭ル也、ソノ意ハ、鬼魅ノ外ヨリ入クルヲ、敢テ京ニハ入レジト、豫メ道ニ迎ヘテ、饗シテフセキ過ムルナリト云リ、右ノゴトク、六月十二月ノ晦日申時ニ、大穢アリテ、ソノ次ニ道饗アル也、サテソノ夜ニ入テ、次ノ鎮火祭ヲ行給フト云、京城ノ四隅トハ、京ノ外郭ノ四隅也、マタ國ニ疫病ナトオコル時ハ、國ノ堺ニテ祭ル、京ニ疫ナドアル時ハ、京城ノ四隅ニ祭ル、是ヲ後ニハ四角四界ノ祭トイフト、考ニ云リ、今世ノ清潔法ヲ行フハ、古道饗祭ノ遺意ニヨク叶ヘリ、○神留マス神ロキ神ロミノ命モチテ、ヨサシ給ヒシ、此文字原文ニナシ、今文意ノ通セサルニヨリテ加ツ、○稱辭ヲヘマツル、下ノ皇神タチニカ、ル、○湯津云々、是ハ疫神ヲイレジトノ意也、○八衢彦云々、コノ三神ハ、ミナイサナキノ命ノ御子也、クナドハ、フナドトモ申ス、國ノ門ノ意也、フハ、クノ通

音也、○根國ノ底國、既ニ注セリ、○下ユハ、下ヨリ也、下ノユモ同シ、古言ニハ、ヨリヲユトノミイフ、萬葉ニ、田子ノ浦ユナドヨメル、ソレ也、○汁ニモ類ニモ、考ニ不意ニ出タリト云ルゴトク、突然ノヤウニオモヘドモ、酒ニヒカレテ汁トイヒ、汁ニヒカレテ類ヲ出シタルニテ、從來ノ式文ニテモアレハ、是ニテモ難ナキナリ、○ユツ岩村、コ、ハ、カキハ常磐ニ長クノ意也、上ト聊カ異ナリ、○神官、ト部ヲサス、○此文、考ニモイハレタル如ク、道饗祭トアルニ、惡神ヲ饗スルコトハナクテ、タ、衢ノ神ヲ祭ルヲイヘルハ、イカニモ作者ノ拙ナク筆ノ及ハヌナルヘシ

鎮火祭

高天ノ原ニ、神ヅマリマス皇親神ロキ神ロミノ命モチテ、皇御孫ノ命ハ、豊葦原水穗國ヲ、安國ト平ケク知ロシメセト、天下ヨサシマツリシ時ニ、事ヨサシマツリシ天ツ祝詞ノ太祝詞ヲモテ申サク、神イザナギ、イザナミノ命、イモセニ柱、トツギ給ヒテ、國ノヤソ國、島ノヤソ島ヲウミ給ヒ、ヤホ萬ノ神ダチヲ生給ヒテ、マナオトゴニ、火産日ノ神生給テ、サラニ御子水ノ神、埴山姫ヲウミ給ヒ、菟川菜ノ二クサノ物ヲモウミ給テ、コレノ心アシキ子ノ心アラビナバ、水ノ神ハ、菟、埴山姫ハ、川菜ヲモチテ、鎮メマツレト事赦ヘサトシ給ヒキ、

此處此祭ノ正面

首段ニ應シテ
結フ

コレニヨリテ、稱辭ヲヘマツラバ、皇御孫ノ命ノ朝廷ニ御心イチハヤビ給ハジトシテ、献
ル物ハ、明妙、照妙、和妙、荒妙、五色ノ物ヲ備ヘマツリテ、青海原ニスム物ハ、鱈ノ廣
物、鱈ノ狭物、オキツモハ、ヘツモハニイマタルマテニ、御酒ハ、麴ノへ、タカシリ、麴ノ
ハラミテナラベテ、和稻、荒稻ニイタル迄ニ、横山ノゴトク、オキタラハシテ、天祝詞ノ
太祝詞モテタ、ヘコトヲヘマツラクト申ス、

此祭ハ、神祇令ニ、季夏鎮火祭トアリテ、義解ニ、宮城四方ノ外ノスミニ於テ、卜部等、
火ヲキリテ祭ル、火災ヲ防ガン爲メナルユニ、火鎮トイフト云リ、前ニモイヘル六月晦
ノ夜ニ入テ行フ祭也、サテ、此文ハ、考ニモイヘルゴトク、句々疑ハシキ事アリ、是ハ
作者ノ拙ナキニヨリテ、文ヲナサヌ也、今削モシ、改メモシテ、文理ヲタタタリ、ソノ
説ハ、ソノ所々ニ至テイフヘシ、○事ヨサシマツリシ天ツ祝詞云々、是ハ種々事ヨサシ
マツリシソノ中ニアル天ツ祝詞ニテ、コノ祝詞モソノ中ノ一ツ、トイフ意也、○神イザ
ナキ、神ハイハユル尊稱也、○イモセ、上古ハ、男ヲサシテセトイヒ、女ヲサシテイモ
トイフ、ソレヨリ夫婦ヲモイフ也、トツギハ、男女ノ婚スルヲイフ也、神武紀ニ、蜻蛉
ノトナメセルトイヘルモ、コノ義也、○八十島ヲ生ム、例ノ雅語ニシテ、ソノ地ヲ見出

シ、或ハ開キ、或ハ物ヲ繁殖セシムルヲイフ也、○マナオトゴハ、眞ノオトゴノ義也、
末子ヲ、オト子トイフ、ソレニマナヲ加ヘシニテ、最末ノ子也、○火ムスビハ、火蒸持
ノ義也、スベテ、神ノ名ニビトイフ御名ノ多キハ、ソノ業ソノ事ヲタモチツカサドリ給
フ故也、モチノ反ミナルヲ、昔ハビニ通ハシテツカフコト多シ、タトヘハ、樂ミ悲ミナ
トモ、昔ハ樂ビ悲ビト云ヘリ、サテ、此句ノ下ニ、原文ニ長文アリ、ソハ誤リテ入タル
トニハアラザレドモ、歴史ノ物語ヲイレルナリ、祝詞ニ、史上ノ物語ヲ入ル、理ワリ
アラシヤ、カバカリノ事ワリヲダニ辨ヘザル人ノ作ニテアレバ、今ハ削リテ、下ニ附ス、
ソレヲミテ、コ、ニ要ナキコトヲシルヘシ、○水神云々、原文ニ、水神、匏、川菜、埴
山姫、四種ノ物ヲ生給フトアリ、是ラモ、原文ノ誤ナラズバ、文カクヲヲシラヌナリ、
御子トハ、水ノ神埴山姫ノ二柱ヲイフ也、コノ二柱ノ神ノ外ニ、匏川菜ヲ生給フトノ意也、
サレバコソ、コレヲ物トハイヘルナレ、サルヲ、物ト云ナガラ、上ノ二神ト、二種ノ物
トヲ合セテ、四種ノ物トイフ、神ヲ物トイヘルコト、カツテ例ナキコトナリ、是ハ四字
ヲ二字ニ改メ、匏ト川菜トヲツラネテカクヘキ也、作者ノ意モカ、リシナルヘシ、ソレ
故ニ、下文ニ水神ニ匏ヲツラネ、埴山姫ニ川菜ヲツラネシナレ、意コ、ニアリテ、詞カ

レニアリ、文ニ意ナキ者ノカケル文ニハ、往々コノ過アリ、今改メツ、サテ埴トハ、ネハリタル土ヲイフ也、今イフネバ土也、土ノヨキ也、ソレヲ神ノ御名ニ負セタル也、匏ハヒサゴ、水ヲ汲ムニ用フ、川菜ハ、水苔トモ、和名鈔ニ見エテ、今植木屋ニ用フルシメリ草也、コレヲ用テ火ヲ消ストイフ理ワリナキニシモアラネド、匏ノ杓モテ水ヲ汲ムナドハ、支那ニコソアレ、我邦ニハナキコト也、是等ヲモカキ加フルヲ見テモ、奈良朝以後ノ作ナルコトシルヘシ、○コレノ心アシキ子、火結ノ神ヲサス也、此神ヲ生ミ給フ時、發熱ニヨリテ、イザナミノ命ノ、カクレ給ヒシユエ、心アシキ子トハ申シ、也、ソレヨリコノ神ヲ火ノ神トイハヒマツリテ、末終ニハ火事ノアルヲ此神ノワザトシテ、サテ此祭ニマツリ給フ也、原文ニ、惡子トアルヲ、考ニサガナキコトヨマレタレドモ、ソレハ、心ノ字ノナキ時ノ訓也、○水神、コノ下埴山姫ノ下トモニ、原文ニハ、ハモジナシ、コ、ハ、コノ詞ナクテハ、イハユル四種ノ物トナリテ、意通セス、水神ハ匏ヲモチ、埴山姫ハ川菜ヲ持テ、火ノ災ヲケシジメ給ヘトノ意也、○此ニ依テハ、今モ此詔ニヨリテノ意也、○イチハヤビハ、キビシクアラビ玉フノ疾キ也、コノイチハヤビヲツメテ、チハヤブルトイヘルガ、神ノ冠詞トハナレル也、今ノ詞ニモ、イツチハヤクナドイフ是

也、○和稻、荒稻、コレモコ、ニ突然加ヘタルハ、前文ノ汁ニモ類ニモヲ加ヘタルカゴトク、一種ノ文言ニテ、イハユル言グセ也、

原文火結ノ神生給テノ次ニ書ケル條

ミホド焼エテ、岩カクリマシテ、夜ニハ七夜、日ニハ七日、吾ヲナ見給ヒソ、アガナセノ命、ト申給キ、コノ七日ニハタラズシテ、カクリマスコトアヤシ、トテ見ソナハス時、火結ノ神ウマレ給ヒテ、御陰ヲ燒エマシキ、カ、ル時ニ、吾ナセノ命ノ、吾ヲ見給フナト申スヲ、吾ヲ見アバタシ給ヒツ、ト申給テ、吾ガナセノ命ハ、上國ヲシロシメスヘシ、吾ハ下國ヲシラムト申シテ、石ガクリ給テ、ヨミツ平坂ニ至リマシテ、オモホシメサク、アガナセノ命ノシロシメス上國ニ、心アシキ子ヲ生ミオキテキヌ、ト宣ヒテカヘリマシテ、

大嘗祭

集ハリハベル神主祝部ヲ、諸キコシメセト宣給フ、高天原ニ神ヅマリマス皇親神ロギ神ロミノ命モチテ、天ツ社國ツ社トシキマセル皇神ダチノ前ニ申サク、コトシ霜月中ノ勿ノ日ニ、天ツ御食ノ長御食ノ遠御食ト、皇御孫命ノ大嘗キコシメサムタ

神恩ニ頼テ、大嘗ヲ得ルニ因テ、幣帛ヲ奉ル。是ハ一箇ノ文意ニハ古文ニハコノ筆墨ヲ多ク用フ

メノユエニ、皇神ダチ相ウヅノヒマツリテ、堅磐ニ、常磐ニ、齋ヒマツリ、イカシ御代ニ幸ハ、マツラムト依サシテ、千秋五百秋ニ、平ゲク安ラケク、キコシメシテ、豊明ニ赤ラビマサム皇御孫ノ命ノウヅノ幣帛ヲ、明妙、照妙、和妙、荒妙ニソナヘマツリテ、朝日ノ豊榮昇リニ、稱辞ヲヘマツラクヲ、諸キコシメセト宣玉フ、言別テ、忌部ノ弱肩ニ、太禰取カケテ、持ユマハリ、仕ヘマツレル幣帛ヲ、神主祝部ラ受ケテ、事オチズ捧ケモチテ、奉レト宣給フ

是ハ、新嘗祭ノ日ニ、幣帛ヲ諸國ノ神社ニ班チ給フ時ノ詞ナリ、サルヲ、上古ハ、大嘗祭トモ申シテ、大嘗、新嘗ノ區別ハナカリシ也、イツノ頃ヨリカ、大嘗ヲ御即位ノ御時ノ名トシ、コノ霜月ノ時ノヲ、新嘗トハ名ツケラレケム、イマタ詳ニセス、考フヘシ、○集侍、神祇官ニ集リ侍ル也、○大嘗トハ、新米ヲ以テ、天皇ノ御膳ニ供ヘマツリテ、アヘシラヒマツルヲ尊ミテ、大嘗トハ申ス也、大饗ノ意也、○爲メノユエ、後世タメトイフヘキ所ヲユエトイヒ、ユエトイフヘキ所ヲタメトイヒ、同シ事ノヤウニオモヘルハ、誤也、コレソノ一例也、○ウツノヒ、ウツナヒトモ云、普通也、後世ノウナヅク也、神タチノミナ納受シ給テ也、○幸ハヘマツラムニヨリテ、コ、ハ文ノ追分ナルヲ、一樣ニ

ツラネタル文ノ一格也、細カクイハ、幸ヘマツラムハ、皇神タチノ結也、ニヨリテハ、カク幸ハヘマツリ給フニヨリテ、トオコスヘキヲ、上文ノ結ニヒキカケテ、説下セル也、○イホ秋ノ、イホハ、ユツ岩村ノユツト同シク、イタリテ長キヲイフ也、五百ハ、借字也、○豊明ニ云々、豊明ハ、既ニイヘル宴樂ノ意ナレドモ、コ、ハソレヨリシテ、心ヨクノ意ニカリテ用タル也、アカラビハ、心ヨクキコシメシテ、天顔ノアカラビ給テ美ハシキヲイフ也、○事オチズ、事モレナクト也

御魂鎮ムル齋戸ノ祭 中宮春宮ノ齋戸祭モ同シ

高天原ニ神ヅマリマス皇親神ロギ神ロミノ命ヲ以テ、皇御孫ノ命ハ、豊アシハラノミヅ穗ノ國ヲ安國トシロシメセト、コトヨサシマツリテ、下ツ岩根ニ、宮柱フトシキタテ、高天ノハラニ、千木タカシリテ、天ノ御蔭、日ノ御蔭トカクリマス皇ミコトノ稱辞ヲヘ奉テ、献ツル御衣ハ、上下備ヘテ、ウツノ幣帛ハ、明妙、照妙、和妙、荒妙、五色ノ物、御酒ハ、麴ノヘタカシリ、麴ノハラミテナラベテ、野山ノ物ハ、甘菜、辛菜、青海原ノ物ハ、鱈ノ廣物、ハタノ狭物、オキツモハ、ヘツモハニイタルマテニ種々ノ物ヲ横山ノゴトク、オキタラハシテ、献ツルウヅノミテグラヲ、安ミテグラノ足シミテクラト、平ゲクキコシメシ

皇御孫云々上
文ヲ繼シテ上
文字ヲ以テ更
ニ下ニ連ネテ
一片トナスル
是我國文ノ常
法

結處ニ至テ、
初テ鎮魂ノ意
ヲ洗發ス

テ、皇ガ朝廷ヲ、常磐ニ堅磐ニイハヒマツリ、イカシ御世ニ幸ハヘマツリ給テ、コノシハ、スヨリ始テ、來ルシハスニイタルマテニ、平ゲク御坐所ニオマシマサシメ給ヘト、コトシシハスハソレハ日、イハヒシヅメマツラクト申ス。

コノ祭ハ、御魂シツメノ祭ト申シテ、天皇、中宮、春宮ノ御平安ヲイハヒ給フ祭ナリ、神祇官ノ齋院ニテ、中臣コノ祭事ヲ行フト、四時祭式ニ見エテ、齋院ヲ、齋戸トモ申ス、故ニ齋戸ノ祭トハ云ルナリ、コノ祭ハ、天祖ノ岩戸ニカクレ給ヒシ時、天ノウヅメノ命、舞ヲカナデ、天祖ノ御心ヲナゴシ奉リシニ因テ、天武天皇ノ御時ヨリ始マリシヨシ也、サレハ、古語拾遺ニ、鎮魂ノ儀式ハ、天ノ細女ノ命ノ遺跡トアリテ、此祭ヲ十一月ニモ行ハル、ソノ時ハ、御巫、猿女ナド參上シテ、舞ヲ仕マツルヨシ、貞觀儀式ナドニ見エタリ、但シ、ソノ月ノハ宮内省ニテ行ハル、也、○平ケクシロシメセトコトヨサシマツリテ、原文ニハ、タマ定メマツリテアリ、アマリ略ニスギテ、意通セザレバ、姑クカクハ加ヘツ、是等ハスベテ、和文ヲカク人ノナクナリシ後ノ世ノ様也、○カクリマススメラ命ノ、此句モ原文ニナシ、今文意ヲ求メテ加ヘツル也、○上下、上ハ衣、下ハ裳也、○シハスハ、シハツ也、何事ヲモシハツル月トイフ義也、ス、ツハ音通也、豊後ニ四極山トイフ山アリ、シハストヨメルハ、古言也

伊勢大神宮二月祈年六月十二月月次祭

天皇ガ大命モチテ、度會ノ宇治ノイスノ川上ノ下ッ岩根ニ宮柱フトシキタテ、高天原ニ、風木高知リテ、稱辞ヲヘ奉ル皇大神ノ大前ニ申サク、
常モ献ルキツラキトシコヒ二月祈年月次祭ハ、六月月次ノ辞ヲ以テ相換フノ大幣帛ヲ、某官位姓名ヲ使トシテ、捧ケモタシメテ、献リ給フ御命ヲ、申給ハクト申ス

此祭ハ、二月祈年ヨリ以下、六ツノ祝詞ハ、ミナ伊勢大神宮ノ宮ニ向テ、御使中臣ノ宣申ス也トイヘリ、○天皇ガ大命、コレハ殊ニ皇御孫命トアルヘキ也ト考ニイヘリ、○大前、天祖ニ、マス故ニ大ノ字ヲ加フ、○川上ヲ、カハラトヨメレドモ、コ、ハ尙カハカミニテアルヘシ、○宮柱フトシキタテ、高天原ニ、風木高知リマデハ、今加ヘツ、イカニ略ストモ、文意ノ通ルホトニスヘキナリ、シカルヲ下ッ岩根ニ、稱辞ヲヘ奉ルトハ、イカナル心ゾヤ、是モ例ノ聊モ文カクコトヲシラス者ノワザ也、次ノ豊受宮ノ文モ同シク加ヘツ、

豊受ノ宮 右同祭

ハ、神職ノ下使ニテ、交番シテ勤ムル也

六月月次祭 十二月モコレニナズラフ

此篇唯筆路ノ明暢語スルニ足ルノミ此段引子
此段意分テ二層
後層奉幣
此段陪筆

度會ノ宇治ノイスノ川上ニ、大宮柱フトシキタテ、高天ノ原ニ、風木タカシリテ、稱辞ヲ
ヘマツル、天照シマス皇大神ノ大前ニ申奉ル天ツ祝詞ノ太祝詞ヲ、神主トモ物忌等、諸キ
コシメセト宣玉フ、禰宜内人ヲ、共ニ唯ト申ス 天皇ガ大御命ニマス御命ヲ、タナガノ御命ト、ユヅイハム
ラノゴトク、常磐堅磐ニ、イカシ御世ニ幸ハヘ給ヒ、アレマス皇子ダチヲモ、惠ミ給ヒ、
百ノ官人ダチ、天ノ下四方ノ國ノ百姓ニイタルマデ、長ク平ケク、作りヲス五ツノ穀ヲモ、
豊カニ榮エシメ給ヒ、守リ惠マヒ、幸ハヘ給ヘト一、三ノ郡、國々處々ニヨセマツレル神戸
ハ、人ダチノ常モ献ツル御調ハ絲、ユキノ御酒御贄ヲ、海山ノコトクオキタラハシテ、大中
臣太玉申ニカクリハヘリテ、コトシ水無月十七日ノ朝日ノ豊榮上リニ、稱辞申スコトヲ神
主トモ、物忌ヲ、諸キコシメセト宣給フ、神主トモ共ニ唯ト申ス 荒祭ノ宮、月夜見ノ宮ニモ、カク申
奉ルト宣玉フ、神主トモ共ニニモ唯ト申ス
考ニ云、上ノ六月月次祭ノハ、天皇ノ御使中臣ノ宣ル祝詞、コ、ニ舉ケタルハ、大神宮
司ノ申ス祝詞ナリト云リ、○物忌ハ、大神宮式ニ、禰宜一人、大内人四人、物忌九人、

童男一人、トアリテ、物忌ハ、神事ニ使スル子ドモヲイフ也、○大御命ニマスハ、今ヨミ
奉ルハ、天皇ノ大御命ニテアリト也、宣命ニモ、コノ詞アリ、○御命ヲ云々、六月ノ祭
ナラハ、ソノ月ニヨシアル詞ノアルヘキニ、何ノユカリモナク、御命ノ長キヲイハヒ申
スハ、何ノ故ニヤ、サテハ、此文ハタマ言ナリ、○ツクリヲス、原文ニ、ヲセルトアル
ハ俗ナリ、今改ム、ヲスハ聞食、知食ヲシロシヲス、キコシヲスナド云フヲスニテ作食
ハ作りマスト云カ如シ、今改ム、○五穀ハ、支那ニ云フ五穀トハ異也、稻、粟、麥、小豆、
大豆ヲ五穀トスル也、龍田祭ニ見エタルモシカリ、○メグマヒハ、メグミノ延也、○
三郡ハ度會、多氣、飯野也、コノ三郡ハ、神領也、○國々ハ、大和二十五戸、伊賀ニ二
十戸ナドノ類ナリ、是ヲ御厨ノ戸トイフ也、○處々ニハ、處々ニテノ意也、○御贄ハ、
新饗ノ略也、神饌ニ供スル初穂ヲ云也、○大中臣、御使ノ中臣也、○玉串、上古ハ、玉
ヲツケタル也、後世タマユフヲツケテ玉ヲツケザル比ニナリテモ、玉串トイフ也、コノ
方ヨリイヘハ、玉ハ美稱トミテヨカラシ、○月讀宮モ、内宮ノウチニアル也、

九月新嘗祭

皇御孫ノ命ノ御命モテ、伊勢ノ度會ノイスノ河上ニ、稱辞ヲヘ奉ル天照シマス皇大神ノ

大前ニ申給ハク、

常モ献ツル長月ノ新嘗ノ大幣帛ヲ、某官某位某王中臣ノ某官某位某姓名ヲ使トシテ、忌部ノヨツ肩ニ、フト襪トリカケテ、持ユマハリ、捧ケモタシメテ、進リ給フ御命ヲ申給ハクト申ス、

大神宮式ニ、九月十六日ニハ、渡會宮ヲ祭り、十七日ニハ、大神宮ヲ祭ルト見ユ、重キヲ後ニシ給フ也、此祭ハ、新米ヲ大神宮ニ献ツル也、カミアヘテ、音便ニ轉シテ、カムナメトイフ也、○皇御孫命、原文ニ命ノ字ナシ、脱字ト見テ加ヘツ、

豊受宮ノ同祭

天皇ガ御命モテ、度會ノ山田ノハラニ、稱辭ヲ奉ル皇神ノマヘニ申給ハク、常モ進ツル長月ノ神嘗ノ大幣帛ヲ、某官某位某王中臣ノ某官某姓名ヲ使トシテ、忌部ノ弱肩ニ太襪トリカケ 持ユマハリ、捧持タシメテ進給フ御命ヲ申給ハクト申ス
コノ祝詞ニ、天皇トカケルハ、豊受神ナルガ故ナルヘシ、天祖ニハ大前トカキ、豊受神ニハタマ前トカク、ソノ輕重ノアルコトヲ思フヘシ

同神嘗祭

度會ノ宇治ノイス、ノ川上ニ、大宮柱フトシキタテ、高天原ニ風木タカシリテ、タ、ヘ辞ヲヘマツル天照シマス皇大御神ノ大前ニ申奉ル天ツ祝詞ノ太祝詞ヲ、神主物忌等諸キコシメセト宣玉フ、禰宜内人ヲ共ニ唯ト申ス 天皇ガ御命ニマス、御命ヲタナガノ御命ト、ユヅ岩村ノゴトク、常磐堅磐ニ、イカシ御世ニ、幸ハへ給ヒ、アレマス皇子ダテヲモ、惠給ヒ、百ノ官人ダテ、天ノ下、四方ノ國ノ大御財ニイタルマテ、長ク平ケク守リ惠ミ幸ハヒ給ヘト、三ノ郡、國々、處々ニヨセ奉レル、神戸ノ人ヲ、常モ進ツルユキノ御酒、御贄カケ税。千税イホ税ヲ。横山ノゴトク、オキタラハシテ。大中臣太玉串ニカクリハベリテ、コトシ九月十七日ノ朝日ノ豊榮昇リニ、天ツ祝詞ノ太祝詞ヲタ、へ申スコトヲ、神主トモ物忌ヲモロノ、キコシメセト宣玉フ、禰宜内人ヲ唯ト申ス 荒祭ノ宮、月讀ノ宮ニモ、カク申進ツルト宣玉フ、神主トモ共ニ唯ト申ス
此詞モ、前ノ六月月次祭ノニ同シキ式文ニシテ、太神宮司ノ宣レル也、○御命ヲ云々、コ、モ上ニ評セルガ如シ、○オムベハ、オホニハノ音便也、伊勢ニ御贄川アリ、川魚ヲトリテ、太神宮ノ御贄ニ供ス、是上古ヨリノ風俗ニテ、川ノ名トモナレルナルヘシ、○カケ税、千カケ 租税ヲ、田力トモ、タマチカラトモイヘリ、考ニハ、春百姓ニ米ヲカシテ、田ヲ耕スカトスルヨシ也トイヘルハ、サルコトモナキニハアラザレドモ、コレヲ以テ此詞

ノ義トハスヘカラス、スベテ、租税ハ民ノ力ニヨリテウル故ニ、税ヲチカラトイヒ、田租ヲタチカラトハイフナリ、サテコノ税ヲカリテ、稻ヲ竿ノサキニツケテ、アマタ進ムルヲ、カケ税トハ云ルヨシ也、○千税、イホ税、アマタノ米ヲイフ也、チモ、イホモ、オビタマシキヲイフ詞也、チイホ秋トイフ、ソレ也、今ソレヲ分チテ、千税、イホ税トハイヘル也、原文ニ、千税ノ下ニ餘ノ字ヲカケリ、贅ナリ、削ル

齋ノ内親王ヲ入レマツル時ノ詞 神嘗ノ幣ヲ進ツル詞 申終リテ後申ス也

言別キテ申給ハク、齋ノ内親王ハ、恒例ニヨリテ、ミトセイマヒ清マハリテ、御杖代ト定メテ、進リ給フコトハ、皇御孫ノ命ヲ、天地日月ト共ニ、常幣ニ堅幣ニ、御マシマサシメムト、御杖代ニ献リ給フ御命ヲ、大中臣イカシ梓ノ中トリモチテ、カシコミカシコミ申給ハクト申ス、

此詞ハ、題注ニモ見ユルゴトク、長月新嘗祭ノ幣ヲ進リシアトニ、ツバキテコノ詞ヲ申ス也、ソノ故ハ、齋宮ノイデタチハ、八月ノ末ニテ、九月ノ初ニ伊勢ニツキ給フ故也、○言別テハ、此上ニ云ル式文ヲ除キテ、擧ケス、齋宮ノ御事ヲノミ殊更ニ申ス所ヨリ取出タシ、也、○恒例ハト、カケルモ取別ケテイヘルニヨリテ、ハ文字ヲ加ヘシ也、サル

處ナラデハ、コノ文字用ナキ也、恒例ノ二字、漢音ニテヨメルナルヘシ、○ミトセイマヒ清ハリテハ、齋宮ハ、齋王ニ立給テヨリ、野宮ニ入り、三年ソノ御身ヲイマヒ清メ給テ、サテ三年ニアタル八月ノ末ニ、イデタチ給フ也、○御杖代、此上ニ此度ノ文字ヲ加ヘテミルヘシ、御杖代ハ天皇ノイツキ仕ヘ給フ御名代ノ義也、杖ハ、人ヲ扶クル物ナルガ故ニ、ソノ神ヲ扶ケ奉ル人ヲタトヘシ也、サテ代ヲシロトイフハ、モトソノ人ヲサス詞也、代物、禮代ナドイフモ、ソノ物實ヲイフ也、コ、モ、ソノ意也、○常幣ニハ、脱字トシテ加ヘツ、○マサシメムハ、申サシメムノ約ナリ、○御杖代ニハ、原文ニト、アルハ、爾ヲ止ト書誤レルナリ、今改ム、○イカシ梓ノ中トリモチテ、天皇ト大御神トノ中ヲトリナスヲタトヘモテイヘル也、ソノヤウノ職ヲ仕マツルカ中臣也、ソノ事上ニイヘルガゴトシ、○此文、考ニモイヘル如ク、大御神ヲ崇ミ給テ、ソノ御杖代トシテ、齋主ヲ奉リ給フナルニ、ソノ詞ヲミレハ、齋王ヲ奉リテ、天皇ノ御世ヲイノリ給フナリ、サルニテハ、御杖代ノ御意スサム、是決シテ天皇ノ大御意ニハアルベカラス、オモフニ、上文ノ御杖代ト定テ進ツルコトハノ下ニ、一段ノ文字アリテ、サテ皇御孫ノ命ヲ云々ノ文ニ移レルガ脱タルナルヘシ、サナクバ、文ニ拙クシテ、オノツカラ大御意ニモ背クコト

トハナレルナリ、元來コノ齋王ヲ献リシハイトノ古キ事ニシテ、殊ニ大神宮ニカ、ル
文ナレハ、ソノ詞モ、大雅ニシテ、莊嚴ナルヘキニ、ソノ拙ナクサビシキコト、カクノ
コトシ、是全ク後世ニイタリテ、僅ニコノ詞ヲツ、リテ、古文ノ闕ヲ補ヒシ者トミエタ
リ、下文遷宮ノ祝詞モシカリ

大神宮ヲ遷マツル祝詞 豊受宮モ之ニ准フ

皇御孫ノ命ノ御命ヲモチテ、皇大御神ノ大前ニ申サク、常ノ例ニヨリテ、廿年ニ一度、大宮
新ニ仕ヘマツリテ、雜々ノ御ヨソヒ物、五十四種、神寶廿一種、マケ備ヘテ、祓清メ、領
リテ仕マツル辨官某姓名ヲサシ遣ハシテ、進ツリ給フ狀ヲ申給ハクト申ス

五十四種云々、此類ハ、ミナ音讀シタル者ナレバ、今モ音讀シテヨシ、廿一ノ下ニ原文
ニ、ヲ文字アレドモ、是モ漢文ヨリ來ル誤ナレハ、削ル、○マケ、設也、今設ヲマウケ
トイフハ、音便也、○預リテハ、政事ヲ也、百官ハ、ミナ天皇ノ大御政ヲ預リテ仕ウマ
ツル也、

崇ル神ヲ遷シ却ヘル祭ノ詞

高天原ニ神ヅマリマシテ、事始給ヒシ、神ロギ神ロミノ命モチテ、天ノ高市ニ、ヤホ萬ノ神

通篇筆路明瞭
尤其体ヲ得タ
ル者

以上詳叙

ダチヲ、神集ニツドヘ給ヒ、神量ニハカリ給ヒテ、アガスベ御孫ノ命ハ、豊アシ原ノミヅ穗
ノ國ヲ、安國ト平ケクシロシメセト、天ノ磐座ヲ放チテ、天ノ八重棚雲ヲ、イツノチワキ
ニチワキテ、天降シヨサシマツリシ時ニ、誰神ヲ先遣ハシ、ミツ穗ノ國ノアラブル神ダチ
ヲ、神ハラヒニハラヒムケム、ト神量ニ量給フ時ニ、諸神ダチミナ量申サク、天ノ穗日ノ命
ヲ遣ハシムケム、ト申キ

以上略叙以テ
法トスヘシ

コ、ヲモテ、天降シ遣ハス時ニ、コノ神ハ返言申サズテ、次ニ遣ハシ、健ミ熊ノ命モ、父ノ
言ニ隨ヒテ、返言申サス、マタ遣ハシ、天ノ若彦モ、返言申サズテ、高ツ鳥ノ殃ニヨリテ、
立所ニシテ身ウセキ。コ、ヲモテ、天ツ神ノ御命モチテ、サラニ量給テ、繼ツ主ノ命、健雷
ノ命、一二柱ノ神ダチヲ天降シ給ヒテ、アラブル神ダチヲ、神ハラヒニハラヒ給テ、言問ヒシ

初テ本題ニ歸
入ス

磐根、木ノ立チ、草ノカキ葉モ、ヤメシメテ、皇御孫ノ命ヲ、天降シヨサシマツリキ
カク天降シヨサシマツリシ四方ノ國中ト、大倭日高ミノ國ヲ、安國ト定メマツリテ、下ツ

一篇ノ命根

テ、安國ト平ケクシロシメサム皇御孫ノ命ノ天ノ御殿ノ内ニ、マス皇神ダチハ、荒ビ給ヒ、
健ビ給ヒ、祟リ給フ事ナクシテ、高天ノハラニ始シ事ヲ、神ナガラモシロシメシテ、神直

篇首ヲ繼シ、
筆力半ヲ挽ク

此段奉幣

終ニ主意ニ重
キヲ歸シ以テ
結テナス

日、大直日ニ、直シ給ヒテ、コ、ヨリ、ヨモヲ見ハルカシ、山川ノ清ヤケキ所ニ、遷リイデマシテ、ウスハキイマセト、

進ツル幣帛ハ、明妙、照妙、和妙、荒妙ニ、備ヘマツリテ、見明ムル物ト鏡、翫フ物ト玉、射放ツ物ト弓矢、打キル物ト太刀、ハセ出ツル物ト馬、御酒ハ、甕ノヘタカシリ、甕ノハラミヲナラベテ、米ニモ、穎ニモ、山ニ住ム物ハ、毛ノ和物、毛ノ荒物、大野原ニ生フル物ハ、甘菜辛菜、青海原ニ住ム物ハ、ハタノ廣物、ハタノ狹物、オキツモハ、ヘツモハニ至ルマテニ、横山ノゴトク、八所ノ机物ニオキタラハシテ、奉ルウヅノ幣帛ヲ、皇神タチノ御心モ、明ニ、安幣帛ノ足シ幣帛ト、平ケクキコシメシテ、祟リ給ヒ、健ビ給フコトナクテ、山川ノ廣クサヤケキ地ニ遷リイデマシテ、神ナガラモ、シヅマリイマセ、トタ、ヘ辞ヲヘマツルト申ス

祭詞ノ二字、原文ニナシ、今考ニ從テ加フ、○高市、考ニ高ハホメ詞、市ハ、天ノ下ヲツドヘラル、ヨシ也ト云リ、是市ノ字ニ付テノ説也、本義ニハアラサルヘシ、オノレ按フニ、市ノ本義ハ、嚴、稜威ナトノイツノ轉音ナリ、稜威疾キヲ、イチハヤキトイヘル、コレソノ証也、サテ高市ハ、モトハ高市ノツカサトイフヘキヲ略セルナルヘシ、ツカサトハ、スベテ物ノカシラヲイフ詞也、萬葉ニ、山ノツカサ、野ノツカサ、岸ノツカサ、

屋ノツカサ、市ノツカサナド、ソノ所ノタカキ頭ヲイヘハ、高市ノツカサハ、都ヲイフナリ、都ハ天皇ノ皇居ニシテ、御稜威ノ照渡ル高キ頭ノ處トイフ義也、サテソレヨリシテ都ノ町ヲモイチトイヒ、政事ヲキコシメス處ヲモツカサトイフコトトハナレルナリ、即チ高天原トイフモ、天ノ高市トイフモ、同シ事ニシテ、大和ノ高市郡ハ、歷世ノ長ク都シ給ヒシ所ナルガ故ニ、未終ニハ、郡名トモナレル也、サテコレニテ天祖ノ都シ給ヒシ所モ、ホバシラルヘシ、○神ツトヘニノ、ニ文字ハ、例ニヨリテ加ヘツ、下ミナコレニ從フ、○ムケムハ、荒ブル神ヲ平ケテ、ミカタニコ、ロラムケシムル義也、○ホヒノ命ハ、素尊ノ御子也、○健ミ熊命ハ、穗日ノ命ノ御子也、○高ツ鳥ノ殃ハ、名無ノ雉トイフ神ニ射ラレテ、死ニ給ヒシヲ、神ノ御名ニヨリテ、カク書ケル也、イハユル稚語也、○ヤメシメテハ、上ニ云ルゴトク、コ、モ改メキ、○國中トハ、カクヨサシ給ヒシ大八洲ノ國ノ最中ゾト、大和國ニ都定メシト也、上文ヨサシマツリキマテハ、神世ノフル事、コレヨリハ、コノ祝詞ヲ書ケル頃ノ都ノ事也、○仕ヘマツリテハ、御殿ヲ造リマツリテヲ略言セル也、○神ナカラモ、神ニテマシマスマ、ニノ意也、孝德紀ニ、神ナガラ我が子シラスヘシトアリテ、ソノ注ニ、神ナガラハ、神道ニ隨テ、何ノ業ニモ、オノヅカラ

神道ノアルヲ云フ也トアリ、イフコ、ロハ、皇室ニ神道アレハ、王臣百官ニモ、天下萬民ニモ、ミナオノヅカラノ神道アリ、イヅレモ神ノオキテノマ、ニトイフ意也、○直シ給ヒテハ、前ニモ見エタルゴトク、見直聞直シ給ヒテノ意也、○コ、ヨリハ、原文ニ、自此波トカケリ、是ハ、處ノ字ヲ処ト書ケルヲ波ニ誤レル也、ハ文字コ、ニ用ナシ、削ル、○ミハルカシハ、見ハラシ也、見放ツ也、○ウスハキハ、ウシハキト音通也、ウシハキハ、主帶也、ソノ所ノアルジトナリテ、スベテノ事ヲ、ソノ身ニ附クルヨシ也、太刀ヲハクトイフモ、履ヲハクトイフモ、ミナソノ身ニツクルヲイフ也、考ノ説、鑿也、

○馬ヲ、原文ニ、御馬トアレト今削ル、ソノ説前ニ云リ、サテ見明ムル物トイフヨリ、コ、マテハ、ミナ、下ノ奉ルトイフ詞ニカ、レル也、マタ上ノ句ノ備ヘマツリテノ文字ヲ、コノ馬ノ下ニマハシテ見バ、尤穩ナルヘシ、○八取ノ机物、原文ニハ、タ、八物トアレト、ソレニテハ通セズ、今古事記ニヨリチカク改メツ、サテヤトリノ机物トハ、机ノ上ニイクヘニモ、トリ重ネタル物ヲイフ也、ニ文字ハ、ヤトリノ机物ノヤウニノ意カ、

○御心モ明ニハ、安幣帛ニ對シテ、皇神ノ御心モ明ニ安ケクノ意也、心クラケレハ、アラビテオダシカラヌ故也、○神ナガラモハ尊キ神ニテマスマ、ニ、今モ尊クシヅマリマ

セト也、原文ニ、モ文字ナシ、今考ノ説ニヨリテ加ヘツ

唐使ヲ遣ハス時奉幣ノ詞 詞ノ字原文ニナシ今加ヘツ

皇御孫ノ命ノ御命モチテ、スミノエニ、稱辭ヲヘマツル皇神ダチノ前ニ申給ハク、唐ニ使遣ハサムトスルニ、船居ナキニヨリテ、播磨ノ國ヨリ、遣ハサムトオモホシメス間ニ、皇神ノ命モチテ、船居ハワガ作ラムト教ヘサトシ給ヒキ、教ヘサトシ給ヒナガラ、船居ツクリ給ヘレハ、悦ヒウレシミ、禮代ノ幣帛ヲ、官位姓名ニ捧持シメテ、進ツラクト申ス、臨時祭文ニ唐ニ遣ハス船居開ク祭 住吉社 トアリテ、神祇官ヨリ使遣ハシテ、住吉社ニ向テ祭ル也、船居トハ船ヲ止メオク湊ヲイフ也、ヒラクトハ、萬葉ニ朝開キナドミエテ、湊ヲコギイヅルヲイフ、漢文ニイフ開帆、開行ニアタル、○スミノエハ、住吉也、住吉ハ、スミノエニアテタル文字也、住吉日吉ナトイフハ、後世ノメクラヨミ也、日吉ハ、比叡山ヲイフ也、三吉野モ、ミエシノ也、住吉ノ神ハ、底ツ、男、中ツ、男、表ツ、男ト申シテ、三神トモ、伊サギノ命ノ御子ニテ、船ヲ掌リ給フ神ト言傳フ、神功皇后凱陣ノ御時モ、靈驗ヲアラハシ給テ、サテソレヨリスミノエニ鎮坐アリシ也、サルニヨリテ、今住吉ニハ神功皇后ヲモイツキマツリテ、四座トセリ、但シ今ノ住吉ハ、昔ノ所ニアラスト

イフ、昔ノ所ハ、今住吉ニユク道ノ左ノ方ニ、岡ノ長クツバキタル所トカ、皇后ノ御時
 ハ、ソコヲ大津淳中倉ノ長峽トイヒケルトゾ、○唐、原文ニ、大ノ字アリ、ソノカミ、
 唐ヲ尊ミシ頃ノ筆法也、今削ル、○船居ナキニヨリテハ、上古ハ、津ノ國ノミツヨリ船出
 セシヲ、コノ頃ニ至テハ、遠淺トナリテ、船出スヘキ湊ナクナリシ也、○播磨國ヨリ、
 此下ニ船ノラムトシテ使ハノ文字原文ニアリ、寫誤リテ上文ト重ナレル也、考ニ助ケタ
 ル説アレドモ、ヨカラズ、今姑ク省キヌ、尙考フヘシ、○船居ツクリ給ヘハハ、播磨ヨ
 リトオモホシメスホトニ、湊ノ出來タル也、○禮代ハ、ソノ御禮ノ代物也、シリ、シロ、
 普通ナリ、○考ニ云、是ハ御使ノ宣レル詞也、別ニ祝部ガ申ス祝詞モアリツラムト云ヘリ

出雲國造神賀詞

ヤソカ日ハアレドモ、ケフノ生日ノ足日ニ、出雲ノ國ノ國造姓名カシコミカシコモ申給ハ
 ク、カケマクモカシコキ明ツ御神ト、大八嶋國シロシメス天皇命ノ大御世ヲ、タナガノ大
 御世トイハヒ、若シ後齋ノ時ナラハ後ノ字ヲ加フゴトシテ、出雲ノ國ノ青垣山ノ内ニ、シタツ岩根ニ、宮柱フト
 シキタテ、高天ノハラニ、風木タカシリマスイザナギノ日眞ナゴ、カブロギ熊野ノ大御神、
 クシミケスノ命、國ツクリマス大名持ノ命、二神ヲ始テ、百八十六社ニマス皇神ダチヲ、

ニ天孫降臨ノ事ニ及フ、蓋
 公私ノ詞ニ異
 リテ其体ヲ異
 ニセムナルハ
 シ、國造ノ詞
 ハ私祭ニ屬ス

願意ヲ掲ケテ
 一頓、乃チ下
 文ヲ挽ク

第二段、自家
 祖神ノ文動ヲ
 叙ス

出雲ノ臣ヲ、
 上ノ國造ニ應
 シ、下ノ臣ノ
 イヤウチ伏ス

勢ヲ趁テ大國
 主神ヲ出シテ
 一頓、乃チ下
 文ヲ起ス

第三段、大國
 主大政奉還ノ
 文動ヲ叙ス

叙述妮々、白
 ウ波瀾ヲ生ス

某ガ弱肩ニ、太禰トリカケテ、イツミテグラノ緒ムスビ、天ノミカビカ、ブリテ、イヅノ
 眞屋ニ、新草ヲ、イツノ席ト蒞シキテ、イツヘ黒マシ、天ノ厩ソニイミコモリテ、シヅ宮
 ニ静メ仕ヘマツリテ、朝日ノ豊榮ノボリニ、イハヒノ返言ノ神賀ノ吉詞奏シ給ハクト奏ス
 高天ノ神ロギ高御彦日、神御産日ノ皇御孫ノ命ニ、天ノ下大八洲國ヲ、事避リマツリシ時、
 出雲ノ臣ラガ遠祖天穗日命ヲ、國形ミニ遣ハシ、時、天ノ八重タナ雲ヲ押分ケテ、天翔リ、
 國カケリテ、天ノ下ヲ見巡リテ、返言申給ハリ、豊アシハラノ瑞穂國ハ、晝ハサバヘナスワ
 キ、夜ハ火瓮ナスカバヤク神アリ、岩ノ根、木立、青水沫モ、言問テアラブル國ナリ、シカハア
 レドモ、鎮メムケテ、皇御孫ノ命ニ、安國ト平ゲクシロシマサシメムト申シテ、オノレ命ノ
 御子天ノ夷鳥ノ命ニ、フツ主ノ命ヲツヘテ、天降シ遣ハシテ、荒アル神ダチヲ撥ヒムケ、國作
 ラシ、大神ヲモ、コビシヅメテ、大八洲國ノウツシ事、アラハ事、事サケシメキ、

乃チ大名持ノ命ノ申給ハク、皇御孫ノ命ノ静マリマサム大倭ノ國ト申シテ、オノレ命ノ和御魂
 ヲ、ヤタ鏡ニトリツケテ、倭大物主クシミカ玉ノ命ト名ヲタ、ヘテ、大ミツノ神ナビニマサ
 セ、オノレ命ノ御子アゲスキ高彥根ノ命ノ御魂ヲ、葛木ノ鴨ノ神ナビニマサセ、事代主ノ命
 ノ御魂ヲ、ウナテノ神ナビニマサセ、カヤナルミノ命ノ御魂ヲ、飛鳥ノ神ナビニマサセテ

レリ、文章ハ、極テ古雅ニシテ、後世ノ物ナラズ、神代ヨリノ口傳ニアリシヲ、舒明天皇ノ頃ニ至テ、一篇ノ文ニツマリシナルヘシ、ト考ニイハレタル、實ニモト覺ユ、尙委シクハ、考ニツキテ見ルヘシ、○ヤツカ日ハ、多クノ日也、○生日ハ、物ノ生榮ユル日也、○足日ハ、物ノタリミチヌル日也、皆美辭ニテ、吉日ヲイフ也、○明ツ御神、現在マシマス御神ノ義ニテ、天皇ヲ申ス也、後世イフ活神ニアタル、幽神ヲヒズミノ神トイフニ對ヘテ申ス詞也、因ニ云、スミハヒソマリノ約ナリ、マリノ反ミ、ソトス音通也、即隱居ノ義也、○細注後齋云々、後齋トハ、上ニモ云ヘルコトク、國造ノ再上リシ時ノ齋ヲサシテイヘル也、○イハヒゴト、原文ニ、コ文字ナシ、○日眞ナゴ、日モ、眞モ、美稱也、日眞ノ子トイフニテ、子ニテモ孫ニテモ、ホメテイヘル也、○カプロギ、神ロギノ音通也、○熊野ハ、借字也、隱コモリヌノ義也、山ニカコマレシテ内コモリタル野也、式ニ、出雲國意字郡熊野神社トアリテ、素尊ヲ祭レル也、○クシミケヌ命ハ、クシハ奇妙ノ義ニテ、美稱也、ミケヌハ、御食野ノ義ニテ、出雲國ヲシラシ給フヨシノ御名也、是ハ素尊ノ御子ナルヘシ、○大名持命、杵築ニ鎮座ノ神也、此神ニハ、大物主トモ、大國御魂神トモ申シテ、スベテ七名アリ、○百八十六社、ソノ頃ノ調ニカ、レル出雲ノ神社ノ數

也、○ミカビハ、御カブリノ約ニテ、冠也、○眞屋ハ、齋屋ヲ美メテイヘル也、○新草ハ、マダ人ノ穢ニカ、ラヌ草ヲ云也、○イツヘハ、嚴瓮ニテ、ホトギ、ナベノ類ヲ、ミナヘトイフ、鼎ヲカナヘトイフモ、金瓮カナヘ也、鍋ヲ、ナベトイフハ、菜瓮也、○黒マシ、黒色ノ増ス也、物ヲ煮燒ク也、○隠カサソハ、隠ノメグリヲワトイフ、水際ミヅヘノワ也、○ワニイミコモリテハ、隠ナトヲナラベタル所ニ、物忌ノ爲メ籠リキル心ニテ、齋戸イハトニトヂコモルヲイフ也、○シツミヤハ、神ヲシツメ奉リイハヒ奉ル宮ヲイフ也、○齋ヒノ返言云々ハ、神ヲイハヒ申シ、トノ事ヲ、朝廷ニ返言奏スヲ云也、畢竟上ニイヘルゴトク、天皇ノ幸負物ヲ下シ賜フハ、コノ大神ヲ齋奉リテ、天皇ノ御世ヲ賀奉レトノ仰アルニヨリテ、カク齋奉レルナレハ、ソノ神事ノ終リシヨシヲ、返言スル也、○高天神ロギ、コノ以下、初テ神賀ノ詞ニ入ル也、○事サリマツリシハ、中ツ國ノ政事ヲサケテ、天孫ニカヘシ奉リ給ヒシ故、コトサルトハ云ル也、○國形見ハ、中ツ國ノヤウスヲ見ニ遣シ、也、○天カケリ國カケリハ、高キ處、低キ處ナヘテミメグルヲイフ也、○サハヘナスワキハ、小蠅サハヘノヤウニワキアガルトナリ、蟲ノ多キヲ、ワクトイフ、ナスハ、如クノ意也、○ホヘナスカ、ヤク神ハ、火ノモエタテル鼎ノヤウニ、カ、ヤク神ニテ、威勢ノツヨキヲイフ、

○石根云々ハ、山河草木一目ノウチ、ミナ是亂レアラブル神ノミテル國ナリト也、○オノレ命、國造ヨリイフ故ニ、命トハイフ也、○國ツクラシ、大神トハ、大國主神ヲ申ス也、○コヒシヅメテハ、媚鎮マセテノ約也、○ウツシゴトハ、現シ身ノ上ノ事也、○アラハゴトハ、現世ノ事也、ウツシゴト、イサ、カ異也、○皇御孫命云々ハ、カノ大倭國ハ、異日皇御孫命ノ鎮マリマサム國ゾト申テノ意ナルヲ、逆サニイヘルナリ、○オノレ命ノ和魂ヲハ、オノレノ恩德ノ姿ヲ、ヤタノ鏡ニウツシテノ意也、是ヲミレハ、天祖ノ御鏡ニ、ソノ御形ヲウツシテ、コレヲミルコト、アレヲ見ルガゴトクセヨト詔給ヒシ御意ト聊モ異ナラス、是ハ神世ノ上下一般ノナラハシトゾ見ユル、○クシミカ玉ハ、美稱也、クシハステニ説ケリ、ミカハ既ニテ玉ノ大ナルヲ既ニタトヘシニテ、是モ美稱也、玉ハ、三種ノ神寶ノ玉ノゴトク、オノガ恩德ノ姿ヲ、玉ニモタトヘシ也、○ミワノ神ナビ、ミワハ、神酒曲ノ略也、曲ハ上ニモイヘル、ミカヲノワニテ、ヤカテ瓶ヲイフ也、大國主神ヲ酒ノ神ト申傳フルニヨリテ、地名トハナレル也、此文ハ、ステニ地名トナレル後ヨリカキシ故、ミワノ神ナビトハイヘル也、神ナビハ、考ニ神ノ杜ノ約ニテ、神杜ヲイフ也、後世神南備ノ杜トヨメルハ、古言ノ實ヲ失ヒシ後ノ詞也ト云ル、名説トイフ

ヘシ、モリノ反、ミニテ、ミヲビトモイフ也、○マサセ、マシトイハズ、マサセトイフ、地ヲホシキマ、ニシメザル也、恭順ノ意、語々ノ上ニ見エタリ、○ウナテハ、畝手ノ音通ニテ、田中ノ畝道ヲイフ事ノ地名トナレル也、畝火山ノ西北ニ、今モ雲梯村トイフアリトイフ、ソコ也、雲梯ハ、ウナテニ、ヨキ漢文字ヲアテタル也、○カヤナルミノ命ハ、何神ノ御子ニヤ、尋ヌヘシ、高市郡ニ、ソノ神社アリ、ト式ニ見ユ、○ヤホニキツキ宮ハ、ヤホニハ、多ノ埴土ヲイフ也、多クノハニ土ヲ杵ニテツキカタメタリトイフ宮造ノワザニ付テ名ツケタルニテ、ヤホニハ、冠詞也、上ノ和魂ヲシヅメマサシメシ大三輪ノ神社ハ、イハユル生詞ニテ、コ、ノ杵築ノ大社ハ、ソノ荒魂ヲシヅメ奉リシ靈詞也、○神ロミノ命ノ宣玉ハクハ、大國主神ヲイハヒ奉リ、且天皇ノ御世ヲ遠長クト、穗日ノ命ノイノリ給フハ、ミナソノ祖先ノ神ノ遺命ニ出タル也ト、コ、ニ斷ソル也、○次デノマニハ、穗日熊野命ヨリ、國造マテノ次ノマニハ、○禮ジハ、禮シリノ略也、シラベノ爲ナラント云リ、○白玉云々ハ、白玉ノ白キガゴトク、大御白髮ニナリ給フマテマシ也、下ノ赤玉ナド、ミナソノ献レル物ヲタトヘニトリシ也、是古文ノ妙ナル處ニシテ、マタ是上代ノ風ナリシ也、○アカラビマシハ御梅モナクテ、天祖ノウルハシキヲイフ也、

○青玉ノ云々ハ、青玉ノゴトキミツノシキ木ノ枝ニ、玉ノナラビカ、ルヤウニ、天ノ下ヲワカノシク、ナベテシロシメセトノタタヘ言也、○ミツエノ玉ハ、若キ枝ニカケタル玉ノ意也、ナミアヒハ、ナラビアフ也、原文ニ、行合トアルヲ、坊本ニハ、ユキアヒトヨメドモ、穩ナラズ、行合ノ空ナドイフコトモアレド、ソレハ星ノユキアフ七夕ノ事也、コ、ハ、玉ナレハ、ニツカハシカラス、行ハ行列ノ行ナルベケレハ、ナミトヨムヘキ也、信濃國伊奈郡ニ、浪合村トイフアリ、是モ並合ノ借字ニテ、兩山ノナラビアヘル所ナレハ也、○ミハカシノマヒロニハ、御佩刀ノ及ノ廣キガゴトク、廣クアマネクノ意也、マモジ、考ニ加ヘタルニ從フ、ハカシハ、佩クノ敬語也、○フミ立ツルゴトクハ、原文ニ事波トアルハ、ゴトクノ寫誤ナルヘシ、コソコトハ、下文ノフリ立ツルニ對ヘテ、分チイヒタルトモイフベケレトモ、サルニテハ、句法碎ケテ、語意通セス、今改メツ、下ノフリ立ツルトイフ所モ、同シク改メタリ、○コ、ラシハ、是モカタムルノ意也、コ、リハ、氷ナトノ堅マルヲイフ詞也、○フリ立ツルゴトクハ、上文ノ馬ヲ受ケテ、耳ヲ下文ニテシラセタル文法也、○進ツル、コノ文字、理リニヨリテ加ヘツ、サラデハ、ソノ進ツル物落着セス、○シヅリノサハニハ、コ、モ、原文大ニ誤レリ、原文ニハ、シヅ

リノ大御心モトイヒテ、ソノ下ニ、多ノ字アリ、コレヲ考ニハ、皇ノ字ノ誤ト見ラレタレトモ、コ、ニ、皇親ハ、何ノ用カアラン、ハタマタ、倭文ヲ御心ニタトヘタルモ禮ナシ、コレシヅリヲ机ノウヘニ多クツミ重ネタルニ付テ、ソノサハナル倭文ノゴトク、大御心ニモ、天下ノ人ヲ、サハニ親ヒ玉ヒテノ意ナルヘケレハ、今改メ直シツ、元來コ、ハ、對句法ニシテ、白鳥ニ倭文、イクニ多、大御心ニ御調ノ玩物、進ツルニ親ヒ、兩々相對スル也、○ワカエハ、ワカユルノ意也、川岸ニオフル栗ノ木ノワカノシキニタトヘシ也、○ス、キフリサクハ、御贄ノ物ヲ洗ヒス、キテ、ケガレヲフリサク也、○トミノハ、富ノニテ、多ノ意ナルヘシ、稻ヲ富草トイフモ、ソノ實ノ多クナレル故ナルヘシ、マタ案ニ、富ハ、田實ノ義ナレバ、下ノ御贄ニカケテ、ヨシアリ、マタ人民ヲタミトイフモ、田實ノ義ナレバ、民ノ義ニ見ルモ、民ノ献ツル御贄トキコエレバ、コノ義ニトリテモ難ナカルヘシ、○ミノネハ、御贄ヲイフ也、ミハマトモ通シテ、美稱也、前ニ見エタル眞ノオトゴトイフマノト同シ、ネハ、贄ノ反ネナリ、○シロシメサンニハ、原文ニタマシルニトアルハ、知ノ下ニ、食ノ字落タル也、今理ニヨリテ加ヘツ、○ミウヘシリマス、大皇ハ、ソノ御像ヲマスミノ鏡ニウツシ給ヘバ、大御身ノウヘニシリマストハ

イヘル也、コレニテオモフニ、古ノ道ハ、ナベテ鏡ヲモテ、オノレ命ノ御影トモシ、御世ニマシマス時モ、鏡ヲモテ御心トシ給ヘルコトシラレタリ、○マソヒハ、眞澄ノ音通也、○ハルシテハ、ハラシテノ音通也、○天ッ次デハ、神代ヨリ世々今ノ國造マテ絶エス^{ホキ}賀奉ル次ノ意也

續紀宣命評釋

宣命評釋首論

享和ノ頃、本居宣長大人、續紀ノ宣命六十二篇トリ集メテ、コレニ解ヲ加ヘテ六卷トシ、
續紀歷朝詔詞解ト題シテ、世ニ行ハル、ソノ書ヲ見ルニ、曲援旁証、毫分縷拆、殆ト遺ス
所ナシ、恰モ玉箒ヲモチテ秋ノ葉ヲ掃フカコトシ、ソノ後人ニ裨益ヲ與ヘ給ヘル、誠ニ鮮
少ニアラス、サレトモ本居大人ハ皇學創業ノ人ニシテ、ソノ頃ハ採集考証ノ時ナリ、整頓
完成ノ時ニハアラス、故ニタマソノチリバフ木ノ葉ヲハラヒワクルノミニテ、ソノ葉ヲ取
舍ストイフコトモナク、ヨキモアシキモ、堆クツミオケルノミニナリ、カレヲヒキ、コレヲ
證シテ、ソノ誤ヲ正セルノミニナリ、サレハソノ芳躅ヲツギ、ソノ遺業ヲ受ケテ、ソノアシ
キハステ、ヨキハトリテ一篇ノ錦ヲオリナシテ、是ハ我ミ國ノオノヅカラナル文ゾト、外
ツ國人ニモ示スヘキ文ノ、今ノ世ニイカデカナクテ叶フヘキヤ、吾國上古ニハ、文章ナキ
ニアラス、サレトモ六國史ハミナ漢文ニシテ、意モ詞モコノ方ノ物ニアラス、又コノ宣命
ノ外ニ、古事記祝詞ナドアレドモ、是マタ和漢混淆音讀兩様ニテ、是モ我國上古ノ文章ナ

ルト示スベキモノニモアラズ、サレドモコレハ和七分ニ、漢三分ナレハ、ソノ三分ノ漢ヲヨク和ニト、ノへ入レテ、ソノ中ニマジコレル假字テフ物ヲ、盡クニ除キステ、スベテ漢字マジリノ文トナシタランニハ、ヨムニモ煩シカラス、外ツ國人ニモ初テ示サルベシトオモヒタチテコソ、此書ヲバ改メ寫セルナレ、オノレアヘテ整頓完成ノ任ニアタラントニハアラネル、セメテノ事ニ、是ナリトモナシオカハ、一ハ聖恩ノ厚キニモ報イ奉リ、一ハ先修ノイサヲニモコタフヘシトナリ、尙コノ書ヲアラタムルニ付テハ、一ワタリマヅ心エオクヘキコトモ多カレハ、下ニ本居氏ノ説ヲ聊カ摘載シテ、サテ後余ガトリスベテイフベキコトモアグヘシ

本居氏云、世ニイハユル宣命ハ、即古ヘノ詔勅ニシテ、上代ノ詔勅ハ此外ニナカリシヲ、萬ノ事、漢様ニナラヒタマフ御世々々トナリテハ、終ニソノ漢文ナル方ヲ詔書勅書トイヒテ、固ヨリノ皇國言ノヲバ、分テ宣命トゾイヒナラヘル云々、

又云、宣命トイフ名ハ、此續紀ノ十ノ卷ニ始テ見エテ、ソハ命ヲ宣ルヨシニテ、宣トハ、命ヲ受傳ヘテ告聞スルヲ云ナリ、神祇令ニ、中臣祝詞ヲ宣ルトアリテ、義解ニ宣ハ命ナリ、神ニ告クル祝詞ヲ、百官ニ宣聞スルヲイフナリトアルゴトク、宣命ノ宣モ、ソノ意ニシテ、

ソノ文ヲサシテイフ名ニハアラザリシヲ、後世ニハ、ソノ文ヲサシテ直ニ宣命トイヒ、宣ノ字ヲモ、詔勅ノコト、ゾ心得タンメル、西宮記ニ云々、別ニ宣命ナシ、或ハ詔書ノ宣命スヘキヲ、宣命トイフトイヘリトアル、是ハ一説ヲ舉ゲラレタルニテ、コレゾ古ノ意ナリケル、宣命スヘキヲトハ、ソノ儀式ヲト、ノヘテ宣聞カスルヲイフナリ

又云、上代ノ詔勅ハ、皆此宣命トイフ様ノ文ニテ有ケムヲ、古事記ニモ、書記ニモ、シルサレタルコトナケレハ、持統天皇ヨリ、アナタノ御世々々ノハ、一ツダニ世ニツタハラスナリヌ云々、アハレ古ノ皇國言ノハ、イカニウルハシク雅タル尊キ文ナリケム、イトモイトモユカシキヲ、書記撰ハレタリシ時、イト上代ノコソ世ニ殘ラサルコトモアリケメ、ヤ、近キ御世々々ノハ、多ク傳ハリテゾアルヘキヲ、皆ステ、載セラレス、盡クニ消ウセテ世ニ殘ラズナリヌルハ、イト〱措ラシク口惜ク慨タキ業ニナム有ケル云々

又云、續紀ノ次ニ、後記ヨリコナタノ史トモナル宣命詞ヲ次々ニ見モテユクニ、御世々々ヲフルマニ〱、古言ハヤウ〱ニ少クナリツ、タ、漢意漢詞ノミ、イヨ〱マス〱多ク、語ノツマキザマナド、ハタ漢文ブリガチニナレル、其中ニ、タ〱古キ例ノアル事ヲイヘル所ニノミハ、ソノ古キ文ニヨレル故ニ、尙宣命メキテ聞ユレル、先ニ例ナキ事ヲ、

新ニツヰレルフシハ、タゞ文字ノ書ザマノミ、古ヘノ宣命ガキニテ、スヘテタゞ漢文風ニテ、ムゲニ見所ナク、イト拙キ物ニゾナリニケル云々、

又云、宣命トイフ物ハ、聞ク人ノ心ニシメテ感^カグベク作レル物ナレバ、ソノ文詞ノ作リザマハ、更ニモイハス、コレヲヨミ舉グルヲサヘニ、古ハイト重ク嚴ニセラレテ、其法正シク、クサノノ習ドモアリシコトナリ、三代實錄ニ、貞觀九年正月十七日、二品仲野親王薨レ給フ、親王ハ桓武天皇第十二ノ皇子ナリ云々、幼ヨリ辨慧寬裕ニマシノキ云々、親王奏壽宣命ノ道ヲヨクシ給テ、ソノ音儀詞語、人ノ模範タリ、ソノ頃ノ王公ニハ、ソノ儀ヲシレル人マレナリシカバ、參議藤原朝臣基經、大江朝臣音人等ニ勅アリテ、親王ノ六條亭ニ參リテ、ソノ音詞曲折ヲ受習ハシメ給フ、故致仕左大臣藤原朝臣緒嗣、コノ義ヲ親王ニ授ケマキラセシヲ、ヨク學テ、ソノ業ヲツギモチテ、師法ヲ失ヒタマハザリシナリト見エタルニテ、イトタヤスカラザリシホトヲシルヘシ、古キ書籍目錄ニ、宣命譜トイフ物見エタリ、今ハ傳ハラヌ書ナレバ、イカサマナルモノニカシラネドモ、譜ト名附タルヲモテ思フニ、ソノ讀揚ザマ、音聲ノ巨細長短昂低曲節ナドヲシルベシタル物ニコソアリケメ、ソモノカクマデヤムゴトナキワザニシアレハ、今此紀ヲヨムニモ、ソノ心バエ有ヘシ、訓ヲ

附クルコイトノ大事ナリ、一文字トイヘトモ、等閑ニスベキニアラス、ヨクノ古語ノ例格ヲ尋考ヘ、語ノシラベヲウルハシク物スベキリサナリ云々、

又云、宣命ノ儀式ハ、貞觀儀式ノ條々ニ、多ク見エタル中ニ大嘗祭、己ノ日ノ所ニ、内記宣命ノ文ヲ、大臣ニタテマツレハ、大臣執リテ奏ス、畢リテ宣命ニ堪ヘタル參議以上一人ヨビテ、ソノ文ヲ授ク、ソノ人受テ本ノ座ニカヘル云々、皇太子ハ、座ノ東ニ立テ、西ニ向給ヒ、次ニ親王以下、共ニ降リテタチ給フ、宣命大夫殿ヲ下リテ、進テソノ版ニ就テ宣制ス、ソノ詞ニ云々、諸聞召ヘト宣ル、皇太子先稱唯、次ニ親王以下共ニ稱唯、皇太子先再拜、次ニ親王以下共ニ再拜、更ニ宣テ云ク云々、諸聞召ヘト宣ル、皇太子先稱唯、次ニ親王以下共ニ稱唯、皇太子先再拜、次ニ親王以下共ニ再拜、宣給大夫本ノ座ニカヘリ、親王以下モ本ノ座ニ復リ給フト見ユ、何レノヲリノ宣命ノ儀モ、大カカクノゴトキモノナリ、宣命大夫トイフハ、宣命ノ文ヲ讀ム人ニテ、宣命使トモイヘリ、上ニ宣命ニ堪ヘタル參議以上一人トアル、是ナリ、版ニ就クトハ、宣命ノ版トテ、カネテ設ノ座ニ就クヲイフ、宣制ハ即命ニテ、是モ宣命トイフト、同シ意ナレドモ、宣命トイフハ、其事ノ儀式ヲ廣クイヒ習ヘル名ナル故ニ、ソノ中ニ付テ、正シクソノ文ヲヨミアグルコトハ宣制トイヒテ事ヲ分テルナリ、

又云、内記式ニ云、凡テ宣命ノ文ハ、皆黄紙ニカク、但シ伊勢大神宮ニ奉ル文ハ、緑ノ紙ニカク、賀茂社ノハ、紅ノ紙ニカク、以上ハ、本居氏ノ詔詞解ニイヘル所ヲ摘載セルナリ、是ヨリ余カオモフ所ノフシノフ條ヲ分ケテイフヘシ

抑此宣命文トイフ者ハ、コノ續紀ヨリソノマ、ノセラレタレハ、古ヘノ皇國詞モテカケル詔勅トイフ者ハ、カ、リシ物ナリケムト、今ノ世ニモシラル、ナレドモ、本居氏ノ言ハレシゴトク、コレヲミレバ、ソノ以前ノハ、マタイカバカリウルハシキ物ナリケムト、イトモノ、ユカシク思ハルレドモ、今ハ一篇モ傳ハラデ、コノ續紀ニ至テカクバカリ夥シク、ノセラレタルハ、イカナル故ナリケム、日本紀ノ編成ヲ告ル、僅ニ七十年斗前ナレハ、續紀ニモソノ御世ノ宣命ハ、漢文ニ盡クアラタメテノスヘキニ、サハナクテ、六十二篇ソノマ、ニノセラレタル、ソノイハレナキニシモアラザルヘシ、オノレツラノオモフニ、コレニハ原因三アルベシ、一ハ平安ノ遷都、二ハ蝦夷ノ入寇、三ハ古言ノ擁護是ナリ、蓋平安ノ遷都ハ、延暦三年ニ、ソノ敷地ヲ始テ定メラレ、三年間カ、リテ、漸々ニ成就セシトイヘトモ、ソノ全ク純熟セシハ、ハルカノ後、嵯峨天皇ノ御世ニアリトイヘハ、

ソノ國用ノ多端ナルヲ、イフマデモナシ、シカルニソノウヘ蝦夷次第ニ内地ニ入りコミテ、邊地イトサハガシク、コレニヨリテ、紀ノ古左美等ヲ遣ハシ、カドモ、三年逗留シテ進マズ、空シク歸リテ、勘問セラレシヲ、コノ宣命中ニ見エタルカゴトシ、コレニツキテミテモ、ソノ猖獗ノ勢ヲオモフヘシ、サテコレニヨリテ田村麿ヲ遣ハシテ、多賀城ヲツクルナド、ソノ方ノ用度モ、後ノ想像ノ外ナルヘシ、サレハ國史ヲ編集ストイフトモ、カヲ専ラニスルヨシモナカラン、マシテ、此續紀ハ、第四十二世文武天皇ノ元年八月ヨリ、延暦十年十二月マテ、スヘテ九世九十五年ノ間ノ事ヲシルセルニ於テヤ、サレモソノ紀事ノ大事ニ止メタルモ、宣命ノ文ヲソノマ、用タルモ、ミナ國事多端ニシテ、載筆ニ十分ノ暇ヲエス、ヤムヲエズ手ノハブカル、限リ、ハブキタルモノトゾオモハル、サレトモコノ二因ニヨリテ、コノ宣命ハ漢文ニ譯サレザリシニモアラサリケムトモオモハルレバ、尙ソノヨシナカルヘカラス、蓋孝德天皇ノ御世ヨリ、漢唐ノ制度ヲ取用キ給フマ、ニ、コノ方ニ法律語トイフモノモナク、カレヲ用フレハ、カレノ語ヲモ用ヒズハ、何事モクタクシクナルノミニテ、何ノ益モナケレハ、スヘテ新シキ事ニハヒタスラ漢語ヲ用給ヒシヨリ、日ヲオヒ年ヲ重ネテ、漢語ノミハヤリ、此方ノ詞トテハ、年々歳々キエウセテ、古ノオモカ

ゲハ、又ソノアトヲ留メヌヤウニモナリナンハ、イトモアタラシキヲト、コ、ロアルモノ、其世ニナキニシモアラザリシハ、カノ古語拾遺ナトヲミテオモヒ合セハ、サルヲトモオモハル、ナリ、サレハコノ宣命斗ナリトモ、ソノマ、ニ殘シオカバ、古ノ道モ、世ニ傳ハリテ、カタ／＼ミス世ノ便ニモナリナンカト、サテハ古言ノ擁護ニモ出タルニハアルマジクヤ、トニモカクニモ、此御世ニ當リテ、コノ文ヲ漢文ニ譯ツシ給ハサリシヲハ、ナカ／＼ニ大ナル文勳ニシテ、天祖ヲ初テ御世々々ノ御靈モ、イカバカリウレシクオボシ給ヒツラン、カヘス／＼モワカ國人ノ幸ニシテ、カノ皇太子學士菅野真道、藤原朝臣繼繩等ノ桓武帝ノ勅ヲ奉ジテ、カクハカラヒシイサヲコソイハユル不朽ノ盛事トヤイフベカラシ、サテ宣命詞ノ發端ニハ、必現御神ト大八州國知ロシメス天皇ガ大命ヲマト詔給フ大命ヲ集侍レル親王ダチ諸王ダチ諸臣ダチ百官人ダチ天下ノ公民諸聞召ヘト宣ルトイフ一段アリ、詞ニコソ詳略ハアレ、ソノ詔給フ趣ハ、ミナ同シ、マタ此次ニ、御即位ノ詔ナラバ、必萬世一系皇統連綿ノ故ヨシヲ詔給フガ、一皇ノ法トナレリ、

又ミ、ヅカラノ御身ヲ現御神ト宣ヘリ、現在ニマシマス御神ト申ス御詞ニシテ、幽界ノ御神ニムカツテノタマフナリ、後世マテモ、活神ト申奉ルハ此意ナリ、我國ニ生レタルモ

ノ、天皇ヲタ、ノ人トハ一人モオモハズ、御ミツカラモ、サハオボシ給ハヌナリ、故ニオホシメシヲモ、神ナガラオモホスト宣給フナリ、神ニテマシマスマ、ニ、オモヒ給フノ意ナリ、又常ニ宣給フ詔ニハ、スメラ朕ト宣給ヘリ、朕ノウヘニスメラヲソヘテ宣給フガ式語ナリ、神ナラバ神朕ト宣給フナリ、

皇太子ヲバ、イツレモヒツキノミコト宣給ヘリ、御世／＼ノ太子ハ、ミナ天照大御神ノアトヲツギ給フ御子ナレバナリ、子孫ヲヒコトイフモ、日子ニテ、大日雲ノ神ノ御子孫ナルガ故ナリ、

又君德ヲハ、高キ貴キ廣キ厚キ大命ト宣給フ、コレニモ詳略ハアレトモ、ミナ同シキ趣ナリ、天地ノ初ヨリ、御世／＼ノ、大八州ノ外マテモアマネク及ヘルクサ／＼ノ御君德ハ、コノ四文字ノ中ニコモレリ、ソノ事實ハ、歴史ノウヘニ歷々トシテ見ユレハ、コ、ニイフヘキニモアラス、只ソノ大御惠ノ高キ貴キ廣キ厚キヲハ、先ツ言語ノウヘニサナガラ見エ給ヘル、ソノ一二ヲイハバ、公民ヲ大御寶ト宣給ヒ、治國ヲバシロシメス、キコシメス、ミソナハス、詔給フヲ、ヲシヘ給フ、ノリ給フ、惠ミ給フナト、宣給フニテモ、明カナリ、ヨク／＼ソノ義ヲ明ニシテ、ソノ德ノヤムゴトナキコトヲ仰クヘシ

臣道ニハ、必明キ清キ直キ貞シキノ心モチテナト宣給ヘルヲ常ナリ、是モ開國以來ノ臣道ニシテ、ソノ事モ史ニ明カナレトモ、是モ詞ノウヘニ付テミレハ、古ヘノ臣タル人、イカニ明キ清キ心ナリケントオモヒヤルニモ、ソノ底ヒシリガタシ、ソノ一二ヲイハハ、何事ヲ行フヲモ、奏ストイヒ、死テ葬ルヲハ、支那ナトナラハ、タ、土ニウヅムトイフナルニ、コナタニテハ、ハフルトイフ、ハフルハ、ハベルト音通ニテ、死亡ノ後モ、ワカ大君ノ御ソバニハヘリ仕ヘマツルノ意ナリ、奏ストイフモ、君ニ先申テ後、ソノ詔ヲウケテ行ヘハナリ、コレヲミテ、ソノ全豹ヲ窺フヘシ、サテコレニ反スルヲ、穢キ、ミニクキ、醜事ナド宣給ヒ、ソノ穢キ物ヲ黜ケ給フヲ、キラヒ給ヒ、ステ給フトイヒ、ソノ清キ明キヲス、メ給フヲ、アゲ給フ、メデ給フ、治メ給フナト宣フナリ、スヘテ正シキヲ赤キトイヒ、ヨコシマナルヲ黒キトイヒテ、コレヲキタナシトイヒ、キヨシトイヒ、キラフトイヒ、メヅトイフ斗ニテ、ソノ外ニウルサキ、コチタキ、イヤシキ、見苦シキ詞ノナキゾ、我皇國ノ純一ナル美俗ニシテ、詞ノタラザルニハアラズ、ヨクノソノ詞ニ付テ、臣道ノ純一淳厚ヲ旨トセルサマヲ味フヘシ

抑コノ續紀ノ初頃ヨリ、漢學佛教ノ盛ニナリヌルマ、ニ、ヤウノニワガ皇祖皇宗ノタテ

給ヒ養ヒ給ヘル皇道美俗モ、クヅレ出タルコソ、イトモノアタラシクウレタキコトノ限ナルヘケレ、ソノ一二ヲイハ、先ツ漢學ノ行ハル、古來何事ニモ皇祖皇宗ト宣給ヒ來タルニ引カヘテ、天地ノ心ヲ勞ホシミトイヒ、天地四方ヲガミテトイヒ、是誠ニ天地ノ神ノ慈給ヒ守給ヒ、カケマクモカシコキ開闢以來天下シロシメシ、天皇云々ニヨリテ、此逆ナル惡奴ドモハ顯出テ、悉ニ罪ニ伏シヌト云、天ノ授ケザルヲエテ、アル人ハ受ケテモ、全クイマスモノニ非ス、後ニ壞レナムトイヒ、此位ハ天地ノオキ給ヒ授ケ給フ位ニアリ云々トイヒ、カノ人ハ、天地ノウベナミユルシテ授給ヘル人ニモアラス、何ヲ以テカ知ルトナラハ云々トイヒ、是レニヨリテ天地ヲ恨ミ、君臣ヲ悲シミス云々ト宣給ヘルナド、一ニモ二ニモ、天地ヲ先ニ宣給ヘルゾアヤシキ、ワガ皇祖皇宗ヲオキ給テ、何ノ故アリテカ天地ヲシ宣給ヘル、ミナ是漢學ノ弊ニシテ、此方ノ皇道ニハイタクタガヘリ、

右ノ外善惡ヲイハス、タ、漢意ノ入マジリシ類ヲアグレハ、第五、親王ノ齡ノ若キニ、荷重キハタヘジカトオモホシマシテ云々、第七必モシリヘノ政アルヘシ、第七聖ノ天皇命、第十上下ヲ齊ヘ和ケテ動キナク靜ニアラシムルニハ、禮ト樂ト二ツ並ヘテ平ケク長クアルヘシ、又今日行給フワサヲミソナハセバ、タニ遊フトノミニハ非スシテ、天下ノ人ニ

君臣父子ノ理リヲ教ヘ給ヒ趣ケ給フトアルラシトナモ思ホシメス、第二十七國家ノ大事、賞罰ノ二柄ハ、朕行ハム云々、第二十七賞罰ノ事ヲ云々、第四十二、是豈朕德天地ノ御心ヲ感動セシメマツルヘキコトハナシ云々、第四十二、夫レ天ハ萬物ヲヨク覆ヒ養ヒ給ヒ、慈ヒ憐ミ給フモノニイマス云々、

過ヲ知リテ必改メヨ、能キヲエテハワスルナ云々、

我ハ淨シト口ニイヒテ、心ニ穢キヲ懷クハ、天ノ覆ハズ、地ノ載セヌ所トナリヌ云々、

古人イヘルコトアリ、子ヲ知ルハ親トイヘリトナモ聞召ス云々、

仁孝ハ百行ノ基ナリ抑百足ノ虫ノ死スルニイタルマテモ、顛ヘラザルコトハ、輔ノ多ミ

トナモ聞召ス云々、天高ケドモ卑キニキクモノゾ云々、

カクノコトク、漢意ノ入ルニ從テハ、漢語モモトヨリ入ルコトナリ、サレハ文武天皇ヨリ以來ハ、殊ニ漢語ヲモ宣命ニ加ヘ給ヒシヤウニ見ユルゾ多カリケル、本居氏ハ、ヨマル、カギリハ訓讀セラレタレト、是却テソノ時ノ御意ニモ背クコトナリ、ノミナラス、ヨムニモイトワヅラハシク、味氣ナキワザナリ、ソノ類ハ、先ツ冠位官職、及政治法律上ニ使ヘル語ナトハ、ミナ漢語ヲ用ヒ給ヒシナリ、我國ニナキコトヲ、新ニ設ケラレタルナレハ、訓モナ

キ筈ナリ、サレハソノ類ハ、ミナ音讀シテヨキナリ、ソノ他文語モ聊カ音讀シタルモノカトオモフモノ、或ハ訓讀ストモ漢語ヲ用ヒ給ヘルトオモフ者ヲ下ニ引クヘシ

天下ニ號令センム、負荷ニ堪ヘス、定省ヲエズ、日夜安カラス、間ノ人ニナリテ、酬盡シマツルコト難シ、今ヨリ後、皇舍人親王ヲ進テ、敢テ仕マツルヘキ人ナキキハ云々、其門ニ表旗ヲタテ、孝子、順孫、義夫、孝婦、節婦、力田、鰥寡孤獨自存ルコト能

ハザルモノ、晝モ夜モ、朕幼弱ノ身ニ、天日嗣ノ高御座ノ業ヲウケ給ハリ、朕寡薄クシテ寶位ヲ受給ハリ、撫育セシムヘシ、進退度ヲ失ヒ、軍期ヲ闕キ怠タリ、邊戎ヲヘテ、

ソノ外、長ク遠ク、日月、瑞寶、負圖龜、萬機、逆黨、惡逆、師、弟子、精兵、謀反、逆心、散位、奇異、景雲、至德、講讀、感動、抱藏、發覺、臣下、寶位、讀誦、希有、厭魅、大逆、元來、餘命、嘉政、仁厚、元謀、小功、小罪、ノ類、訓ニモヨムヘキアレト、音讀ニモスベク、後ハ是等ノ語ヲ、大カタ音讀シテ、終ニ普通ノ語トナレリ、ソノ和言トイフ者ハ、月日、遠長、重輕、夜晝ナトノ類ナリ、イツレモ訓讀ニシテモ、音讀ニシテモ、和語ハ和語ナリ、漢語ハ訓讀シテモ、ヤハリ漢語ナリ、コノ區別ヲ明ムヘキナリ、サテ又コノ頃ヨリ漢文ノ和文トイフ文体始マレリ、ソノ類ハ、狀隨、助奉、受被賜、過无、

罪無者ノ類ナリ、後世ノ鎌倉文トイフ牒ハ、皆コノ處ヨリ出コシモノトシルヘシ、又漢文ノ譯語ヲ文中ニ用フルトモ、コノ頃ヨリゾ多クナレリケル、ソノ類ハ、敢ヘテ、ス、ム
ナカレ、至ルマテニ、能ハスノ類ナリ

扱又佛教ノ盛ニナレルニ從テ皇道モ風俗モ盡ク壞出テ、マタ論ツラフベクモアラスナリスルゾアサマシキ、ソノ類ヲ左ニ摘記スヘシ、

第十二、三寶ノ奴ト仕ヘマツル天皇ガ大命ラマト、盧舍那ノ像ノ大前ニ奏シ給フ云々、
第二十七、朕カ菩提心ヲ發スヘキ緣ニアラシ云々、是ヲ以テ出家ト佛ノ弟子トナリス云々、第二十八、經ニ勅ハク、國王ハ王位ニマス時ハ、菩薩ノ淨戒ヲ受ケヨト勅リテ云々、第三十八、朕ハ佛ノ御弟子トシテ、菩薩ノ戒ヲ受給ハリテアリ、此ニヨリテカミツカタハ、三寶ニ供ヘマツリ、次ニハ天社國社ノ神タチヲキヤヒマツリ、次ニ仕ヘマツル親王ダチ云々、神等ヲバ三寶ヨリサケテ、フレヌ者ゾトナモ、人ノ思テアル、然レトモ經ヲミマツレハ、佛ノ御法ヲ守リマツリ尊ミマツルハ、諸ノ神タチニイマシケリ、故是ヲ以テ出家人モ白衣モ相雜リテ仕ヘマツルニ、豈障ルハアラジト思ホシテナモ、モト忌ミシガゴトクハイマズシテ、コノ大嘗ハキコシメス云々、第四十一、無上キ佛ノ御法ハ、

至誠ノ心ヲ以テ拜ミ尊ヒマツレハ云々、第四十二、三寶モ諸天モ、天地ノ神タチモ云々、
第四十三、盧舍那如來、最勝王經、觀世音菩薩、護法善神、梵天帝釋、四大天皇ノ不可思議威神力、カケマクモカシコキ開闢以來、天下シロシメシ、天皇ノ御靈、天地ノ神ダチノ守リ助ケマツルニヨリテ云々、諸靈ダチ、天神地祇ノ現ハシ給ヒ云々、第四十五、上ツカタハ三寶ノ御法ヲ隆エシメ、家出セル人ヲ治メマツリ、次ハ諸ノ天神地祇ノ祭禮ヲタ、ズ下ツカタハ天下ノ諸民ヲ憐給ヘ云々、

カクノゴトク、漢學ノ盛ナル頃ニハ、何事ニモワガ尊トキ祖宗ノ御靈ヲオキ奉リテ、ヤ、モスレハ、天地ヲ云々シ、佛教ヲ尊ミ給ヘハ、マタ天地云々ヲステ、何事ニモ佛道ヲ先ニシ、ミ、ヅカラ三寶ノ奴トナリ、佛ノ御弟子トナリ給フト、ノリ給ヘルニ至テハ、冠履倒置、天地翻覆ストイフヘシ、カ、ル世ノワガイニシヘニモアリケルヨト、外ツ國人ニモ見ラル、コソ、イトモノ、ハヅカシクカナシキ限ナレ、オノレコノアタリノ詔ヲヤキステ奉ツラントオモヘトモ、ソノアシキヲスツレハ、ソノヨキ所モウセヌルガヲシケレハ、目ヲフタギテ、トヤカクト物スルナリケリ、

右ノゴトク、佛教盛ニナレハ、佛語モ多クマシコレルハ、漢學ニ從テ漢語ノ行ハル、ト同

シ理ナリ、今ソノ類ヲアグレハ、
 袈裟、如來ノ尊キ大御舍利、大御形モ圓滿、是實ニ化ノ大御身ハ、緣ニ隨テ度シ導キ給
 フ、世間ノ位、菩薩ノ行ヲ修ヒ云々、五色ノ瑞雲、吉祥天ノ悔過、世間ノ榮福、人天ノ
 勝示ヲ受テ終ニ佛トナラム、躰ハ灰ト共ニ地ニ埋モリヌレト、名ハ烟ト共ニ天ニ昇レ、
 右ノコトク、コチタクウルサキホド、聖武孝謙ノ詔ニ見ユレトモ、光仁天皇ニイタリテハ、
 一掃シテソノアトヲト、メズ、詞モ古ニタチカヘリタル、誠ニ雲霧ヲ披テ青天ヲミルガゴ
 トク、心ノトミニヌガクシクナリヌルヤウ覺ユルゾタフトキ、
 トニカク、アラヌ詞モ世ヲフルマ、ニ、多ニハナリヌレトモ、今ニワガ邦ノ古言ヲ見ルヘ
 キハ、祝詞、古事記、萬葉ヲ除キテハ、コノ宣命ニゾアリケル、コレヲヨクノ味ヘハ、
 古今一貫ノ語モ、ソノ中ニマ、アリテ、二千餘年ノ間、カクモヨク守リ傳ヘケルニカト驚
 クバカリナリ、ソノ一ニヲイハ、オモホシメヌハ、思召、オホマシマスハ、オマス、イ
 トホシミハ、イトシ、イカシミハ、イカイ、辱ケナシハ、辱ケナイ、カシコミハ、カシコ
 マリ、オノカヒキハ、ヒイキ、奏スハ言上、負ヒ給フハ仰セラレ、官ヲトルハ、官ヲト
 リアグル、大御所ハ、大御所、ツカラシクハ、所勞ニテ病氣、モノ、フハ、物頭ニテ侍

ナリ、是等ハ、我カ國ノ外ニハ見ルベカラサル美風ニシテ、何事モソノミナカミハ、萬世
 一系ノ國體ヨリ出コシナリ、尊フベク守ルベシ、
 又宣命文ニハ、巧拙アリ、是ハコノ詔ヲカクハ、内記ノ職ナレハ、ソノ時ノ内記ヲシラベ
 テミレハ、是ハ何人ノ筆ゾトイフヲモシラルベシ、サレトモ、今ハイトナケレハ、ソコマ
 テハ吟味ニ及ハス、

右ノゴトク文章ニモ巧拙アリテ、文評ヲ付スヘキモアリ、又ソノ文ヲ解ケハ、オモヒノ外、
 ソノ文意ヲ曉ルニモ便アレハ、今ハ一々段ヲキリテ評語ヲ加ヘタリ、

終ニ臨ミテ、サラニ一言スヘキハ、即位ノ詔ナトニ、往々近江大津宮ニ天下シロシメシシ
 大倭根子天皇ノ天地トトモニ長ク、月日ト共ニ遠ク、改ルマジキ常典トタテ給ヒ敷キ給ヘ
 ル法ヲ受給ハリマシテ、行ヒ給フトイフ一段アリ、是天智天皇ノ御時ヨリ、早ク繼嗣令ト
 イフモノヲ定給ヒテ、皇位ノイヤマシ動クヲナキヤウニトハカリ給ヒシ故ニ、此事ヲ御世
 ノ代ガハリニ宣給ヘルナリ、恰モ今ノ憲法ヲ定給ヒシ時ニ、皇室典範ヲ設ケテ、皇嗣
 ノ御事ヲ規定シ給ヒシニ同シク、ツマリ皇室典範ハ、遠ク近江大津宮ニ天下シロシメシシ
 天皇ノ遺訓ヲ奉ジテ定メ給ヒシトゾオシハカラル、サテコソ寶位ハ盤石ノゴトク、千萬

年ノ後マテモウコクマジキナレ、アナタフト、
 明治三十六年癸卯卯月八日午後四時十分書畢ヌ、時ニ一天カキクモリ、風モヤ、ハゲシ
 ク、隣家ノ花今ヲ盛トサキケルニ、アタラトトカキツ、ヲシマル、モ、春ノコ、ロノ
 長閑カラヌナリ、

浪華清谿萬年書屋西牖ノ下ニ
 稼 堂 處 士 述

續紀宣命評釋

第一文武天皇御即位詔

加賀 金澤 黒本植 評釋

第一段百官萬民ニ告グル端ヲ發ス
 現神、是ハ今上
 第二段即位ノ由ヲ叙ブ

現神是ハ先帝調平、惠撫、兩々相對ス

第三段百官ニ忠勤ヲ勸ムヘキ由ヲ叙ブ
 明淨直誠、貴高廣厚ニ應ス
 第四段ニ恩賞ヲ與フヘキ由ヲ叙ブ
 第四段ニモ褒

現ツ御神ト、大八嶋國シロシメヌ天皇ガ大御命ヲ、ト詔給フ大御命ヲ、集ハレル皇子等
 王、臣、百官人等、天ノ下ノ公民、諸聞召ヘト宣ル』高天ノ原ニ事始テ、遠天
 皇祖ノ御世々々、中今ニイタル迄ニ、天皇ガ御子ノアレマサムイヤ繼々ニ、大八嶋國知ラ
 サム次手ト、天ツ神ノ御子ナガラモ、天ニマス神ノヨサシマツリシマニマ、キコシメシク
 ル、コノ天ツ日嗣高御座ノ業ト、現御神ト大八嶋國シロシメヌ大和根子天皇ノ命ノ授給ヒ負
 給フ貴キ高キ廣キ厚キ大命ヲ受給ハリカシコミマシテ、コノ食國天下ヲ調ヘ給ヒ平ゲ給ヒ、
 天下ノ公民ヲ惠給ヒ撫給ハムトナモ、神ナガラ思ホシメサクト詔給フ天皇ガ大命ヲ諸聞召
 サヘト宣ル』是ヲ以テ、百官人等四方ノ食國ヲ治マツレト、任給ヘル國々ノ宰等ニ至ル
 マテニ、天皇カ朝ノ敕給ヒ行給ヘル國法ヲ過犯スコトナク、明キ淨キ直キ誠ノ心ヲ以テ、
 彌謀々リテ、緩怠ルコナク、務結リテ仕ヘマツレト詔給フ大命ヲ、諸聞召サヘト宣ル』
 故カ、ル狀ヲ聞召シ悟リテ、勤シク仕マツラン人ハ、ソノ仕ヘマツレラム狀ノマニマ、品

續紀宣命評釋

擢治ノ三ナ重
テ文ノ斤兩ナ
ハカル妙、且
治ノ中ニ詩ノ
意ヲモ暗ニ含
メタル尤妙

々褒給ヒ、擢給ヒ、治給ハム者ゾト詔給フ天皇ガ大命ヲ、諸聞召ヘト宣ル

現御神ハ、今上ヲ申スナリ、世ニマシマス天皇ヲ現神ト申シ、崩御マシ、天皇ヲ幽神ト申ス、徳川ノ代マテモ、天皇ヲ活神トイヘリ、此意ナリ、古人ノ天皇ヲ尊ミ奉リカシコミ奉ル、何ソソレ厚キヤ、當今ノ憲法ニモ、天皇ハ神種ニシテ犯スヘカラスト規定シ給ヒシモ是ナリ、萬々歳ノ後マテモ、天皇ハミナ天照大神ノ御子孫ニテ、即神種ニマシマスナリ、故ニ現神トハ申奉ルナリ、我等カ目ノ前ニマシマス神ノ意ナリ、幽神ハ、神去マシテ此世ニマシマスヨモツ神ナリ、幽現ヲ以テ分テルノミ、○シロシメス、下民ノ情態ヲヨク知り見テ、サテ後政ヲシキ施シ給フナリ、シラシミストイフヲ、音便ニシロシメスト云フ、シラシハ、知リヲノベタル敬語ナリ、メスモ敬語ニテ、マスト同シ、只音ノ轉スルノミナリ、是ニ食、召ナトアツルハ、イハユル假字ナリ、扱治ノ字御ノ字ヲモアツレド、是モアタラス、治ハ亂レタルヲ治ムルナリ、御ハ民ヲ御スルナリ、御ハ馬ヲツカフナリ、人民ヲ牛馬ニタトヘシナリ、是ハ支那ノ文字ナリ、我御國ノスメラ尊ハ、民ヲ大ミ寶ト申給テ、聊モソノ情ニ背キタル政ヲ勅給ハヌ故ニ、知ロシメストハ云ナリ、支那ノ歷王ハ、人民ヲ牛馬ノ如クオモフ故ニ、御臣牧民ナト、云リ、我國體トハ殆

ト雲泥ノコトシ、然ル故ヲモシラデ、民ヲ御ストイヒ、或ハ知事ヲ牧民官ナト云ハ、上ニ對シ奉リテモ畏多キ事ナリ、文字ハヨクク、吟味シテ用フヘキナリ、古ノ祝詞宣命ハ、我國ノ精華ニシアレハ、此書ヲヨムモノ先ヅコ、ニ眼ヲツクヘシ、○ラマハ、ドモノ古語ナリ、大御命等ナリ、臣ヲヤツコラマ、御裔ノ僕ヲ、ミナスエヤツコラマナトイフ、ミナ等ナリ、日本紀ニスベテミコトラマダチト一ケ所見エタルハ、重ネテ云ルナリ、後世ノ子ドモダチトイフカコトシ、萬葉ニ、國ノマホラマトモ見ユ、國ノ真中ドモノ意ナリ、古事記ニハ、國ノマホロボトモ見ユ、ロトラ、バトマ音通ナリ、サテラマ、ロバドモ、ダチ、ミナ音通ニテ、ソノ語源ハ同シク、數詞ナリ、後世ニ至テハ、ラマハ既ニ廢語トナリテ、ドモ、ダチノ二語殘リ、ドモヲ卑キニ用ヒ、ダチヲ貴キニ用フ、又ドモヲ、物事ニモ用フルナリ、今大御命ラマト、イヘル類ナリ、九州人ノ詞ニ酒ドモ出シテナトイヘルハソノ遺ナリ、ラマハ是ト同シナレド、後世用ヒザル故、耳遠ク聞ユルノミ、○ウコナハレルハ、ウコナハリアルナリ、ウコナハリハ、ウゴナヒナリ、ウゴハ、動クト同意ナリ、ナヒハイサナヒ、トモナヒノナヒト同シク、物ノヨリアフヲイフ詞ナリ、人ノ多クアツマリテウゴキヒシメクナリ、蠢動ヲウゴメクトイフモ、虫ノ動クヲ形容シ

タルナリ、○皇子等云々、皇子ハ親王ナリ、王ハ諸王ナリ、○公民ヲオホミタカラトイフ、大御田力ノ義ナリ、珍寶ヲタカラトイフモ、コノ義ヨリ出タルナリ、人民ハ、租税ノ本ナリ、故ニ税ヲモタチカラトヨメリ、コノ田力ヲ出スモノナルガ故ニ、尊ミテ、カクハ宣ヘルナリ、我國列聖ノ人民ヲ愛護シ給ヘル、カクノコトシ、是ニテモ牧民ナトイフベカラサルヲ悟ルヘシ、○諸ハ皇子ダチミナニカ、ルナリ、諸神、群神、各地、諸人ナトイフハ支那ノ語法ナリ、神語、人皆ナトイフハ、此方ノ語法ナリ、ソノ異ナル所ヲシリオクヘシ、今ニテモ、ミナノサマ、御機嫌ヨクナトイフハ、古來オノツカラナル詞遣ナリ、○キコシメサヘ此詞、今モ俗ニ云リ、メサレヲメサヘトイフナリ、羅行ヲ、古ハ多ク波行ニ云ヘリ、今メサヘトイフハ音便ナリ、○宣ル、詔ヲ奉シテ親王諸王百官萬民ニ申渡ス人ノイフナリ、一段ゴトニ此詞アリ、此一段終ルゴトニ、參集ノ人々諸共ニオ、ト申ス例ナリ、コレヲ稱唯トイフ、オ、ハカシコマリテ應フル詞ナリ、後世ニテモ、武家ニテ人ノ家ヲ尋ヌルニ物マウトイヘハ、内ヨリオ、トコタフ、敬ヒノ答ナリ、昔ノオモカゲハ、大カタ遣レリ、○スメロギハスメラギト音通ナリ、昔ハロギトイヒ、後ハラギトイフ、ヲ、ロミナ助語ナリ、ギハ君ノ意ナリ、天ツ神ヲカミロギトイヒ、天ノ下

ヲスベ給フトイフニヨリテ、スメロギトイフ、祖神祖皇ヲ申ス詞ナリ、○中今、本居氏云、今ヲイフナリ、後世ハ今ノ事ヲ降レル世ナトイフハ、ヨロシカラヌ言葉ナリ、中トハ今ヲ盛ナル真中ノ世トホメタル心バエアリテ面白キ詞ナリトイヘリ、ゲニモ末世ナト云クダスハ、當今ヲイヤシムル意ニテ、上ニ對シテモカシコキナリ、トカク漢意佛意ノ入りシヨリ、ワガ大和民族ノ心モ詞モ、ナベテクダレルサマ、コノ一語ニテモ推シテ知ルヘシ、○次手ハ代ヲ次グ人ノ義ナリ、人ヲ手トイフハ、今モカハラス、俗ニツイデトイフハ、次出ナリ、次第ノ意ナリ、其ト異ナリ、清濁ヲミテ知ルヘシ、ツギテヲツギデト濁レルニハアラス、○ナガラモ、マ、ニノ意ナリ、後世觀テアリナガラナトイフハ、コレト同シ、○ヨサシマツリシハ、天祖ノ忍穗耳命ニ詔ラシ、ナトヲサセルナリ、○キコシメシクル聞召來給ヘルナリ、○現神云々、持統天皇ヲサシテ申給フナリ、○大和根子ハ、大和嶋根ノ御子ノ義ナリ、古事記廿一ニ、大和根子彥太邇命、御名ノ意ハ、根子ハ尊稱ナリ、景行天皇ノ御子ニモ、倭根子ノ命、タヰ人ニモ難波根子、山背根子ナトイフ名見ユ、天皇ハ大和國ヲシロシメス故、倭根子トハ由奉ルナリ、此御名ハ、是ヲ始トシテ、御代々々ノ天皇ノ御通號トナリテ、詔詞ナトニモ、倭根子天皇ト申奉ルナリト云リ、大日本

國ヲ統一シ給フヘキ御子トイフ義ナルガ故ニ、天皇ノ尊稱トハナレルナリ、コレニヨリテ、ソノ地ソノ郷ヲ領ル人ヲモ尊ミテ云事トモナレルハ、右難波根子、山背根子ノ類ナリ、因ニ云、島根トハ、大和ノ大八島國ノハテヲイフ詞ナリ、サレハ、天皇ヲ根子ト申スモ、大八島國ノハテマテモスベ給フ故ナルヘシ、右太邇命ノ御名根子ハ統治ノカタニツキテイヘル尊稱、彦ハ繼統ノカタニツキテ云ル御名ナリトシルヘシ、○ヲス國コノ國ヲヲシトオボシテ知ロシメス國ト云義ナリ、食物ヲヲシモノトイフ、今ニテモウマキ物ヲヲイシトイフハ、ヲシノ音便ナリ、國ヲヲスクニトイヒ、民ヲオホミタカラトイヒ、領ヲシロシメストイフ、是ヲコソ貴キ高キ廣キ厚キ御命トハ申スナレ、○ナモハナンノ本音ナリ、○神ナガラ天皇ハ、現神ニマシマスカラニ、現神ニテマシマスマ、ニ、何事ヲモ、オボシメシ、キコシメシ、知ロシメストナリ、天神ノ仰ノマ、ニ隨テ物シ給フヲモ、神ナガラトハイフナリ、○マケハ、詔詞解ニ罷ラセヲツマメタル言ニテ、其國々ヘマカラセ給ヨシナリ、サレハ任ヲマケトヨムハ、京外ノ官ニ限レルコナリ、京官ノ任ハ、メシ、又ヨサシナトヨムヘシト云リ、ゲニモトオモハル、○ミコトモチ御事持ナリ、天皇ノ御事ヲ受持テ行フ役人ヲイフナリ、此中ニ、守、介、椽、目ナトハミナコモレリ、

○國法クニノ、リトヨム、ノリハ告ナリ、柔カニ人ニツグルヲノルトイフ、法律ヲノリトイフモ、天皇ノカクスヘシ、カクスヘカラスト詞相カニ、告シテ、萬國ニ告給ヘル規則ナレハ、ノリトハ云ヘルナリ、是モ厚キ詞ノ一ツナリ、○イヤ原本ニ御字ヲカケルヲ、本居ヌシ改メラル、ソレニ從フ、○ハカリ是ニハ稱ノ字ヲカケルヲ、契ノ字ノ誤トセラレタレトモアタラス、稱ハハカリナリ、何事ニモハカリ考ヘテトイフニ、此字ヲ用ヒシナリ、○シマリシバルト同シ詞ナレトモ、シバルハ縛ノ字ニアタリ、シマリハ約ノ字ニアタル、務ヲユルカセニスルハ、心ニシマリノナキ故ナリ、故ツトメシマリテト云ルナリ、後世シマツテオケナトイフモ是ナリ、縮ノ字ヲモ用ヒタリ、○イソシク、イソハイサト同シク勇ミテツトムル義ナリ、○仕ヘマツラン云々、是ハ未來ニカケテイヘルナリ、仕ヘマツレランハ、仕ヘマツリアランナリ、是ハ未來ノ假定現在ナリ、ソノ職ニツキタルウヘニテイフ所ナル故、使ワケタルナリ、詞ノ精密ナル、カクノコトシ、ホメ給云々、褒美ヲアタヘ給フナリ、アゲ給フハ、官位ヲアゲ給フナリ、治メ給フハ、夫々處分シ給フナリ、コノ中ニ務ニ怠ル者ヲ黜ケ給フナドモ含マルナリ、御即位ノ詔ナレハ、恩賞ノ方ニツキテ詔給テ、罰ヲソノ中ニ含メ給ヘル、宣命ノ體ヲ得タリトイフヘシ

第一段不比等ノ忠勳ヲ叙メ給フ由ヲ叙フ

第二段永代食封ヲ賜フヘキ由ヲ叙フ

第二藤原不比等ニ食封ヲ賜フ詔

天皇ガ大詔ヲマト勅給ハク、汝藤原朝臣ノ仕マツル狀ハ、今ノミニアラズ、カケマクモ畏
キ天皇ガ御世々々仕マツリテ今モマタ朕カ卿トシテ、赤キ清キ心ヲモチテ、朕ヲ扶マツ
リ仕マツル事ノ重シキ勞ホシキヲ思ホシマス御心マスニヨリテ、タリマヒテヤ、ミ給ヘ
バ、忌ミシヌブニ似ルヲシナモ、ツネ勞ホシミイカシミ思ホシマサクト宣ル、マタ難
波ノ大宮ニ天下知ロシメシ、カケマクモ畏キ天皇命ノ汝ノ父藤原大臣ノ仕マツラヘル
狀ヲバ、武内ノ宿禰ノ命ノ仕マツラヘル事トオヤジゴゾト勅給テ、治給ヒ惠給ヘリ、是ヲ以
テ、令文ニ載セタルヲ跡トシテ、令ノマニマ、遠ク長ク今ヲ始テ、次々賜ハリユカン物ゾ
ト、食封五千戸賜ハクト勅給フ大命ヲキコシメサヘト宣ル

ミマシ、イマシト普通ナリ、イ、ミ、皆美稱ナリ、マシハ、坐ノ義ナリ、西土ノ坐下、
此方ノ俗言ソコモトニヨクアタレリ、乃ノ字ヲイマシトヨムハ、今シノ義ナリ、オモヒ
タガフベカヲス、○アツミ朝臣ノ訓ヲツメテアツミト云ルナリ、ソモノ、是ハ義ヲナサ
ヌコナリ、藤原朝臣ハ、不比等ヲサスナリ、不比等ハ文人ナリ、史ノ字ヲモフヒト、ヨ
メリ、○カケマクモカシコキ詞ニカケテ申スモ畏多シトイフ心ナリ、後世、ヤムゴトナキ

トイフモコノ意ナリ、○ミヨク、仕ヘマツル、不比等ハ天武持統文武元明ノ四朝ニ仕ヘテ、
養老四年八月年六十二ニテ薨ス、○マヘツキミ天皇ノ御前ニ侍ラヒ仕ヘマツル君トイフ
意ナリ、スヘテ長タル者ヲキミトイフ、大臣ヲマウチキミト後世イヘルハ、コノ詞ノ音
便ナリ、○イカシキ嚴ヲイカシキトヨメルト同シ、ソノ人ヲキビシク重シ給フ意ナリ、
俗ニ物ノ大ナルヲ、イカイ或ハイカメシイナトイフハ、ミナ此詞ト同意ナリ、○イトホ
シキ、人ヲイタハルナリ、今モ人ノ病氣ナトニテ苦シメルヲミテイトシイトイフ是ナリ、
コ、ニテハ、ソノ人ノツカレ苦シムニ付テイヘルニテ、俗ニ御骨折、御苦勞ナトイフガ
ゴトシ、○御心マス御心ノアルニヨリテナリ、今モアルトイフヲゴザルトイフニ同シ、
○タリマヒテ、タリハ、タルト音連、マヒノ反ミナリ、タルミテナリ、詔詞解ノ説信カ
タシ、○ヤ、ミタマヘハ、ヤ、ミハ彌止ノ義ニテ、ヨドミト語源ホ、同シ、是モ詔詞解
ノ注迂ナリ、コ、ノ意ハ不比等ノ骨折ヲ思召シナガラ、ハカク、シク賞セズシテアラハ、
何カイミキラヒテシノブ事ノアルヤウニ見エモスラント、常思召ストナリ、カクイヒオ
キテ、頓テ後段ヲ引オコセルナリ、○宣ル、コレヲ本居ヌシハ、ノリ給フトヨミヲツケラ
レタレトモ非ナリ、コ、ハ一段落ニテ、同シク宣命使ノイヘルナリ、後段ノ宣ルト、オ

ノヅカラ章法ヲナセリ、文ヲ解センニハ、文ノ結構法ヨリモミルヘキナリ、○難波云々、
 孝德天皇ナリ、○藤原大臣ハ鎌足公ナリ、不比等ハ、公ノ第二子ナリ、大臣ヲ後世オホキ
 マウチギミトヨメリ、○武内宿禰、鎌足公ヲ宿禰ニ比シタルナリ、○オヤシコト同シキ
 事ナリ、オナジヲ昔ハオヤジト云リ、○令文ノリノフミトヨメトモ、是等ハソノ頃ステ
 ニ音ニテヨメルモノト覺ユ、○アトハ例ナリ、○トホクナガク、原文ニハ長遠トカケリ、
 コレニヨリテヨムトモアシカラザレドモ、此方ノ詞ノスチニハアラズ、風雨トアリテモ、
 アメカゼトヨムゴトク、トホク長クトヨムヘキナリ、ツメテトホ長クトアルニテモ悟ル
 ベシ、ナガ遠クトハイハヌナリ、○給ハリユカン不比等ノカタニツキテ云ルナリ、○食封
 ヲヘビトトヨム、戸人ノ義ナリ、田ヲ賜ヘハ、ソノ田ヲ作ル民ヲモ賜ヒテ、ソノ民ノ作
 リシ米ヲハムニヨリテ、食封ノ文字アリ、民戸ヲ賜ハルニヨリテ、ヘビトノ詞アルナリ、
 ○五千戸モイチヘトヨメドモ、是モミナ音ニテヨメリシ者ト見ユレハ、是ノ類ハナヘテ
 訓讀スルニモ及バジトゾオモフ、

第三元明天皇御即位ノ詔

現神ト大八州國知ロシメス大和根子天皇カ詔旨ヲマト勅給フ大命ヲ、親王ダチ諸王ダチ臣

第二段持統天皇御位ヲ新法ヲ奉行セル由テ新法奉行ハ新法奉行ハ新法奉行ハ

第三段文武天皇ノ元明天皇ニ御位ヲ讓給フテ御位ヲ讓給フテ御位ヲ讓給フテ御位ヲ讓給フテ

第四段ハ群臣ノ忠勤ヲ實テ且新法ヲ抽テ且新法ヲ抽テ且新法ヲ抽テ且新法ヲ抽テ

ダチ百官人ダチ天下ノ公民諸キコシメサヘト宣ルカケマクモ畏キ藤原ノ宮ニ天下シロシ
 メシ、大和根子天皇命丁酉ノ八月ニ、コノ食國天下ノ業ヲ日並知皇太子ノ嫡子今天下知
 シメシツル天皇ニ授給テ並居マシテコノ天下ヲ治給ヒ調給ヒキ一是ハ掛卷モカシコキ近江
 ノ大津ノ宮ニ天下シロシメシ、大倭根子天皇ノ天地ト共ニ長ク月日ト共ニ遠ク變ルマジキ
 常典ト立給ヒ敷給ヘル法ヲ承リマシテ行給フコト、諸承ハリテカシコミ仕マツリツラクト
 詔給フ大命ヲ諸キコシメサヘト宣ルカク仕マツリ侍ルニ、去年ノ十一月ニカシコキカモ、
 我大君朕子天皇ノ詔給ヒツラク、朕御身疲ラシクマサガ故ニ、暇エテ御病治給ハントス、
 此天日嗣ノ位ハ、大命ニマセ大マシクテ治給フヘシト讓給フ大命ヲ承リマシテ、答申ツ
 ラク、朕ハ堪ヘジト辞ビ申テ受マサズ、アル間ニ、度マネク日重ネテ、ユヅリ給ヘハ、勞
 ホシミカシコミ、今年ノ六月十五日、大命ハ受給フト申ナガラ、此イカシキ位ニツギマス
 一ヲナモ、天地ノ心トイトホシミ、イカシミ、カシコミマサクト詔給フ大命ヲ諸キコシメ
 サヘト宣ルカレコ、ヲモテ親王ダチヲ始テ諸王ダチ臣ダチ百官人ダチノ淨キ明カキ心ヲ
 以チテイヤ務メニイヤ結リニアナヒマツリ輔ケマツラシ事ニヨリテシ、此食國天下ノ政
 事ハ平ケク長クアラントナモ思ホシマス、又天地ノムタ長ク遠クカハルマジキ常典ト立給

第五段仁政ヲ行給フ由ヲ叙フ、又二節ニ分叙ス
第一節ハ仁政ハ今ニ始マラヌ由
第二節ハ大赦恩恤

ヘル食國ノ法モ傾ク、トナク、動ク、トナク、ユカントナモ思ホシメサクトノリ給フ大命ヲ諸キコシメサヘト宣ル、遠皇祖ノ御世ヲ始テ、天皇ガ御世ノ天日嗣ト高御座ニマシテ此食國天ノ下ヲナデ給ヒメグミ給フ、トハ、事ダツニ非ス、人ノ祖ノオノガ若子ヲ養ヒヒタス事ノゴトク、治給ヒ惠ミ給ヒクル業トナモ、神ナガラ思ホシメス、是ヲ以テマツ、天ノ下ノ公民ノ上ヲメグミ給ハク、天ノ下ニ大赦シ、慶雲四年七月十七日、味爽ヨリ前ツカタノ大辟罪以下ハ、罪ノ輕重トナク、已發覺未發覺、悉ク赦ス、其八虐ノ内、己ニ殺シツル、又ハ強盜竊盜ノ常赦ニ免サル者ハ並ニ赦例ニ在ラス、前後諸人ノ反逆ノ緣坐、又ハ郷ヲ移スヘキニアラヌ者ハ、並ニ放還スベシ、山澤ニ亡命シ、軍器ヲ挾藏シ、百日間首實セザルハ、罪ニ復ヘス、初ノ如クナルヘシ、侍ヲ給フヘキ高齡、百歳以上ハ、糶ヲ二斛賜ヒ、九十以上ハ、一斛五斗、八十以上ハ、一斛、八位以上ハ、級ゴトニ布一端加フ、五位以上ハ、此例ニ在ラス、僧尼ハ、八位以上ニ准シテ、各糶布ヲ給シテ賑恤ス、鰥寡孤獨自存スルコト能ハサル者ニハ、人ゴトニ糶ヲ一斛賜フヘシ、京師畿内、又ハ太宰所部ノ諸國ハ、今年ノ調、天ノ下ノ諸國ハ、今年ノ田租ヲ復シ給ハク、ト詔給フ天皇ガ大命ヲ諸キコシメサヘト宣ル

藤原宮、持統天皇ナリ、○口並知、皇太子、天武帝ノ御子、草壁皇子ノ諡ナリ、御母ハ持統天皇ナリ、天武紀ニ、十年二月、草壁皇子ノ尊ヲタテ、皇太子トストミユ、○嫡子ムカヒメバラノミコト本居氏ハ訓マレタレトモ此頃ヨリ音讀シタルモノトゾ覺ユル、文武天皇ハ、草壁皇太子ノ第二子ナリ、○並居マシテ云々、草壁皇子ハ、持統天皇ノ三年四月ニ薨去ニナリ、ソノ後、高市皇子ヲ皇太子ニ立給ヒシカド、ソレモ十年七月ニ薨給ヒ、文武天皇ニ御位ヲユヅリ給ヒシ後モ、尙天皇ヲ扶テ政ヲ見給ヒシナリ、○近江、大津宮、天智天皇ナリ、コノ天皇、藤原鎌子ト謀リ、漢ノ制度ヲ取テ、我國古來ノ風俗ヲ改メラレタレドモ、ソノ頃ハ風氣イマタ開ケス、何事モ實際ニ行ハレザルヨリ、ウクハ即位ノ初ニ詔給ヘルナリ、漢ノ制度ヲ摸シ給ヒシハ、孝德天皇ノ御世ヨリノ事ナレドモ、ソレヲ天智天皇ニカケシハ國憲制定ノ發議ハ、此天皇ニアル故ナリ、ソノ事ハ本居氏委シク論ゼラレタレハ、コ、ニハクタクシクハイハス、詔詞解ニ就テ見ルヘシ、○我大君イタク親ミ尊ミテ申給フナリ、朕子ハ文武天皇ハ、元明天皇ノ御子ナレハ、カク宣給フナリ、○御身ツカラシク、御惱ミヲイフナリ、後世病氣ヲ所勞トイフハ、是ヨリ出タルナリ、○大命ニマセ、大命ノマ、ニノ意ナリト、本居氏イヘリ、マセノ下ニバモジヲ省キ

シ古言ノ一格ナリ、○度マネク、度々ノ意ナリ、マネクハ、間ナクナリ、普通ナリ、アマネクハ、合間ナクノ略ナリ、○大命ハ受給フ、大命ヲバ受マスノ意ナリ、ヲハノヲヲ省クハ、古言ノ例ナリ、給フハ、ミツカラノニツケタル敬語ニテ、受申マストイフニ同シ、○位ニツギ位ニツキテ皇統ヲ繼ギ給フ意ナリ、○天地ノ心ト、コノト文字ヲ、ヲト原文ニハアレトモ、カクテハ上文ノ繼ギマスヲノヲモジト重リテ、文理ニアハヌナリ、是ハ止ヲ乎ニアヤマリテカケルナルベシ、サテ皇統ヲ繼ギ給フ事ヲ、天地ノ心ト畏ミ給フハ、我國ニナキ事ナリ、是ハ全ク漢意ナリ、本居氏ハ、我國ニ漢意ノ入リシハ、天智天皇ヨリコノカタナリト云リ、○アナ、ヒ、足ナヒノ轉音ナリ、ナヒハスヘテ物ヲ合スル心ノ詞ニテ、名詞ヲ活カスニコノ詞ヲ用フルナリ、天皇ノ手足トナリテノ意ナリ、○ヨリテシ、シモジハ助詞ナリ、○ワタリユカン、月日ヲワタルナリ、○コトダツ、事メツラシキコトニハアラストナリ、○人ノ祖、父母ヲイフナリ、父母ニモ祖ノ字ヲ用フルコト、古文ノ常ナリ、○ワクゴ、ワカキ子ノ義ナリ、ソノモトハ、ワキ子ナリ、古語拾遺ニ見ユ、○ヒタス、育ツル事ナリ、後世ハヒダツト云リ、日立ヨシナト云フソレナリ、

第四元明天皇和銅改元ノ詔

第一段發端

第二段、先ツ天日嗣ヲ叙フ

第三段、當今ニ至テ、和銅ノ出タル由ヲ叙フ、二節

第一節和銅出

第二節和銅ノ出タル所以

御世名云々、下文ヲ引ク

第四段改元恩賞ヲ叙フ二節

第一節改元

第二節恩賞

續紀宣命評釋

現神ト天下シロシメス倭根子天皇が大命ヲ親王タチ諸王タチ諸王タチ百官人タチ、天下ノ公民諸聞シメサヘト宣ル「高天原ヨリアモリマシ、天皇ガ御世ヲ始テ、中今ニイタルマテニ、天皇ガ御世ノ天日嗣ト高御座ニマシテ治給ヒ惠ミ給ヒタル食國天下ノ業トナモ神ナガラ思ホシメサクト詔給大命ヲ諸キコシメサヘト宣ル」カク治給ヒ、惠給ヒタル天日嗣ノ業ト、今皇朕カ御世ニアタリテマセハ、天地ノ心ヲ勞ホシミ、イカシミ、辱ナミ、カシコミイマスニ、聞シメス食國ノ中ノ東ノ方武藏國ニオノヅカラニ成レル和銅出タリト奏シテ献ツレリ、此物ハ天ニマス神、國ニ座ス神ノ相ウヅナヒマツリ、サキハヘマツルコトヨリテ現シク出タル寶ニアラシトナモ神ナガラ思ホシメス、是ヲ以テ天地ノ神ノアラハシマツレル瑞寶ニヨリテ御世ノ名ヲ改給ヒ換ヘ給ハクト詔給フ大命ヲ諸キコシメサヘト宣ル」カレ慶雲五年ヲ改テ和銅元年トシテ御世ノ名ト定メ給フ、是ヲ以テ天下ニ慶ノ大命詔給ハク、冠位ヲ給フヘキ人々治給ヒ、天下ニ大赦シ、和銅元年正月十一日昧爽ヨリ前ツ方ノ大辟罪己下、罪ハ輕重トナク、已發覺未發覺、繫囚見徒悉ク赦シ除ク、其八虐ヲ犯セル、人ヲ故殺セル、人ヲ謀殺シテ己ニ殺シツル、賊盜ノ常赦ニ免サマル者ハ、赦限ニアラス、山澤ニ亡命シ、兵器ヲ夾藏シ、百日間首實セザルモノハ罪ニ復ヘ

ス初ノ如クナルハシ、高齡ノ百姓百歳以上ニハ、一斛三斛賜ヒ、九十以上ニハ、二斛、八十以上ニハ、一斛、孝子順孫義夫節婦ハ、其門ニ表シ、優復三年、鰥寡孤獨自存スルコト能ハサル者ニハ、一斛賜フ、百官人等ニハ、祿ヲ賜フ各差アリ、諸國ノ郡司ニハ、位一階加フ、其正六位上以上ハ、進ムル限ニアラス、武藏國ノ今年ノ庸^{チカラシロ}、ソノ郡ノ調ハ免シ給フト詔フ天皇が大命ヲ諸國コシメサヘト宣ル、

アモリマシ、天皇、ニ、ギ命ヲ申スナリ、○スメラ朕天皇ノミツカラ宣フ詞ナリ、憲法發布ノ詔ニモ、コノ詞ヲ用給キ、○和銅、ニギ銅トヨム、熟ノ字ヲモ用テニギトヨメリ、熟銅ハ銅ノヨキヲホメタル詞ナリ、○ウツナヒハミヅ、メヅナト、通シテ、ソノ物ヲ愛ヅルナリ、心ニメヅルヨリ、ソノ人ノイフコトヲモキク故、神ノ納受シ給フコトヲウツナフトモイフナリ、納受スル時ハ、ソノ人ノ首オノツカラ垂ル故ニ、領背ヲウナヅクトイフ、項ヲウナトイフモ、コレヨリ出タルナリ、スヘテウベナフ、ウヅナフ、ウナヅク、ミナ同シ詞ナリ、○サキハへ、幸ハ、セノ約ナリ、○瑞寶、瑞ハ祥瑞ナリ、故ニシルシトヨムナリ、ミヅノ御殿^{ミヅノ}ナトイフハ、美稱ナリ、故ニミヅトヨム、○和銅、年號ハ、皆音讀ナリ、○冠位、冠ニテ位ノ尊卑ヲ分チ給フナリ、文武天皇ノ御世ヨリ、位記ニカヘ

ラレタレドモ、猶宣命ナトニハ、舊名ヲ用ヒ給ヒシナリ、今日ノ官位モ、ステニソノ實ヲ失ヒツレトモ、尚昔ノ名ヲ襲用セルガゴトシ、○庸、チカラシロトヨム、賦役令ニ、正丁ハ歳コトニ十日、モシ役ニ出ザル時ハ、布二丈六尺出タス、一日ニ二尺六寸トアリ、人夫ニイヅルカハリニ布ヲ出タス故ニ、チカラシロトイフナリ、今モ代物ヲシロモノトイフ是ナリ、足ノ代ニスルヲアシシロトイフ、○ソノ郡、和銅ハ秩父郡ヨリ出タル故、ソノ郡ノ御調ヲユルサル、ナリ、調ヲツギトイフ、尊ミテミツギトイフ、調貢ハ皆百姓ヨリノ御用費ヲ給グ、故ニミツギトイフナリ、昔ハ天皇ノ御用度ニ制限ナシ、御用度餘アレハ献ラシメ給ハス、不足スレハ献ラシメラル、下ノ者モソノ命ニ隨テ献ツル、命ナクトモ珍ラシキ物トアレバ、献ツル、是ニテ人ゴトニ足リ、家ゴトニ給グトハ云ヘルナリ、後世ノゴトキ、上ハアクマテモソノ財源ヲアナグリ、下ハトヤカクシテ租稅ヲ出サジトスルトハ、マタ同日ノ論ニアラス、マタ後世生活ヲロスギ、身スギナトイフモ、ミツギノ轉音ニテハナシヤ、

第五聖武天皇御即位詔

現神ト大八州國知ロシメス倭根子天皇が大命ヲマト勅給フ大命ヲ、諸王タチ、百官人タチ

第二段傳統ヲ叙フ

聖武天皇ニ歸シテ一頓

第三段、元正天皇ノ聖武天皇ニ詔給ヘルヲ叙フ分テ四節トス

第一節上文ノ大命ニマセ云々ヲ承シテ先元明帝ニ讓給シテ元明ヨリ元正ニ讓給シテ叙フ

第三節元正ヨリ聖武ニ讓給フ由ヲ叙フ

天下ノ公民、諸キコシメサヘト宣ル、高天原ニ神ヅマリマス皇ガ親カミロギ神ロミノ命ノ、吾カ孫ノ知ラサン食國天下ト依サシマツリシマニ、高天原ニ事初テ、四方ノ食國天下ノ政ヲ、イヤ高ニイヤ廣ニ、天日嗣ト高御座ニマシテ、大八島國知ロシメス倭根子天皇ノ大命ニマセ詔給ハク、此食國天下ハ、掛マクモ畏キ藤原ノ宮ニ天下知ロシメシ、汝ノ父トマス天皇ノ、汝ニ賜ヒシ天下ノ業ト詔給フ大命ヲ聞、コシメシ恐コミ受給リ、オツリマス事ヲ、諸キコシメサヘト宣ル、カク賜ヘル時ニ、汝親王ノ齡ノ若キニ、荷ノ重キハ堪ヘジカト思ホシマシテ、大御祖トマシ、掛マクモ畏キ我大君天皇ニ授マツリキ、是ニヨリテ、コノ平城ノ大宮ニ現神トマシテ、大八州國知ロシメシテ、靈龜元年ニ此天日嗣高御座ノ業、食國天下ノ政ヲ朕ニ授給ヒ讓給ヒテ教給ヒ詔給ヒツラク、カケマクモ畏キ淡海ノ大津ノ宮ニ天下知ロシメシ、倭根子天皇ノ萬世ニ變ルマジキ常典ト立給ヒ教給ヘル法ノマニ、今ニ後終ニハ我御子ニ定カニムクサカニ、過ツコナク授給ヘト負給ヒ詔給ヒシニヨリテ、今ニ授給ハントオモホシマス間ニ、去年九月、天地ノ給ヘル大瑞物アラハレタリ、マタ四方ノ食國ノ年豊カニムクサカニ稷タリト見給ヒテ、神ナガラモ思ホシメスニ、現シクモ皇朕カ御代ニ當リテ現ハル、物ニハアラジ、今繼マサン御世ノ名ヲ記シテコタヘ來タリ現ハレ來

第四節聖武ノ受給テ輔佐ヲ求メ給フ由ヲ叙フ
 此段酒々千里終ニ聖武ニ歸シテ收束ス、波瀾アリ曲折アリ、イナダキ承リノ句、倒御ヲ回スノ力アリ
 第四段恩典ヲ行給フヲ叙フ
 第一節恩典ノ由

第二節恩典

タル物ニアラシト思ホシマシテ、今神龜ノ二字ヲ御世ノ名ト定メテ、養老八年ヲ改テ神龜元年トシテ、天日嗣御座食國天下ノ業ヲ吾子美麻斯王ニ授給ヒ讓給フト詔給フ、天皇ガ大命ヲイナダキ承リ、恐ミモチテ辞ビ申サハ、天皇ガ大命カシコミ、承リ仕マツラハ、拙ナクヲチナク知レルコナシ、進ムモ知ラニ、退クモシラニ、天地ノ心モ勞ホシク重シク、百官ノ心モ辱ケナミ愧ミナモ、神ナガラ念ホシマス、故親王ダチヲ始テ、諸王臣ノ汝等清キ明キ正シキ直キ心ヲ以テ、皇朝ヲアナ、ヒ輔ケマツリテ、天下ノ公民ヲ奏シ給ヘト詔給フ大命ヲ、諸キコシメサヘト宣ル、言別ケテ詔給ハク遠ッ皇祖ノ御世ヲ始テ、中今ニ至ルマテ天日嗣ト高御座ニマシテ、此食國天下ヲ撫給ヒ惠ミ給ハクハ、時々狀々ニ從テ、治給ヒクル業ト、神ナガラ念ホシメス、是ヲ以テ、先ツ天下ニ大赦シ、内外職事及五位以上父ノ後タルモノニハ、勳一級授ケ、高年百歳己上ニハ、穀一石五斗、九十以上ニハ一石、八十以上並ニ孤獨ノ自存スルコト能ハヌ者ニハ五斗、孝子順孫義夫節婦ハ、皆ソノ門ニ表シ、終身使フコナカレ、天下ノ兵士ハ今年ノ調ヲ半減シ、京畿ハ悉ク免ズ、又官々ニ仕ヘマツル韓人ドモ一二人ニ、ソノ負テ仕ヘマツルヘキ姓ヲ給ヒ、又百官ノ官人、及京下ノ僧尼ニ大御手物取ラセ給ヒ治給ハクト詔給フ天皇ガ大命ヲ、諸キコシメサヘト宣ル、

諸王^{ダチ}、此詔ニハ親王ヲ此諸王ノウチニ含メタリ、○皇ガムツ云々、ムツハ、親ミ尊メルナリ、カミロギ、カミロミノロ、スメラギノラ、ミナ助詞ナルコト、度々上ニ言ヘルカ如シ、キハ第一、ミハ第二ヲ稱スル詞ナリ、夫婦兄弟ミナ此詞ヲ以テ分ケタルハ、古言ノ例ナリ、コノキミヲ合セテ君王ノ詞トハシタル、ソノ語源ハ諸冊ニ尊ニ發セシナリ、後世ニテイハ、天皇ハキナリ皇后ハミナリ、故ニキミト申セハ兩陛下ソノ中ニマシマスナリ、○ツガミマ、ミハ美稱、マハウマノ省カレタルニテ、オノガ子ヲメテタル詞ナリ、ウマキ子ノ意ナリ、後世孫ヲマゴトイヘルニヨリテ、スメリマトイフニ、孫ノ字ヲアテタレドモ、孫ノ義ニハアラス、ソノ義ノ狭キ時ハ愛子ニシテ廣キ時ハ子孫ナリ、サテマゴトイフヘキハ昔ハミナヒコトイヘリシナリ、○倭根子天皇、此天皇ハ元正天皇ナリ、○汝ノ父トマス天皇、文武天皇ナリ、聖武ハ文武ノ御子ナリ、○汝ニ給ヒシ天下ノ業云々、御世ハ、元明元正トツマキテ、サテ後聖武ニ及ベトモ、此天位ハ、早ク汝カ父命ノ汝ニ給ヒシナレバ、今讓リ申ストノ御意ナリ、後段ハソノ天下ヲ早クユヅルヘキニ、二世ヲヘタル其由ヲ叙ヘ給ヘルナリ、○荷ノ重キ云々、天下ハ重任ナリ、負荷ニ堪ヘジトオモヒマシテトナリ、是ハ此方ノ詞ニテカキツレトモ、意ハ漢文ヨリ來レルナリ、○

大御祖、元明天皇ヲサシ申スナリ、元明ハ文武ノ御母ナリ、古ヘハスヘテ母ヲオヤト稱セリ、○我御子、聖武ハ元明ノ御孫ナレトモ、皇太子ナレバ、カク云ルナルヘシ、○ムクサカ、ムクハ形容ノ詞ニテ、今モ土中ヨリ草ノ萌出ツル、或ハ水ノ地中ヨリ出ツルナトヲミテ、ムクノ、或ハムツクリナド云是ナリ、サカハ榮ユルナリ、末賑ヤカニトイフ意ナリ、○過ツコナク、首尾ヨクノ意ナリ、○今ニ追付ノ意ナリ、今ノ俗モコレニ同シ、○天地ノ賜ヘル、漢意ナリ、削ルヘシ、○大瑞物、養老七年九月ニ、左京人、白亀ヲエタリトイフ、ソレニヨリテ年號ヲモ神龜ト改メラル、コレヲサスナリ、○顯レケリ、コノケリハ、後世ノ用サマヨリハ重ク、來タリノ意ナリ、來タリヲ、昔ハタマケリト云リ、○エタリハ上ノ年ニカケテ心ウヘシ、豐年ヲ年得トイヒ、凶年ヲトシエズトヨメリ、豐年ヲタマトシトイフハ漢意ヨリ出タル詞ナリ、漢文ニ豐年ヲ有年トカケリ、○御世ノ名ヲ記シ云々、御世ノ名トスヘキ徵トナリテアラハレタルナリトノ意ナリ、コタヘハ、ソノ御世ニ應ジテナリ、ヨブ聲ノヒマキヲコタフトイフ、ソノ意ナリ、○美麻斯王、コノミマシハ、聖武天皇ノ御名ナリ、先ノミマシト思マガフヘカラス、○イナダキ、イナハ、ウナト普通、タキハタカキノ略ナリ、項高ノ義ニシテ、項ノ高キ所、即イナタキナ

リ、後世ハイタ、キトイフ、音ノ轉ナリ、○ヲチナシ、幼ナシ怯ナシノ類ニテ、ナシハ
 助語ナリ、微弱ナルヲイフナリ、○シラニ、古言ニハ、シラズヲシラニトイフ、○公民ヲ
 奏シ、公民ノ事ヲ行ヒ奏シノ意ナリ、○負テ仕マツルヘキ姓、ソノ家々ノ業ニ從テ、ソ
 ノ姓ヲ賜フナリ、○百官ノ官人屬吏ヲイフナリ、○大手物、御手ツカラ下シ賜フ物ナリ、
 ○トラセ、原文ニハセモジナケレドモ、コ、ハ虚ナク脱タルナルヘケレハ、加ヘテオケ
 リ、

第六聖武天皇天平改元詔

現神ト天下知ロシメス倭根子天皇ガ詔旨ヲマト勅給フ大命ヲ、親王タチ、諸王タチ、諸臣
 タチ、百官人タチ、天下ノ公民、諸聞コシメサヘト宣ル、高天原ユアモリマシシ天皇
 ガ御世ヲ始テ、此高御座ニマシマシテ、天地八方ヲ調ヘ給フコトハ、聖君トマシテ賢臣
 仕マツリ、天下平ケク百官安クシテシ、天地ノ大瑞ハ顯來トナモ、神ナガラ思ホシメサ
 クト詔給フ大命ヲ、諸聞召ヘト宣ル、カク詔給フハ、大命ニマセ、皇朕カ御世ニアタリテ
 ハ、皇トマス朕モ聞キタモテルコト乏ク、見タモテル行少ミ、朕カ臣トシテ仕マツル人ド
 モ、一二ヲ漏ラシ落スコトモアラムカト辱ナミ愧ミ思ホシマシテ、我大君、太上天皇ハ大

第一段發端

第二段大瑞ハ
聖賢ノ世ニ出
ツル表シナル
ヲ叙ス

第三段太上天
皇ノ德ニ應シ
テ文範ノ出ツ
ルヲ叙シ第二
段ノ聖君大瑞
ニ應ス

敢テ聖君ニ當
ラス

敢テ賢臣ニ當
テス太上天皇
ヲ出ス

暗ニ上文ノ賢
臣ニ應ス
貢文ノ龜出ツ
上文ノ時ナミ
愧ミニ應ス

前ニ畏コジモノシラマヒ、ハテバヒモトホリ申給ヒ受給ラクハ、郷等ノ間ラン政ヲバ、カ
 クヤ答給ハン、カクヤ答給ハント申給ヒ、申給フ官ニヤ給ハント申給ヘバ、赦給ヒ趣ケ給
 ヒ答給ヒ宣給フマニ、此食國天下ノ政ヲ行給ヒ救給ヒツ、仕マツリ給フ間ニ、京職大
 夫從三位藤原朝臣麻呂等ハ、文字オヘル亀一頭献ラクト奏給フト聞召シ、驚給ヒ怪給ヒ、
 見ツナハシテ喜給ヒ愛給ヒ思ホシメサクハ、現シクモ皇朕カ政ノ致セル物ニアラメヤ、是
 ハ太上天皇ノ厚キ廣キ惠ミヲ蒙リテ、高キ貴キ行ニヨリテ顯ケル大瑞ノ物ゾト詔給フ大命
 ヲ、諸聞召ヘト宣ル、言別ケテ詔給ハク、此大瑞ノ物ハ、天ニ坐ス神地ニ坐ス神ノ相ウ
 ツナヒマツリ幸ハヘマツルコニヨリテ、顯來ル貴瑞ナルニヨリテ、御世ノ名ヲ改給ヒカヘ
 給フ、是ヲ以テ神龜六年ヲ天平元年トシテ、天下ニ大赦シ、百官ノ主典己上ノ人等、冠位
 一階アゲ給フコト初メ、一二ノ慶命ヲ詔給ヒ惠給ヒ行給フト詔給フ天皇カ大命ヲ、諸聞召
 ヘト宣ル、

ニ、昔ハヨリトイフヲ、タ、ユトバカリモ云リ、○天地八方云々、漢意ナリ、漢文ノ陰
 陽ヲ變理スナトイフヨリ脱化シ來レルナリ、○聖君、ヒシリトイフハ、王仁等ノ創メ
 タル訓ナルヘシ、○シテシ、下ノシハ助字ナリ、今ノ詞ノサトイフ處ニ、コノ詞ヲ使ヒ

シ者ナリ、今モ所ニヨリテハ此詞殘レリ、○太上天皇、元正天皇ナリ、太上天皇ハ、持統天皇ヨリ、始マリテ、コレニハ訓ナシ、音ニテヨメルナルヘシ、○大前、天皇ノ御前ヲイフナリ、神ノ御前ヲモ云リ、後世ハ廣前ト云リ、○カシコジモノ、カシコサマノ轉ナリト、稻掛太平カ説ニ從テ説クヘシ、カシコマリタル狀ニテノ意ナリ、○シ、マヒ、シ、ハ縮ナリ、マヒハ、ミノ延ナリ、即シ、ミナリ、後世ハチバミト云リ、身ヲチバムルナリ、○モトホリ、今ハモドリトイヘリ、タチモドルナリ、律徊ヲヨメリ、○カクヤ云々、詞ヲ重ネ給ヒシハ、イロノニ宣給ヒシナリ、○申給フ官ニヤ云々、任官ナドノ事ヲ伺給フナリ、○京職太夫云々、官位ハミナ音讀スヘシ、訓讀シタルニハアラス、京職ニ左京右京アリ、職ニ太夫ト云リ、○藤原麻呂イ、此人ハ不比等ノ四男ナリ、左京職ヲ長ク兼務テ功勞アリシ故、ソノ家ノ末ヲ京家ト云リ、イハ、今ノヨナリ、人名ノ下ニ多ク用フル所ナリ、ヤ、イ、ヨノ三ハ、互ニ用フルナリ、○フミオヘル龜、此年六月左京職龜ヲ献ル、長五寸三分、廣四寸五分、ソノ背ニ天王貴知平百年トイフ文字アリシトナリ、○顯來ル、原文ニハ來ノ字ヲ奉トカケリ、字ノ似タルニヨリテ誤レルナリ、此文字ノ上ニ、本居氏ハ第四詔ニヨリテ字句ヲ多ク加ヘラレタレトモ、右奉ヲ來ニカハテ、文

意ハヨクキコエタリ、○天平ハ、天王貴平ノ天平ヲトリシナリ、○大赦、此ヤウノ法律語ハ、ミナ音讀シタルナリ、主典官ニ四等アリ、長官、次官、判官、主典是ナリ、主典ハ第四等ナリ、コノ四等官ヲ、俗ニカミ、スケ、ジャウ、サクソン、トイフ、是ニ就テオカシキ説アリ、曰ク、是ハ家ヲ疊建具ニタトヘテ云ルナリ、長官ハ上官ナル故ニ、襖障子ニタトヘタリ、昔ハ障子アリテ襖ナカリシヲ、後、障子ニ韓紙ヲハリシヨリ、俗ニカラカミトモ、フスマトモ云ルナリ、フスマハ臥間ニ用フル故ナリ、襖ト俗ニカクハ借字ナリ、次官ハ、長官ノ助ヲスル者ナルガ故ニ障子ヲ助クルカラ紙ニタトヘタリ、今ノ障子ハ、アカリ障子ト昔ハ云リ、光ノスキ通ル物ナレハ、次ノ官ニアタルナリ、ジャウハ疊ノ音ヲ用タル者ニシテ、疊ヲ一疊ニ疊トイフ、即唐紙障子ニ次ク物ヲ疊トス、タ、ミト云テハ、アマリアカラサマニテ、官ニタトフヘクモオモハレネハ、音ヲ用タルナリ、殊ニ八省ノ判官ニ亟トイフ名モアレハ、カタノヨロシキナリ、サクソンハ、カベヤナリ、モトハシヤカンナリ、シヤハ、沙ノ音、沙ヲサト此方ニツメテイフナリ、カンハ工ノ華音ナリ、コレニ左官ノ二字ヲアテタルナリ、官名ニアツルナレハ、文字ニモ官ノ字ヲアツルガヨキナリ、左モ佐ト通シテ、タスクル意モアレハ、是モカタノヨロシカラ

ン、大坂アタリニテモ、サクワントイハス、シヤカントイヘルハ、古音ヲ失ハサルヘシ、トニカク、シヤカンハ沙工ナリ、沙泥ヲ塗ル工匠トノ意ナリ、壁塗ハ、疊師ヨリソノ業穢キ物故ニ、主典ノイヤシクシテ、事務ノ煩ハシキニタトヘシナリ、カベヤハ、番匠ト同シク受領シタルニヨリテ、左官ト云ルナリ云々、コノ説、解ヲエズシテ、シヒテ説ヲナセルナルヘシ、サレモ、家ノウチノ組織ヲ以テ、官ノ組織ニタトヘタル、イト面白シ、後世ニ至テモ家ヲアグルニ疊建具ニ壁トイヘルモ由ナキニアラス、此俗稱ハ和名抄ノ出シ頃ヨリ始リシニヤト覺ユ、

第七聖武天皇立后詔

天皇カ大命ヲマト親王等マタ汝王タチ、臣タチニ語ラヒ玉ヘト勅給ハク、皇朕高御座ニイマシソメシユリ、コトシニイタル迄六年ニナリヌ、此間ニ天ツ位ニ嗣マスヘキ次手トシテ、皇太子侍リツ、コレニヨリテソノ母トイマス藤原夫人ヲ皇太后ト定メ給フ、カク定メ給フハ、皇朕御身モ年月ツモリス、天ノ下ノ君トマシテ、年ノヲ長ク、皇后イマサルコモ、一ハヨカラヌ業ニアリ、マタ天ノ下ノ政ニ於テ、獨知ルヘキ物ナラス、必モ後ノ政アルヘシ、是ハ事立ツニアラス、天ニ日月アルゴト、地ニ山川アルゴト並マシテアルヘシトイ

第一段藤原夫人ヲ皇后ニ立給フ由ヲ叙ス分テ三節トス第一節大綱双提

其由二

其由三

第三節第二綱ヲ承テ久シク立テサレ由ヲ叙ス德音姫々、耳提命ノ如ク拜讀涙落ツカア結東極テ力アリ第二段ハ立后ハ先帝ノ詔旨ニ出ツルヲ叙ス分テ二節トス第一節此夫人ヲ立サル理由ヲサレ由ハ、女トイハ、徐々觀來テ忽然六年立后ノ二綱ノ上ニ歸シ、繼結洩サス、何等ノ敏筆第二節前例ナ引ク、是臣下ノ女ヲ皇后トスニ例アルト人ナシテハ此一時ニシテハ此ラ節欠クヘカ

フ、ハ、汝等王臣タチノ明ケク見知レルコニアリ、然ルニ此位ヲ遅ク定ツラクハ、トヒトマニモ、オノガアゲ授クル人ヲバ、一日二日ト擇ビ、十日二十日ト試ミ定ムトシイハバ、コキダシキ大キ天下ノ事ヲヤ、タヤスヤ行ハン、ト思ホシマシテ、此六年ノ間ト擇給ヒ試給ヒテ、今日イママノアタリ衆ヲ召給テ細シキ事ノ狀ヲ語ラヒ給フト勅給フ、カク詔給フハ、カケマクモ畏クモ此宮ニマシテ、現神ト大八州國知ロシメシ、倭根子天皇、我大君御祖ノ天皇ノ、始メ、コノ皇后ヲ朕ニ賜ヘル日ニ、勅給ヒツラク、女トイハ、等ミヤ、我ガカクイフカノ父ト侍ル大臣ノ皇カ朝ヲアナヒ輔ケマツリテ、イナダキカシコミ仕奉リツ、夜中曉トキト休マフコナク、淨キ明キ心ヲ持テハ、トヒ仕奉ルヲ見シ給ヘハ、カノ人ノウムカシキ事、イソシキ事ヲ、ツヒニエ忘レジ、我兒、我大君、過ナク罪ナクアラバ、捨テマスナ、忘レマスナト負セ給ヒ、宣給ヒシ大命ニヨリテ、カニカク二年ノ六年ヲ試給ヒ使給ヒテ、此皇后ノ位ヲ授賜フ、然ルモ朕時ノミニハアラス、難波高津ノ宮ニ天下知ロシメシ、大サバキ天皇葛城ノ豊津彦ノ女伊波ノ姫ノ命ノ皇后ト御逢アヒマシテ、食國天下ノ政治メ給ヒ行給ヒケリ、今珍ラカニ新キ政ニハアラス、本ヨリ行コシ迹事ゾト詔給フ大命キコシメサヘト宣ル、

イマシ王タチ、此詔ニ、王タチノ上ニ、イマシトアルハ、右天平ト改元アリシ神龜六年八月戊辰ノ日ニ詔アリテ、正三位藤原夫人ヲ皇后ニ立テ給ヒ、壬午ノ日ニ、五位及諸司ノ長官ヲ内裏ニ召入レテ、知太政官事一品舍人ノ親王、ソノ勅ヲ宣給フコトアレハナリ、親王ヨリ諸王諸臣ニ宣フ故ニ、イマシトサシテ宣給フナリ、オモフニ、此文ハ諸詔ノウチニスグレテメデタキハ、舍人親王ノ筆ニナレルナルヘシ、日本書記ヲ撰給ヘル筆ヲ以テ、此宣命ヲカキ給ヘル、ソノスグレタル、ウヘナリケリ、○カタラヒ給フ、舍人親王ヨリ諸王、群臣ニ告ケサセニル、故ニカタラヒ給フトハイヘルナリ、ユリコ、ニユリトアリ、則チユリヨリト詞移レルナリ、○天位、漢文ノ天位ヲヨメルナリ、天位ヲ、書紀ニタカミクラトヨメルゾ皇國ノ詞ナリケル、○侍リツ、天皇ニ對シテ申ス故、ハベリト云ルナリ、サナクハ、マシシトイフヘキナリ、○夫人、キサキトヨム、皇后ハオホキサキトヨム、後世皇太后ヲオホキサキトヨムト異ナリト、本居氏云リ、皇太后ナトハ、音讀スヘキナリ、コレヲオホキサキトヨムユエニ、古ノト混スルナリ、○年ノヲ、只年數ヲイフナリ、緒ハ長キ物故ニ、年ノ長キニタトヘテイフナリ、○ニアリ、後世ノナリナリ、ナリハ、ニアリヲツメテイフナリ、○シリヘノ政、是モ皇國ノ詞ニハアルベカラス、

漢文ニ後宮、壺職ナトイフニヨリテ、後方政ト云ナガシタルナリ、○トヒトマニモ、カリソメニモノ古語ト見エタリ、又原文ニ、刀比止麻トカケルハ、カクシ段染ノ二字ノ誤テ四字ニナレルニモアラサルカ、假ノ字ヲツクリ斗用テカク、古文ニ例ナキニアラス、トニカクカリソメトミテ意味ヨク通セリ、○アケ授クル、位ヲアゲ授クルナリ、○一日二日ト、一日二日トフル間ニ擇ヒテナリ、○コキダシキ、俗ニイフイカ斗ノ意ナリ、コキダク、ソコダク、ソコバク、ミナ同シ詞ナリ、○タヤスヤ行ハント、タヤスク行フトナラントナリ、此間ノ意ハ、假初ニモオノガ位ヲアケ授クル人ヲハ、僅ニ一日二日十日二十日トフル間ニ試定ムトシ言ハ、イカ斗大キナル天下ノ大事ヲ、カロクシク行フ事トナラン、サアリテハ、誠ニヨカラヌ事ト思召シテナリ、○六年ノ内ト、原文ニハ、引トアリ、是ハ止ヲ乎ト寫誤レルナリ、上文ノ二日十日トイフト同シク五年六年ノ間ト日ヲ長クフル間ニ、ヨクミテノ意ナリ、○此宮、平城宮ヲサスナリ、○現神云々、元正天皇ナリ、○ミオヤ、元正天皇ハ、聖武ノ母君ニハマサバレトモ、世嗣ノ御祖ナレハ、カク宣フナリ、○ヒトシナミヤ、女トイハ等ナミニヤアラン、サレトモ、今我ノ此女ヲトサシテ賜ヘルハトノ意ナリ、等ナミヤト我トノ間ニ、轉接詞ヲ加ヘテミルヘキナリ、

○父トハベル、不比等ヲサス、○ヨナカアカトキ、ヨルトナク、ヒルトナクトノ意ナリ、曉ヲアカトキトイフ、アカツキトイフハ後ノ詞ナリト云リ、夜トナク晝トナク休ムコトナクトイフ意ヲ、ト文字一字ニテ見セタル、古文ノ妙處ナリ、○ハ、トヒ、ハラバヒノ寫誤ナルヘシ、上ノ詔ニモシ、マヒハラハヒト見ユ、原文ニ波々刀比トアルハ、波良比トアリシヲ波々トツ、ケテ、良ノ字缺ケテ刀トナリシナルヘシ、○ミシ、見ノ敬語ナリ、カノミソナハスハ、ミシナハスノ轉ナリ、○ウムカシキ、オムカシキト後ニハイヘリ、悦ノ字ノ意ナリ、○過ナク云々、皇后ノ御身上ニ過モナク罪モナクバナリ、○授給フ、此下ニナリノ詞ヲ加ヘテ見ルヘシ、○葛城曾津比古、建内宿禰ノ第八子ナリ、○述事、フルクヨリ行ヒコシ例ノアル事ナリトナリ、本居氏云、古ヘハ王ニアラザレハ、皇后ニハ立給フコトナシ、是種胤ヲ重クセラレシナリ、大寶ノ令ハ、漢國ノ制ニ多クヨラレタレトモ、妃スラ親王ナラデハ立給ハヌ制ニテ、妃二員四品以上トアリテ、夫人以下ニハ品トイハズ位トアリ、是等ニテモ、古ヘノ様ヲ知ルヘシ、然ルニ、仁德天皇ノ石姬命ノミハ臣ノ女ナリ、コノ外ニハ例アルコトナシ、故今聖武天皇ノ藤原氏ヲ皇后ニシ給フハ、世ノ人ノウケ引カザル事ナルガ故ニ、コレヲ引テカク宣フナリ云々、尙詔詞解ニ悉シケレ

ハ、ユキテ見ルヘシ、

第八聖武天皇立后 申詔

天皇家大命ヲマト勅給ヘル御詞ハ常ノ事ニハアラズ、ムツ事ト思召マスガ故ニ、默アルヘキ物ニアレヤトおもホシメシテ大御物タマハクト宣ル、

右ノ詔ニツヰキテ、中納言從三位阿倍朝臣廣庭、更ニ勅ヲ宣ルトアリテ、此詔カ、ゲタリ、乃重ネテ詔ヲクダシ給テ、物賜ヒシナリ、○ミコトノリ、此詞コ、ニ初テ見ユ、○常ノ事ニハアラズ、世ノ常ノ政事ニ付テ詔フニハアラズトナリ、○ムツ事、ムツマシキ夫人ヲ皇后ニタツル事トナリ、俗ニイハバ、内證内輪ノ事トイフ意ナリ、是ヨリシテ後、卅男女ノ間中ニテ語ラフコトヲムツ言トイヘリ、○ナホアルヘキモノニアレヤ、ナホハタナリ、語モセズ、ソノマ、ニシテオク心ヨリ、默止ヲナホトモヨメリ、アレヤハ、アレヨト同シク命スルナリ、全ク内證ノ事ナレハ、喧シク傳ヘズ、モダシオクヘキ物ニシテ、オケヨトオホシメストナリ、サル詔アリテ、物ヲ下シ給フハ、小者ニ物クレテ、餘リ噂セヌヤウニト口留スルガゴトク、昔ノ淳朴ナル口氣ヲ見ルヘシ、是ニテモ、ソノ頃ハ、本居氏ノイハレシゴトク、臣下ノ女ヲ皇后ニ立給ヘルコトハ、上下一般ニ怪ミ驚キ

淳風筆端ニ見
ハレテ其御聲
チ聞クカ如シ
此詔イハユル
可憐殺人ト云

見ル所ニシテ、天皇モイカバカリ御心ヲツカヒ給ヒケントゾオシハカル、立后ヲ内證事ト仰給ヘル、返々モ面白シ、○大ミモノ、親王ニ施三百疋、大納言ニ二百疋云々、五位二十疋ト見ユ

第九聖武天皇内宴ニ太上天皇ニ奏上詔

天平十五年五月癸卯、内裏ニテ群臣ニ宴ヲ賜ヒ、皇太子五節ヲ舞給ヒ、右大臣橋宿禰諸兄詔ヲ奉ジテ、太上天皇ニ奏ストアリ、皇太子ハ孝謙天皇ニテ、二十六歳ノ御時ナリ、太上天皇ハ元正天皇ナリ、五節舞ハ、此詔ニ見エタルヲ正説トスヘシト云リ、

天皇ガ大命ニマセ、奏シ給ハク、カケマクモカシコキ飛鳥ノ淨御原ノ宮ニ大八州國知ロシメシ、聖ノ天皇命、天下ヲ治賜ヒ、平給ヒテオモホシマサク、上下ヲ齊ヘ和ケテ動キナク静カニアラシムルニハ、禮ト樂ト二ツナラベテシ、平ケク長クアルヘシ、ト神ナガラモオモホシマシテコノ舞ヲ始給ヒ造リ給ヒキ、トキコシメシテ天地トトモニ絶ユルコナク、イヤツギニ承リユカシ物トシテ、皇太子ノコノ王ニ習ハシ、イナダキ持タシメテ、我大君天皇ノ大前ニ奉ツルコトヲ奏ス、

○淨御原天皇ハ天武天皇ナリ、○上下云々、全ク漢學ノ説ナリ、サレトモ、此頃ハ宋學

此詔分テ二節トス、第一節ハ天武ノ禮樂ヲ造給ヒシコトヲ叙ヘ、第二節ハ其禮樂ヲ承ツテヤテ太上天皇ノ御覽ニ入ルルヲ叙ス

ノ前ナレハ、禮樂ヲ以テ天下ヲ齊フルト云ヘル、支那三代ノ學ヲ取レル、イトメデタシ、○コノミコ、舞ヲシタマフ時ニ、サシテ宣フ故ニ、コノミコト云ヘルナリ、○我大君云々、太上天皇ヲサシテ宣フナリ、

第十太上天皇報詔並御製三首

現神ト大八州國知ロシメス朕子ノカケマクモカシコキ天皇ガ朝ノ始給ヒ造給ヘル舞ヲ、國寶トシテ此御子ヲ仕ヘマツラシメ給ヘハ、天下ニ立給ヒ行給ヘル法ハ絶ユヘキコトハナクアリケリト見聞喜侍リト奏シ給フ大命ヲ申ス、マタケフ行給フ業ヲ見ソナセハ、タニ遊トノミニハアラスシテ、天下ノ人ニ君臣父子ノ理ヲ教給ヒ趣ケ給フトニアルラシトオモホシメス、是ヲ以テ教給ヒ趣ケ給ヒナカラ、受給リモチテ、忘レス失ナハスアルヘキ表トテ、一二人ヲ治給ハナトナモオモホシメスト奏シ給フト詔給フ大命ヲ申ス、

カシコキ天皇、天武天皇ヲサスナリ、○御子ヲ、コノ下ニシテノ詞ヲ加ヘテミルヘキナリ、○君臣云々、是モ漢意ナリ、此頃ニ至テハ、漢學ノヤウトニ行ハレテ、宣命ニモ入リマジコレルサマオモフヘシ、ヤツコトハ家ノ子ノ義ナリ、後世ニイフ家來ナリ、ソレニ敬語ヲソヘタルガミヤツコナリ、ミヤハ宮ニテ天皇ノ御住居ヲイフナリ、皇居ニ

第一段ハ此舞ヲサヘ傳ヘ給ヘハ法典ノ萬世ニ絶ユヘキコトヲ喜給フ由ヲ叙フ、第二段ハ此舞ヲ以テ人倫ヲ和給フヲ叙フ、其恩トシテハ二人ノ功ヲ叙フ、テ進メ給ヘルカ由ヲ叙フ、分

仕マツル子ナリ、オミトハコノヤツコヲ尊ミテ稱スル詞ナリ、今ニテイハ、有位有爵ノ人ハオミナリ、ソノ他ハミナミヤツコナリ、臣民ノ家ニ仕フルモノハ、ヤツコナリ、
 ○給ヒナガラ、神ナガラノナガラト同シ、後世ノナガラト異ナリ、○二人ヲ治給ハナ、
 一二人ノ位ヲアゲテシカルヘキヲ取サバクナリ、給ハナハ、希望ノ詞ナリ、○大命ヲノ
 下ニ、原文ニハ奏賜ハクトイフ詞アレトモ、衍ナリ、今削リツ、上文ノ大命ヲ奏ストイ
 フ詞ト相對シテ章法ヲナセリ、

空みつ大和の國は神からし算とくあるらしこの舞みれば

空ミツハ、大和ノ冠詞ナリ、神カラハ、天武帝ヲサシ奉ルナリ、カラハ、人ガラ品ガラ
 ナドイフカラニ同シ、シハ助字ナリ、御歌ノ意ハ、此舞ヲミレバ、大和ノ國ハ尊シ、ソ
 ノ尊キハ、ソノ國ニマシ、シ神ノ德ノイタリテ尊クアルラシトナリ、第四句ニ尊クノ
 詞ヲオキテ、神ノ尊キト大和ノ尊キトヲカネタルナリ、句法味フヘシ、
 天津神御孫の命のとりもちてこの豊御酒をいまたてまつる

天津神ノ御孫ノ命ノ意ニテ、天皇ヲ申スナリ、御孫ノ命、此歌ニ正シク見エタリ、イマノ
 下ニ、朕ニノ詞ヲ加ヘテ見ルヘシ、天皇ノイロノトリモチシテ、コノ豊御酒ヲワレニ

此歌天武帝ヲ
 贊ス舞ヲユミ
 テノ御歌ユエ
 先此首ヲ首ニ
 オク

舞ヲ太上皇ノ
 覽ニ供ス、故
 ニ天皇ヨリノ
 祝辭ヲ次ニオ
 ク

舞ヲミテ報ノ
 詔アリ故ニ歌
 ノ太上皇ヨリ
 ノ祝辭ヲ最後
 ニオク、叙法
 極整

第一段太上皇
 ノ詔ヲ承テ昇
 任ヲ行給フ由
 第二段昇任ニ
 由テ奉公ヲ勳
 ムヘキ由ヲ叙
 ス

奉リ給フ辱ナサヨトナリ、

やすみし、わご大君は平けく長くいまして豊御酒まつる

安見シ、天皇ノ安ク見シ、給フナリ、平ケク安ケクオハシマシテ、天下ノ政ヲ見ソナ
 ハスナリ、詔ノ現神ト大八州國知ロシメストイフニアタルナリ、コノ詞ハ、天皇ノ冠詞
 ナリ、ミストイフヘキヲミシトイフハ、冠詞ノ格ナリト云リ、○ワゴハ、ワガ子ナリ、
 此御歌ハ、太上天皇ヨリ今ノ天皇ヲ宣フカ故ニ、ワガ子ト宣ヘルナリ、詔ノ朕子天皇ノ
 ト宣ルニアタル、○マツルハ、モト人ヨリ差アグル事ヲイフ詞ナレトモ、貴キ人ノウヘニ
 用フル時ハ、オノヅカラ召上ガル意トモナルナリ、コ、ハ、即召上ル意ナリ、上ノ歌ハ、
 天皇ヨリアゲ給フ意ナル故ニ、タテマツルトイヒ、コ、ハ太上天皇ノ召上ル意故、マツ
 ルトノミイヘリ、

第十一聖武天皇諸臣除目詔

天皇が大命ラマト勅給ハク、今日行給ヒ仕マツリ給フ業ニヨリヲ、御世ノニ當リテ供奉
 レル親王タチ大臣タチノ子ドモヲ始テ治給フヘキ、二人ドモ選給ヒ治給フ、是ヲ以テ汝
 等モ、今日詔給フ大命ノゴト、君臣祖子ノ理リヲ忘ル、コナク、繼マサン天皇カ御世ノ

第三段五節舞
ヲ皇太子ノ仕
マツリ給シニ
由テ東坊官ノ
除目アルヲ叙
ス

ニ、明キ、淨キ、心ヲ以テ、祖ノ名ヲイタ、キモチテ、天地トトモニ長ク遠ク仕ヘマツレトシテ、冠位アゲ給ヒ治給フト勅給フ大命ヲ諸聞召ヘト宣ル、又皇太子ノ宮ノ官人ニ冠一階アゲ給フ、此中ニ博士トメミ給ヘル下道朝臣眞備ニハ冠二階アゲ給ヒ治給ハクト勅給フ天皇ガ大命ヲ諸聞召ヘト宣ル、

此詔ハ、上ノ太上皇ノ詔ニツマキテクダシ給ヒシナリ、此モ橘諸兄宣命使ヲ務メタリ、○祖ノ名、先祖ノ職業ヲイフナリ、昔ハソノ姓名ハ、即ソノ職業ノ名ナレハナリ、物部、秦部、玉造、矢矧、ミナソノ職業ヲ名トセルナリ、後世トテモ、藥屋、桶屋、鍛冶屋ナトイフ家號ハ、即ソノ職業ナリ、今日ニ至テハ、此俗全ク廢レテ、人心モ隨テ散ジ、濟々ノ美、復見ルヘカラサルコトハナリス、長大息ヲ發スヘシ、○ハカセ、漢字ノ音ヲ此方ノ訓ニシタルニテ官名ナリ、コ、ハ東宮學士ヲサシテ博士ト云ルナリ、○メシ給ヘル、任スルヲメストイフ、縣召、司召、大臣召ナト、ミナ任ノ意ナリ、○マキビ、吉備ノ上ニ眞ヲ加ヘタルヲ、後ニ吉ヲ省キタルナリ、故ニマキビト唱ヘニハイフヘキナリ、マヒトイフハアラズ、眞備ハ、年二十二歳ニシテ唐ニユキ、材名ヲ海外ニ揚ケ、歸リテ文學ヲ播メ、八十三歳ニテ薨セリ、難スヘキ所ナキニシモアラザレドモ、ソノ功ハ没スヘカラ

ス、

第十二聖武天皇東大寺大佛ニ申給フ詔

三寶ノ奴ト仕ヘマツル天皇ガ大命ラマト、盧舍那ノ像ノ大前ニ申給フト申サク、此大倭國ハ、天地ノ初ヨリコナタニ、黄金ハ人ノ國ヨリ献ルコトハアレドモ、コノ國ニハナキ物ト念ヘルニ、聞召ス食國ノ中ノ東ノ方陸奥國守從五位上百濟王敬福ハ、部内ノ小田郡ニ黄金イデタリト奏シテ献レリ、是ヲキヨシメシ驚キ悦ビ貴ビ念ホサクハルサナ佛ノ惠給ヒ幸ハヘ給フ物ニアリトオモヘ受給ハリ、カシコマリ、イタ、キモチテ、百官ノ人タチ率キテ、ヲロガミ仕ヘマツルコトヲ、カケマクモカシコキ三寶ノ大前ニ、カシコミカシコミモ申給ハクト奏ス、

此詔ハ、聖武天皇天平勝寶元年夏四月甲午朔、東大寺ニ行幸アリテ、盧舍那像ノ前殿ニマシ、北面シテ像ニ對シ給ヒ、皇太子モ侍リ給ヒ、群臣百僚及士庶人ハ相分レテ、殿ノ後ニ列ナリ、勅シテ左大臣橘宿禰諸兄ヲ遣シテ、佛ニ白サシメ給フトアリ、還幸ノ後、諸兄ヲ遣ハシ給ヒシヤウニ見ユレド、是ハ猶行幸ノ時、諸兄ニ宣命セサセ給ヒシナルヘシ、○三寶ノ奴、佛法僧ヲ三寶トイヘト、コ、ハタ、佛ノ奴トナルトイフ意ナリ、天祖

第一段此國ニ
始テ黄金ノ出
タルヲ叙ス

第二段黄金ノ
出タルハ佛ノ
惠ニヨルト云
フヲ叙ス

ノ御末ニマシノテ、三實ノ奴ト稱シ給ヘル、イカナル御迷ニカアリケム、倭佛ノ害モ甚シトイフヘシ、本居氏コノ八字ヲハ、目ヲフタギテ過スヘシトイハレタル、ゲニモサル事ニシテ、オノレ此宣命ノ佛ヲ尊給フ節々ヲハ、火中ニ投シタク恐レナガラオモフナリ、○ルサナ佛、ルサナハ梵語ナリ、漢ニハ光明遍照、或ハ淨滿ト譯セリ、此方ニテハ大佛トイフ意ニ用タリ、○クガネ、昔ハコガネヲクガネトイヘルヨシナリ、○百濟王、王ハ戸ナリ、敬福卿ノ曾祖父禪廣トイフ者、初テ此國ニ歸化シ、百濟王トイフ號ヲ賜ハル、ソレヨリ姓トナレルナリ、ト本居氏云リ、按ニコニキシハ百濟ノ爵名ナリ、ソレヲトリテ姓ニ用ヒ給ヒシナリ、クヌチ、クニノウチノ約ナリ、○黄金出タリ、史ヲ按ニ、大佛ヲ造ルニトリカ、リシハ、天平十八年ニシテ、敬福ノ傳ニハ、天平年中治鑄ステニ畢リタレト、塗金足ラス、シカルニ陸奥國ヨリ驛ヲハセテ、小田郡ヨリ出タル黄金ヲ、九百兩献リシト見エ、紀ニハ天平二十一年二月、陸奥國始テ黄金ヲ貢ツル、コ、ニ幣ヲ奉ゲテ畿内七道ノ諸社ニ告クト見エタリ、即敬福ノ九百兩貢リシハ、天平二十一年二月ニシテ、此金ニテ大佛ノ上ヲ塗アケシニヨリテ行幸アリシナリ、又紀ニ天平勝寶四年四月、大佛成テ、始テ開眼、此日東大寺ニ行幸アリトモ見ユルハ、此年マテニ、萬事落成シタ

ルニヨリテ行幸ナリ、開眼式ヲ始テ舉行シ給ヒシナリ、サレハコノ大佛ハ、着手ヨリ落成マテハ、アシカケ七年カ、リシナリ、カノ大伴家持ノ陸奥國ヨリ金イデタル詔書ヲ賀スル長歌ノ短歌ニ、「すめらぎの御代榮えんと東なる道のく山にくがね花さく」トヨメルモ、コノ二十一年ノ時ナリ、ソノ黄金ノタエズイデタルコ、續紀ニ見エタリ、○ルサナ佛ノ惠ミ給フ云々、是マテハ、何事モ天神ノ惠給フト宣ヒシニ、今ハルサナ佛ノ惠ミ給フト宣フ、シバシノ間ニカクモ思想ノカハレルニヤト、浩歎ニタヘズナンアリケル、○オモヘ、コノ下ニ、バモジヲ加ヘテ見ルヘシ、カ、ル所ニ、バモジヲ省テイハザル、昔ノ詞遣ナリ、今ニソノ詞遣遺レリ、俗ニカウオモヤコソナトイフ、コノヤモジハ、ヘノ轉音ニテ、オモヘコソナリ、オモヘコソハ、オモヘバコソナリ、

第十三聖武天皇群臣百僚ニ宣フ詔

現神ト天下シロシメス倭根子天皇カ大命ヲマト宣給フ大命ヲ親王タチ、諸王タチ、諸臣タチ、百ノ官人タチ、天下ノ公民、諸キコシメサヘト宣ル、高天原ユリ、アマママシ、天皇ガ御世、天日嗣ト高御座ニマシテ、治給ヒ、惠給ヒタル食國天下ノ業トナモ、神ナガラモ思ホシメサクト宣給フ大命ヲ、諸キコシメサヘト宣ル、カク治給ヒ惠給ヒケル天日

此編六段
第一段發端
第二段皇統ヲ叙ス、是天皇ノ氏ニ文シテ宣命毎篇此一段アリ

第三段陸奥ノ
 黄金ヲ以テ大
 佛ヲ作シテ大
 天下ト共ニ大
 瑞ヲ受ケル由
 ナ叙ス、分テ
 三節トス、
 思マセバ、
 第一節黄金ノ
 出タルヲ叙ス
 思マセバ、
 王經ヲマセニ
 管到ス、
 第二節ハ神佛
 ノ恩ニヨリテ
 黄金ノ出タル
 ナノ辱ケナサ
 ナ叙ス、
 心ハ、平ガ
 ニ管到ス、
 間ニハ物ナラ
 シニ管到ス、
 天ニマシマス
 云々ハ上節ノ
 天ニマシマス
 ニ應ス、
 マタ天皇云々
 ハ上節ノ掛卷
 モ云々ニ應ス
 思ホセバ、カ
 シコマリニ管
 到ス、
 思ホセバ、カ
 シコマリニ管
 到ス、

嗣ノ業ト、今皇朕御世ニ當リテマセバ、天地ノ心ヲ勞ホシミ、イカシミ、辱ナミ、カシコ
 ミイマスニ、キコシメス食國ノ東ノ方陸奥國ノ小田郡ニ金出タリト奏シテ、献ツレリ、此
 ヲ思ホセバ、種々ノ法ノ中ニハ、佛ノ大御言シ國家ヲ護ルガタニハ、スグレタリト聞召シ
 テ、食國天下ノ國々ニ、最勝王經ヲマセ、盧舍那佛ヲ作りマツルトシテ、天ニマス神、地
 ニマス祇ヲ祈リマツリ、カケマクモ畏キ遠スメロギノ御靈ダチヲ始テ拜ミ仕ヘマツリ、諸
 人ヲイサナヒ引キテ、作りマツル心ハ禍事ヤミテヨクナリ、危キ事カハリテ全ク平ガント
 思ホシテ仕ヘマツル間ニ、諸人ハ成ラジカト疑ヒ、朕ハ金少ケムト思ホシウレヒツ、アル
 ニ、三寶ノ勝レテ怪シキ大御言ノ驗シヲカ、フリ、天ニマス神、地ニマス祇ノ相ウツナヒ
 マツリ、幸ハヘマツリ、マタ天皇ノ御靈ダチノ惠給ヒ、撫給フ事ニヨリテ、顯ハシ示シ
 給フ物ナラシト、思ホシメセバ、承リ歡ヒ、承リ貴ビ、ス、ムモシラニ、シゾクモシラニ、
 夜晝カシコマリ、思ホセバ、天下ヲ撫惠ヒ給フ、理リニイマス君ノ御世ニ當リテアルヘ
 キ物ヲ、ヲチナクタツガナキ朕ガ時ニ現ハシ示給ヘレバ、辱ナミ愧シミナモ思ホス、是
 ヲ以テ、朕一人ヤハ貴キ大瑞ヲ受給ハラシ、天下トモニイナタキ受給ハリ、喜バシムル理
 ナルヘシト神ナガラモ思ホシマシテナモ、諸ヲ惠給ヒ、治給ヒ、御世ノ名ニ文字加ヘ給ハ

ハシニ管到ス
 示シ玉ヘレハ
 ハ思ホスニ管
 到ス、
 第三節ハ、衆
 ト共ニ大瑞ヲ
 受ケル由ヲ叙
 ムル由ヲ叙シ
 下文ヲ引起ス
 第四段社寺ニ
 田地ヲ寄テ陵
 墓ニ祀典ヲ興
 給フ由ヲ叙ト
 ス分テ二節ト
 ス、
 第一節ハ社寺
 ノ神官僧尼陵守
 ノ恩典ヲ叙ス
 ノ中ニ附叙ス
 第二節ハ名臣
 ノ墓ノ第五段
 恩賞ヲ與ヘ給
 フヘキ由ヲ叙
 ス、分テ二節
 トス、
 第一節ハ群臣
 ノ由ヲ叙ス、
 第二節ハ群臣
 ノ由ヲ叙ス、
 天皇云々ハ第
 三節ノ御靈ダ
 チ云々ニ應ス
 第二節ハ群臣
 ノ由ヲ叙ス、
 殊ニ先帝ノ御

クト宣フ天皇カ大命ヲ諸キコシメサヘト宣ル、事ソケテ宣給ハク、大神ノ宮ヲ始テ、諸神
 タチニ御年代奉リ、諸祝部ヲ治賜フ、マタ寺々ニ治田ノ地許シマツリ、僧綱ヲ始テ衆僧
 ニヲ敬ヒ訪ヒ、治給ヒ、新ニ造レル寺ノ官寺トナスヘキハ、官寺トナシ給フ、大御陵守
 仕ヘマツル人ドモ、一人二人治給フ、又御世ノニ當リテ、天下奏給ヒ、國家ヲ護リ仕ヘ
 マツルコノスグレタル臣ダチノ侍ル所ニハ表オキテ、天地トトモニ人ニ侮ラシメス、穢サ
 シメス、治給フト宣給フ大命ヲ諸キコシメサヘト宣ル、マタ天日嗣高御座ノ業トマス、
 進ミテハカケマクモカシコキ天皇ガ大御名ヲ受給ハリ、シゾキテハ、母大御祖ノ御名ヲ蒙リ
 テシ、食國天下ヲハ撫給ヒ惠給フトナモ、神ナガラモ思ホシマス、是ヲ以テ諸王タチ大臣
 ノ子ドモヲ治給フイシ天皇ガ朝ニ仕ヘマツリ母ニ仕ヘマツルニハアルヘシ、シカノミナラ
 ス、掛マクモカシコキ近江ノ大津ノ宮ニ、大八州國シロシメシ、天皇ガ大命トシテ、奈良宮
 ニ大八州國知ロシメシ、我大君天皇ト御世重ネテ朕ニ宣給ヒシク、大臣ノ御世重ネテ、明
 キ淨キ心ヲ以テ仕ヘマツルコニヨリテナモ、天日嗣ハ平ケク安ラケクキコシメシ來ル、此
 事忘給フナ、棄給フナト宣給ヒシ大命ヲ承リ恐マリ、汝タチヲ惠給ヒ治給ハクト宣給フ大命
 ヲ諸聞召サヘト宣ル、マタ三國ノ真人、石川ノ朝臣、鴨ノ朝臣、伊勢ノ大鹿ノ首トモハ治給フ

ニ心出ツル由
ナ叙スル由
第六段恩典ヲ
施給フヲ叙
ス分テ五節
トス
第一節舊勳ノ
人々
第二節橋夫人
第三節大臣ノ
子孫

第四節武臣大
伴佐伯ノ男女

第五節五位六
位ノ子等此一
節零々細々ス
ハテ句讀ヲ以
テ其ノ種類ヲ

筆分ツ何等ノ細
黄金ノ發見者
ナ最後ニ叙シ
テ第一節ニ應
シ天下云々ノ
句ヲ更ニ第三
段ノ全篇ヲ總
應シ全篇ヲ總
東ス句法謹嚴
筆路暢達自是
古文ノ大雄篇

ヘキ人トシテナモ擇給ヒ治給フ一、マタ縣ノ犬養橋ノ大夫人ノ天皇カ御世カサネテ明キ淨キ
心ヲモチテ仕ヘマツリ皇朕御世ニ當テモ意リタユムコナク助ケ仕ヘマツリシ、シカノミナ
ラス、祖父大臣ノ殿門アラシ穢スコナク守リツ、アラシ、ヲ、務シミウムカシミ、忘給ハ
ストシテナモ、彦孫トモ一人二人治給フ一、マタ大臣トシテ仕ヘマツラヘル臣タチノ子ドモ、
男ノ子ハ仕ヘマツルサマニ隨テ、クサノ、治給ヒツレドモ、女ノ子ハ治メ給ハス、是ヲ以
テ思ホセバ、男ノ子ノミ、父ノ名負テ、女ノ子ハイハレヌ者ニアレヤ、立並テ仕ヘマツル
シ理リナリトナモ、オモホス、父ガカクシマニアレト思ヒテ趣ケ教ヘケムコヲ、過タス失ハ
ス、家門アラサスシテ、天皇カ朝ニ仕ヘマツレトシテナモ、汝タチヲ治給フ一、マタ大伴
佐伯宿禰ハ、常モイフゴトク、天皇カ朝ヲ守リ仕ヘマツルコ、顧ミナキ人ドモニアレバ、
汝タチノ祖ドモノイヒケラク、海ユカハ、ミヅク屍、山ユカバ、草ムス屍、大君ノ、ヘニ
コソ死ナメ、ノドニハ死ナジト、イヒクル人ドモトナモ、聞召ス、是ヲ以テ、遠天皇ノ御
世ヲ初テ、今朕御世ニ當リテモ、内兵ト思召シテナモ使ハス、故是ヲ以テ、子ハ祖ノ心ナ
スイシ、子ニハアルヘシ、此心失ハスシテ、明キ淨キ心ヲ以テ仕ヘマツレトシテナモ、男
ノ子女アハセテ、一人二人治給フ一、マタ五位以上ノ子ドモヲ治給フ、六位以下ニ冠一階ア

ゲ給ヒ、東大寺造レル人ドモニ、二階加ヘ給ヒ、正六位上ニハ、子一人治給フ、又五位以上
及皇親ノ年十三以上、无位大舍人ドモヨリ司々ノ仕丁ニイタルマテニ、大御手物賜フ、又年
高キ人ヲ治給ヒ、貧シキ人ヲ惠給ヒ、孝義アル人ノソノ事ヲ免シ給ヒ、力田ヲ治給フ、罪
人ヲ赦シ給フ、マタ書生ヲ治給ヒ、物知人ドモヲ治給フ、マタ金見出タル人、及陸奥國ノ國
司郡司百姓ニイタルマテ治給ヒ、天下ノ百姓諸ヲ撫給ヒ惠給ハクト宣給フ天皇カ大命ヲ諸
聞食サヘト宣ル、

コレヲ思ホセハ、コレヲツラノ、オモヒ給フニトイフ意ナリ、後世ノセバトイフ意ト異
ナリ、下文ミナコレニナラヒテトクヘシ、○クサノ、ノ法ノ中云々、儒教モ國家ヲ守ル
爲ナレト、ソノ色々ノ教法ノ中ニテ、尤モスクレタルハ、佛ノ教ナリトナリ、佛教ヲコノ
ウヘモナキ物ト思召シタルサマ見ルヘシ、○大御言シ、此シハ助字ナリ、此上ニハモジ
ヲ加ヘテ見ルヘシ、○護ルガタニ、タニハ後世ノ爲ナリ、萬葉ナトニモ、來ン人ノタニ
トアリ、○最勝王經ハ金光明最勝王經トテ、國家ヲ護ルコトヲ旨ト説タル經文ナリ、三藏
義淨カ譯ニテ、十卷三十一品アリ、此ヨリ後、此經ヲ轉讀スルコト、節々見ユ、諸國ニモ
アマネク頒與セラレタル者ナリ、佛敎橫流ノサマオモフヘシ、○マセ坐セノ切マリタル

詞ナリト云リ、佛ヲ安置スルナトイフ安置ヲモ、紀ニハマセマツルトヨメリ、此經ヲ諸國ノ寺々ニオカセシナリ、○遠スメロキ云々、此一句、本居氏ノ点ニ從ヒテ、カキナガセリ、始テト云ヘバ、御世ノ御靈モソノ中ニアリ、○嗣、本居氏ハワサハヒトヨマレタレトモ、下ノ危ヲアヤフキヲトヨムヘケレハ、ソレニムカヘテ、マガコト、ヨメリ、○ナラジカ、本居氏ノ点ニ從ヘリ、カハツク詞ノ下ニツキ、ヤハキル、詞ノ下ニツクハ、後世ノ詞遣ナレトモ、昔ハソノ區別ナカリシト見エテ、往々切レタル詞ニ用タリ、大佛ハ極テ大造ナレハ、人ノ案ゼシモ尤ナリ○金少ケン、天皇ハタ、金ノ少ナキヲ案ジ給ヒシナリ、ソノ御心ヲ注ガセ給ヘルサマオモフヘシ、朝野羣載ニ、此佛ニ用タル鍊金一萬四百三十六兩ト見ユトソ、夥シキ金ナリ、オモフニ、是ハ黃金斗ニテハアルマジ、金銅并テノ量目カ、○怪シキ、靈驗ノ意ナリ、○理リニイマス君、有道ノ君ヲイフナリ、○タヅカナキ、手束ナキノ義カ、手ノツケヤウナキナリ、源氏物語須磨卷ノ歌ニモ、タヅカナキ雲井ニヒトリネヲゾナクトヨメリ、○御名ノ名ニ文字加ヘ云々、天平二十一年ヲ改テ、天平感寶元年トシ給フトアル、是ナリ、感寶ノ二字ヲ加ヘ給フナリ、史ニハ、勝寶トモミユ、○大神ノ宮、伊勢神宮ヲイフナリ、○ミトシロ、神田ヲイフナリ、御年代

ノ約ナリ、年ハ稻ヲイフ、代ハ田ヲイフナリ、○ハフリハ祝部ヲヨミテ、一ノ神職ナレドモ、コ、ハ神主禰宜ナトヲモ并テイヘルナルヘシ、サテハフリトイフハ、侍ヘルナリ、ソノ神ニ仕ヘハヘルナリ、ナホ、下文ノ侍ノ所ニイフヘシ、○ハリタ、田地ヲヒラキ治ムルヲハルトイフ、即開墾スヘキ地ヲ寄進シ、或ハ買取ルヲユルシ給フナリ、○僧綱、字音ニヨムヘシ、三綱ヲイフナルヘシ、三綱トハ僧正僧都小僧都ナリ、僧尼ヲ統領セルモノニシテ、今ノ管長ノコトキ者ナリ、後ニハ僧正僧都律師ヲ三綱トセリ、僧尼令ニハ、僧綱トハ律師以上ヲイフトミユ、律師ヲ加ヘテ三綱トイフ時モ、小僧都ハ僧都ニ併セテ三綱トイヘルナリ、又別ニ諸寺ノ三綱トイフアリ、ソレハ令義解ニ、上座、寺主、都維那ナリトアリテ、各ソノ一ヶ寺ノ僧尼ヲ掌ルモノナリト云ヘリ、○敬訪ヒ、佛ニ大御言トイヒ、許奉リトイヒ、敬ヒトイフ、佛ヲイタ、キ奉リ給フサマ言語ニ絶エタリ、○官寺、官ヨリ萬事管理シ給フ寺ヲイフナリ、○ハヘル所、臣等ハ身マカリテ、慕ニ葬ラレテ後モ、尙朝廷ヲ守リ候ラフ意ニテ侍ヘルト云ヘル、國情想フヘシ、古事記ニ、大國主ノ神ノ百タラス、ヤソクマデニカクリテ侍ラント申給ヘル侍ノ意ナリ、持統紀五年ニ、十八氏ニ詔シテ、ソノ祖トモノ墓記ヲ奉ラシムトイフコトモアリト本居氏云リ、吾オ

モフニ、葬ヲハフルトヨムモ、侍ルト同シ詞ナルヘシ、ハフル、ハヘル、轉音ニテ、後世ニ至テコソハフルトイヘバ葬、ハヘルトイヘハ侍ナレ、ソノ語源ハカハラヌナリ、死ニテノ後モ、君ノ御前ニ侍リシゴトク、地下ニハベリテ君ヲ護リ奉ルナリ、コノナラハシハ、末ノ末マテモカハラサルナリ、田村丸將軍ノ東山ニ葬リテ、將軍塚ト稱シ、王城ヲ長ク鎮護シ奉ルモ、生前ニ東夷ヲ防キテ、天皇ヲ守護シ奉リシニ、聊モ異ナラス、カ、ル明キ淨キ心ナレハコソ、葬ヲシモハフルトハ云ルナレ、我國臣民ノ王室ニ忠實ナル、カクノコトシ、コレヲコレ淨キ明キ直キ心トハ、宣命祝詞ノ文ニハツネニ申給ヘルナリ、君ノ御上ニハ、貴キ高キ廣キ厚キトイヒ、臣ノ上ニハ、明キ淨キ直キ貞シキトイフ、上ナルハ君德ナリ下ナルハ臣道ナリ、君臣ノ間、互ニソノ德ヲ以テ使ヒ、ソノ道ヲ以テ仕ヘマツリ、一点ノヨコシマナル心モナク、キタナキ行モナキゾ、我國ノ萬國ニスクレテメテタキ所ナリケル、ヨクノ古言ヲ詳ニシテ、古ヘ君臣ノ間ノ厚キ直キアリサマナリシヲオモヒ、是ヨリ後千萬年ノ末マテモ、古ノゴトク仕ヘマツリテ、祖々ノ名ヲオトサス、益ソノアトヲツギテ國家ヲ守リ奉ランノ心エアルヘキナリ、○表オキテ、墓ニ標ヲタテオクナリ、萬葉十八ノ歌ニ、大伴ノ遠ツ神社ノオクツキハシルク標タテ人ノ知ルヘ

クトアル、是ナリ、○大御名ヲ受給ハリ、天皇ノ御名モ、上文ニ云ルゴトク、天皇ノ職業ナリ、天皇ノ職業ハ、天下ヲ惠給ヒ治給フナリ、故ニミコトヲスベムツトイヒ、スベラギトイフ、天下ヲ統べ給フナリ、睦マシク惠給フナリ、名實一躰、ツユモ相背クコトナシ、支那西洋ノゴトキ、ソノ業トソノ名トノ異ナル類ニハアラズ、○母大御祖ノ御名云々、母ヲ御祖ト申セハ、母大御祖ニテ、母君ノ意ナリ、母君ハ、子ヲヒタシタツルガソノ職ナリ、故ニソノ職ヲ受給ヒ蒙リ給テ、サテ天下ヲ惠給ヒ撫給フナリ、我此處ニ至テ、イヨク我御國ノ君民ノ間ハ、父子ノ間ト聊モ異ナラサルヲ知レリ、サテモ我國ハ一家族ナリ、大君ハ國父ナリ、皇后ハ國母ナリ、臣民ハ國子ナリ、君臣父子トソノ名ニハタテレ、ソノ情合ハ純然タル祖孫ナリ、國體ノ他ニ類ナキハ、何ソ怪ムニタランヤ、サテ此天皇ノ母君ハ、不比等ノ女、文武天皇ノ夫人藤原宮子ト申シ、ナリ、即光明皇后ノ御姉君ニシテ、天平勝寶六年七月ニカクレマシ、ナリ、○子ドモ、大臣タチノ子孫ヲイフナリ、○治給フイシ、イシハ助字ナリ、給フノ下ニヲモジヲ加ヘテ見ルヘキナリ、此ヤウノ詞遣、所々ニ見ユ、○奈良宮云々、元正天皇ナリ、本居云、天智天皇ノ詔給ヘルヲ、御世ノ傳ヘマセル大命ゾトテ、朕ニ詔給ヒシトイフコトヲ約ヤカニ短クイヘル

ゾ、古文ノスグレタル所ト云ヘル、誠ニシカリ、○宣ヒシク、シハ過去ナリ、クハ未タ考ヘス、宣ヒシハノ意ナリ、ハトイフヘキ所ヲ、上古ニハクトイヘルヲモアリシトシユ、○石川朝臣、建内宿禰子蘇賀、石川宿禰ガ末ナリ、○鴨朝臣、大國主神ノ後ナリ、○伊勢大鹿首、天兒屋根命ノ後ナリトアリ、右ノ一人ニハ、ミナ神代以來元勳ノ末孫ニテ、治給フヘキ故ヨシノアリシナルヘシ、○橘夫人、縣犬養宿禰東人ノ女ニテ、初メ敏達天皇ノ曾孫美奴王ニ嫁シ、後不比等公ノ繼室トナリテ、光明皇后ヲ生奉リシ御方ナリ、○大トジ、トシハ、モト戸主ノ約ニテ、女主ヲイフ稱ナリ、ソレヨリ貴キ人ノ夫人ヲバ尊ミテオホトジトイフナリ、一説ニトジマリノ約ナリト云リ、或ハシカラシ、イツレニシテモ同義ニオツルナリ、サテ夫人ニ、大ノ字ヲ加ヘテカケルハ、音讀シタルニテ、此夫人ハ、不比等公ノ室ナル故、大夫人トハ云ルナリ、○大祖大臣、天皇ノ外祖父ニテ、不比等公ヲサスナリ、○殿門、家門トイフガゴトシ、○アラシ云々、夫人ノソノ家ヲヨク守リテ、家名ヲケガシ給ハザルヲイフナリ、アラシハ、アリシノ延ニテ敬語ナリ、○イソシミ、イソハイサノ轉ナリ、シハ爲ナリ、勇ミテワザヲスルナリ、功ヲイサヲ讀ムハ勇夫ナリ、勇夫ナラザレハ功ナラザル故ナリ、○ヒコ、昔ハ孫ヲヒコト云リ、コノ産

ハ夫人ノ先キノ子橘諸兄公、同佐伯宿禰牟漏女ナトノ子トモヲイフナルヘシト本居氏云リ、○臣タチノ子トモ、此子ドモハ子孫ナリ、○治メ給ヤス、以上ハ先例ヲ宣フナリ、是ヲ以テ以下ハ天皇ノ敬慮ナリ、○イハレヌ者ニアレヤ云々、女ノ子ハ祖ノ名ヲ負フトハイハレヌ者ニアレバカシラムノ意ナリ、コノ下ニサハアレドナトノ轉語ヲ加ヘテ見ルヘシ、○汝タチヲ治給フ此中ニ男女アルヘシ、○カクシマ、カクサマト同シ、本居氏云、俗ニイキシナ、歸シナナトイフシナハ、シマヲ訛レルナリト云リ、按ニシマハサマト音通ナリ、ヨコサマヲヨコシマトイフニテシルヘシ、○大伴佐伯宿禰、大伴ハ天忍日命ノ後ナリ、佐伯ハ、大伴室屋大連ノ世ニ別レテ、ソノ子談連ノ末ナリトイヘリ、此二家ハ、武門ニテ、尤忠實ニアリシ家ナリ、○カヘリミナキ人、ワカ身ヲイサ、カモカヘリミズ、大君ニ仕ヘマツル人トナリ、○イヒケラク、本居氏ハイヒクラクトヨメリ、○大君ノヘ、君ノ馬前ニコソ死ナメノ意ナリヘハ邊ナリ、○ノドニハ死ナジ、長閑ニハ死ナジトナリ、何ノ事モナク、安ラカニ窓下ニハ死ナジノ意ナリ、萬葉十八家持主ノ長歌中ニ此句見エテ、下ノ句カヘリミハセジトアリ、コレニヨリテ、カヘリミナキ人トハ宣給ヒシナリ、○内兵トハ武人ヲイフ詞ナリ、ツハモノトヨムハ、武器ヲサシテイフ詞ナリ、後世ハ後